



令和6年能登半島地震 聴覚障害者救援活動報告書



聴覚障害者災害救援中央本部
石川県聴覚障害者災害救援対策本部

令和6年能登半島地震
聴覚障害者救援活動 報告書

目 次

はじめに

ごあいさつ 聴覚障害者災害救援中央本部 運営委員長
(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事長) 石橋 大吾氏

ごあいさつ 北信越ろうあ連盟 理事長 石川 渉氏

ごあいさつ 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長
(社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 事務局長) 吉岡 真人氏

1. 令和6年能登半島地震の概要	5
(1) 地震の概要	
(2) 人的被害・住家被害の状況	
2. 石川県におけるきこえない人・きこえにくい人・手話関係のきこえる人の被害状況	6
(1) 被災者数	
3. 石川県聴覚障害者災害救援対策本部	7
(1) 概要	
(2) 役割分担	
(3) 会議開催日	
(4) 会計報告	
4. 聴覚障害者災害救援中央本部	12
(1) 概要	
(2) 会議開催日	
(3) 会計報告	
5. 発災から今日までの主な動き	17
6. 支援物資運搬記録一覧	67

7. 1.5 次避難所における支援体制	68
8. 2次避難所での暮らしについて	69
9. 能登就労支援事業所 やなぎだハウス再開までの動き	72
10. 震災に関わる要望書一覧	74
11. 感謝状被贈呈者一覧	74
12. 開催行事一覧	75
13. 全体を振り返って	78
総括	93

(参考資料1)

1. 能登の地域性
2. 石川県の聴覚障害者数
3. 石川県のきこえない人・きこえにくい人の社会資源

(参考資料2)

一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会
「令和6年能登半島地震被害における聴覚障害者に対するメンタルケア及びアウトリーチ」
事業報告

(参考資料3)

令和6年能登半島地震石川県きこえない者およびきこえる者対象調査 アンケート集計

はじめに

2007年（平成19年）3月の能登半島地震発生を受け、聴覚障害者災害救援中央本部（以下、中央本部）は、社会福祉法人石川県聴覚障害者協会を中心に組織された「能登半島震災聴覚障害者対策本部（以下、対策本部）」と密に連携し、救援活動を展開しました。

対策本部は中央本部の支援のもと奥能登2市2町（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町）の行政と協力体制を構築し、保健師や手話通訳士、要約筆者といった専門職を動員し、聴覚障害者手帳所持者への戸別訪問による徹底した安否確認を実施しました。

この調査を通じて、中央本部と対策本部は、長年社会から孤立していた「きこえない人」の深刻な実態を浮き彫りにしました。特に対象者の中には、未就学ゆえに日本語の読み書きができず、手話言語も習得していない方々が複数存在することが判明しました。彼らは家族との限定的な「ホームサイン」のみで生活しており、周囲からは「問題ない」と見過ごされてきましたが、実際には第三者との意思疎通手段が断絶された危機的状況にありました。これを受け、中央本部は、対策本部が行政と連携してこれらの人々を対象とした交流の場を創出することを支援しました。当初は拒絶反応もありましたが、イラストや身振りを用いた粘り強い交流を継続。結果として、参加者に笑顔が戻り、継続開催を熱望する声が寄せられるまでに関係を築き上げることができました。

中央本部は、2017年（平成29年）8月、10年にわたる準備期間を経て、石川県能登町に就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」の設立を支援しました。同施設は、対策本部の指導の下、奥能登に居住するきこえない人の交流および情報収集の拠点を構築し、さらに日中の生活拠点として重要な役割を担ってきました。そこには、利用者一人ひとりの変化を見守る支援者の熱意と、手話言語で安心して過ごせる環境を支える地域の協力がありました。

しかし、2024年（令和6年）1月1日に発生した能登半島地震は、最大震度7の激震とともに津波や大規模火災を引き起こしました。道路網やライフラインの寸断により、奥能登各地で孤立集落が発生する甚大な被害となりました。これに伴い、活動拠点である「やなぎだハウス」も深刻な被害を受け、事業の一時休止を余儀なくされました。この未曾有の災害を通じて、災害時における「情報の遮断」や「手話言語による相談体制の不足」が、当事者の生活にいかにも多大な不安をもたらすかという厳しい現実を改めて再認識いたしました。

本報告書において、中央本部は、発災時に当事者や家族、支援者、行政、そして通訳者がどのように行動し、いかなる課題に直面したのかを、リアルタイムの映像や証言に基づき整理いたしました。奥能登での支援実績を糧に、有事のみならず平時から求められる「きこえない人への支援」の在り方を広く世に問い、検討の一助とすることをめざしております。

あわせて中央本部は、2025年9月から12月にかけて、全国の自治体を対象とした「災害時における聴覚障害者への戸別訪問」に関する一斉要望行動を展開いたしました。集約された回答からは、個人情報保護を理由とした名簿提供の停滞や、避難行動要支援者名簿と障害者手帳情報の連携不足といった深刻な課題が浮き彫りとなりました。これを受け、中央本部は2026年2月、内閣府・総務省・厚生労働省・気象庁の関係省庁に対し、発災後の対応の限界を指摘するとともに、平時からの迅速な支援体制構築に向けた自治体への働きかけを強く要請いたしました。

最後になりますが、対策本部の精力的な支援活動に心から敬意を表し、また復興に向けて多大なるご支援・ご尽力をいただきました関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

聴覚障害者災害救援中央本部

ごあいさつ

聴覚障害者災害救援中央本部 運営委員長
(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事長)

石橋 大吾



この度、「令和6年能登半島地震聴覚障害者救援活動 報告書」を皆さまにお届けできる運びとなりましたこと、聴覚障害者災害救援中央本部運営委員長として、深く感謝申し上げます。

本報告書は、地震発生直後からの石川県聴覚障害者災害救援対策本部および関係団体による、懸命な救援・支援活動の記録です。きこえない・きこえにくい人にとって不可欠な情報保障の確保、必要な物資の提供、そして生活再建に向けた相談支援など、現地で展開された多岐にわたる活動の様子を克明にまとめました。

これらの活動は、全日本ろうあ連盟加盟団体の皆さま、関係行政機関、そして温かいご支援をお寄せくださった全国の皆さまのご協力とご支援の賜物であり、ここに改めて深く感謝申し上げます。特に、今回の災害時の対応において深く印象に残った事例があります。能登町にある就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」を利用されていたきこえない・きこえにくい方々は、日頃から「地域のつながり」を育み、互いに支え合う関係性を築いておられました。支援者も交えたこの密接なコミュニティは、社会的・言語的な孤立を防ぐ役割を果たしていました。能登半島地震発生時にも、この平時からの「地域とのつながり」が遺憾なく発揮され、皆さまの迅速な行動と連携が、被災された方々の孤立を防ぎ、希望をもたらす大きな力となりました。

本報告書が、今後の災害時におけるきこえない・きこえにくい人への支援の教訓として広く活用され、より実効性のある支援体制の構築に繋がることを切に願っております。

当運営委員会は、今後も被災された方々のお気持ちに寄り添いながら、一日も早い生活再建と地域社会の復幸に向けて、息の長い支援を継続して参る所存です。

結びに、被災地の早期復幸と、皆さまのご健勝を心より祈念申し上げます。

ごあいさつ

北信越ろうあ連盟 理事長

石川 渉



石川県聴覚障害者協会の皆さま、日頃のご活躍に心より敬意を表します。2024年元日に突然発生した能登半島地震のことは、私にとっても一生心に残る出来事となりました。

この場をお借りし、大変恐縮ではございますが、地震発生時、私も災害必要物資を届けに金沢までは伺いましたものの、まだ能登半島の各市町へは足を運べておりません。能登にある就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」へも、以前から訪れたいと何度も考えていたにもかかわらず機会を得られず、今日に至っておりますことを大変申し訳なく思っております。

テレビニュースや北信越の集いの場などで、吉岡災害対策本部長がパワーポイントを用いて語られた災害の現状を拝聴し、改めて被害の大きさを痛感いたしました。誠にお疲れ様でございます。

新潟県も2004年10月23日に中越地震、2007年7月16日に中越沖地震が発生し、当時、私も災害対策本部として各地を巡り支援にあたったことを思い出します。あの頃も周囲の被災状況は甚大でしたが、テレビで見た輪島市の有名な朝市の火災は、言葉を失うほどの惨状で、本当に胸が締め付けられました。

2025年7月には小松市で北信越ろうあ女性研修会が開催され、私も連盟理事長として招かれ参加させていただきました。2日目の記念講演では、輪島市出身の浜野秀子様による実体験を基にした講演があり、そのお話は大変心を揺さぶられるもので、当時のご苦労が深く伝わってまいりました。

聴覚障害者にとって必要なのは、いつでもどこでも分かりやすい情報保障があることです。絵や図でも構いません。とにかく、誰もが見て理解できる情報が絶対に必要だと思います。

また、ろうあ会員の安否確認を行いたい場合も、個人情報提供ができない市町がある件は、災害時に限りもう少し緩和されるべき課題であると感じています。

あれから2年が経ち、少しずつ復旧の兆しが見えているとはいえ、心にはまだ癒えない部分が残っている方も多いことでしょう。一日も早く、皆さまの心の痛みが和らぎますよう、そしてその傷が完全に癒えることを心よりお祈りしております。

これからも、笑顔が絶えない、豊かな石川県聴覚障害者協会でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

以上、北信越ブロック代表としての挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長
(社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 事務局長)

吉岡 真人



忘れもしない令和6年1月1日午後4時10分。石川県内で、令和6年能登半島地震が発生しました。また、9月21日に能登半島豪雨が発生し、2年が経過しました。発災当初から、石川県や県内の行政、一般財団法人全日本ろうあ連盟、聴覚障害者災害救援中央本部をはじめ、全国の皆さまより、災害下における支援体制のあり方についての指導や支援金・義援金の寄付、物資支援など、温かいご支援とご協力を賜り、改めて、心より感謝を申し上げます。

巨大な地震により、奥能登地区に在住する多くのきこえない・きこえにくい人の日常生活や情報取得の機会が奪われました。このような状況の中、当協会は石川県聴覚障害者災害救援対策本部としてきこえない・きこえにくい人、また、手話関係や要約筆記関係のきこえる人の安否確認を行い、被災者サポート、居住支援、物資支援、情報・広報、会計の5つの班活動を行ってまいりました。また、被災により、通信・移動手段が確保できない会員が多数いることから、石川県聴覚障害者災害救援対策本部だけではとても対応が追いつかなくなり、聴覚障害者災害救援中央本部のご支援と連携をいただきました。就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」の地震被害の修繕や大雨被害の修繕、被災者4名へのモバイルハウス（応急仮設住宅）の提供など、多数のご支援をいただきました。特に、外部団体より多大なるご支援をいただきました。全国から、人的派遣だけでなく、救援物資調達、支援金、義援金などのご支援もいただいております。

これらの活動とご支援を通じて、私共は改めて、“人は一人だけでは生きていくことができない”ということ、また、“人の優しさ”、“人との絆”を学びました。発災から2年が経ちましたが、未だなお、復旧・復興が道半ばである能登地域の“復幸”をめざし、引き続き、支援活動の手を緩めることなく尽力してまいります。

今後も、災害関係活動は続きますが、記憶が風化する前に、当対策本部がどのように活動したのか、学び得た教訓や課題は何かを記録に残すために、本書を発刊することになりました。本書が、全国の皆さまにとって、今後の災害対策体制の整備・強化の一助となれば幸いです。最後に、発刊にあたってご尽力いただいた関係者の方々に心から御礼申し上げ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

1 令和6年能登半島地震の概要

(1) 地震の概要

2024年（令和6年）1月1日（月）16時10分頃、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生した。この地震により、石川県輪島市や志賀町で最大震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6強や6弱の揺れを観測した。

今回の地震により、石川県能登で大津波警報が発表され、金沢の観測点で80cmの津波を観測したほか、能登町や珠洲市で4 m以上の津波の浸水高を観測するなど、能登半島の広い地域で津波による浸水が認められた。

1月1日以降、県内では震度1以上の余震を2024年12月31日までの1年間で2,123回観測した。

- ①発生時刻 2024年1月1日16時10分頃
- ②震源地 石川県能登地方（震源の深さ 約16km）
- ③地震の規模 マグニチュード7.6
- ④県内の震度・震度7：輪島市、志賀町
 - ・震度6強：七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
 - ・震度6弱：中能登町
 - ・震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
 - ・震度5弱：白山市、津幡町、内灘町
 - ・震度4：野々市市、川北町

出典：石川県能登半島地震復旧・復興推進部創造的復興推進課（2025）。「石川県創造的復興プラン」。
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukkyuufukkou/souzoutekifukkousuishin/documents/souzoutekifukkouplan_1_070425_1.pdf,（参照 2025-12-12）。

(2) 人的被害・住家被害の状況

令和6年能登半島地震による人的・建物被害の状況（2025年（令和7年）10月9日14時00分時点）

市町名	人的被害(人)					住家被害(棟)						非住家被害(棟)		
	死者	うち災害関連死※	行方不明者	負傷者		小計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	小計	公共建物	その他
				重症	軽傷									
金沢市	1	1			9	10	32	253	20382			20667		195
七尾市	72	67			34	3	109	538	5088	11498		17124		5616
小松市	1	1			1	1	3	1	80	11529		11610		62
輪島市	232	131	2	215	303	752	2311	3971	4352			10634	199	11709
珠洲市	183	86		50	202	435	1756	2108	1746			5610	71	6660
加賀市						0	14	54	7121			7189		
羽咋市	5	4				7	12	62	488	3440		3990	61	569
かほく市						0	9	248	3344			3601		237
白山市	1	1			2	3			1785			1785		
能美市				1		1	1	13	3137			3151	9	
野々市市					1	1			1524			1524		
川北町						0			69			69		
津幡町				2		2	9	83	3511			3603		44
内灘町	6	6		6		12	124	565	2337			3026	29	438
志賀町	24	22		19	97	140	562	2470	4419	6	5	7462	6	3982
宝達志水町						0	12	79	1790			1881		167
中能登町	3	3		5	1	9	56	909	3377			4342	1	1649
穴水町	53	33		33	225	311	387	1289	1647			3323	28	2475
能登町	78	76		33	25	136	293	1025	4502			5820	25	4210
計	659	431	2	399	876	1936	6167	18723	91510	6	5	116411	429	38013

※災害関連死：当該災害による負傷の悪化又は避難生活等における身体的負担による疾病により死亡し、災害弔慰金の支給等に関する法律（昭和48年法律第82号）に基づき災害が原因で死亡したものと認められたもの

※非住家被害については半壊以上のみ記載

出典：石川県危機対策課（2024）。「令和6年能登半島地震による人的・建物被害の状況について」。

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/202401jishin-taisakuhonbu.html#higai>,（参照 2025-10-10）。

2 石川県におけるきこえない人・きこえにくい人・手話関係のきこえる人の被害状況

(1) 被災者数

※「令和6年能登半島地震石川県きこえない者およびきこえる者対象調査」より

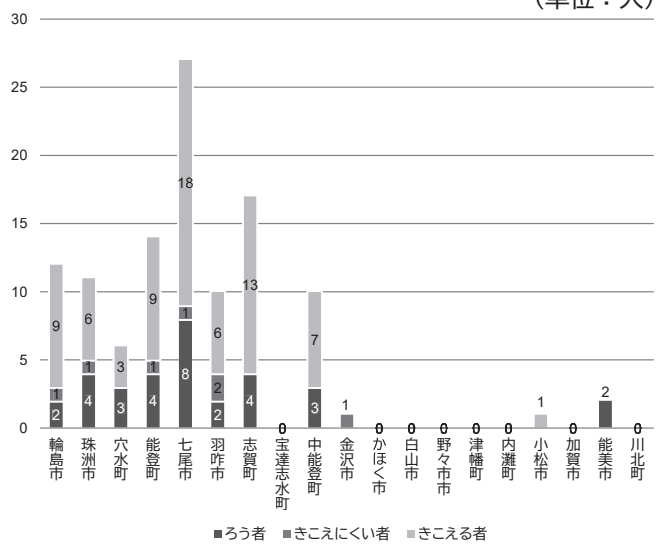
※「きこえない人」「きこえにくい人」「きこえる人」の表記については、調査実施当時の表記を尊重し、それぞれ「きこえない人」は「ろう者」、「きこえにくい人」は「きこえにくい者」、「きこえる人」は「きこえる者」としている。

■被災者の居住地

(単位：人)

	ろう者	きこえにくい者	きこえる者	合計
輪島市	2	1	9	12
珠洲市	4	1	6	11
穴水町	3	0	3	6
能登町	4	1	9	14
七尾市	8	1	18	27
羽咋市	2	2	6	10
志賀町	4	0	13	17
宝達志水町	0	0	0	0
中能登町	3	0	7	10
金沢市	0	1	0	1
かほく市	0	0	0	0
白山市	0	0	0	0
野々市市	0	0	0	0
津幡町	0	0	0	0
内灘町	0	0	0	0
小松市	0	0	1	1
加賀市	0	0	0	0
能美市	2	0	0	2
川北町	0	0	0	0
合計	32	7	72	111

(単位：人)

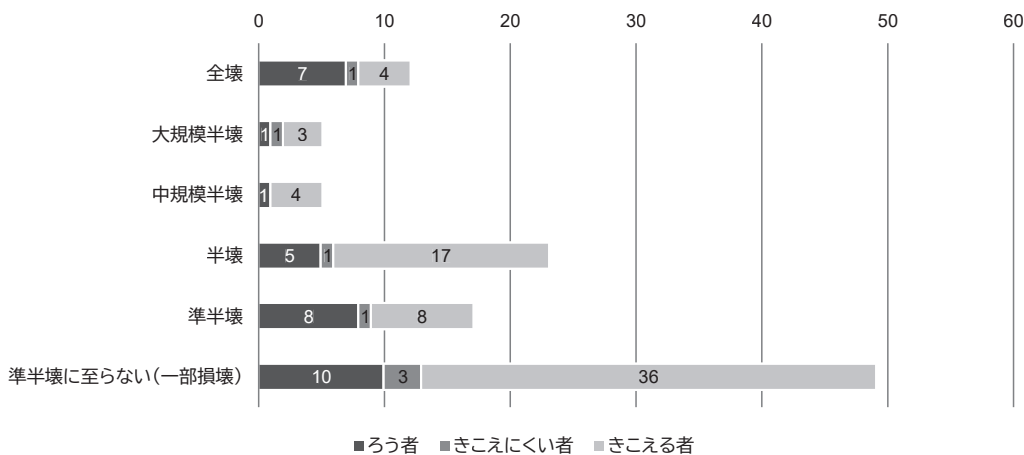


■被災者の被害の程度

(単位：人)

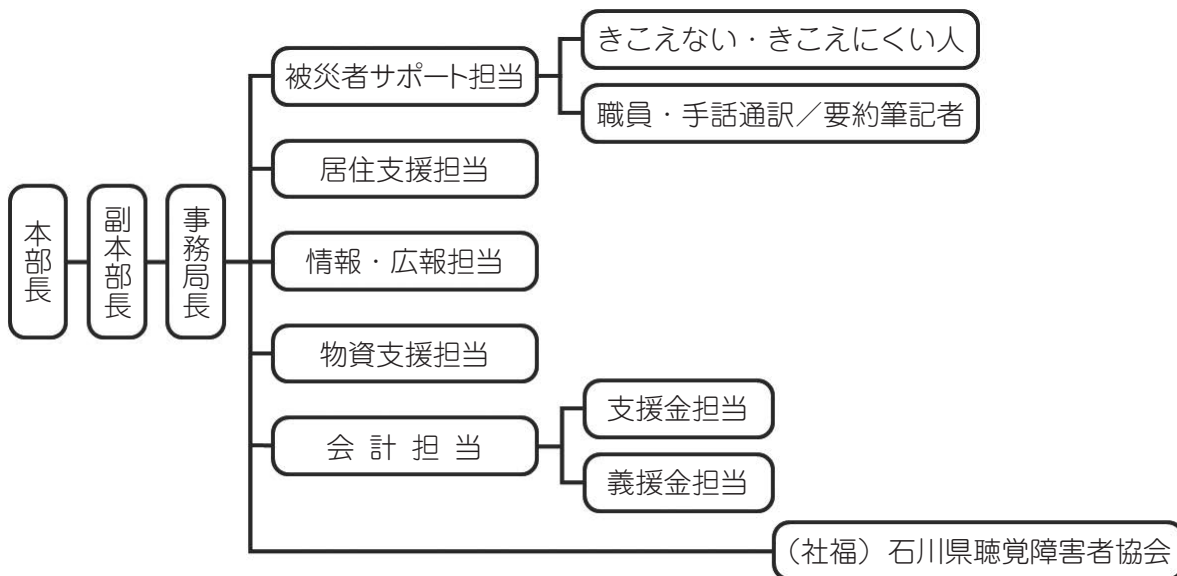
	ろう者	きこえにくい者	きこえる者	合計
全壊	7	1	4	12
大規模半壊	1	1	3	5
中規模半壊	1	0	4	5
半壊	5	1	17	23
準半壊	8	1	8	17
準半壊に至らない(一部損壊)	10	3	36	49
合計	32	7	72	111

(単位：人)



3 石川県聴覚障害者災害救援対策本部

(1) 概要



本部長	吉岡真人		
副本部長	藤平淳一	達磨 敏	西 暢三
事務局長	山科孝良	長井由美子	
会計担当			
└ 支援金担当			
└ 義援金担当	大前明日香	清水愛香	
物資支援担当	長井由美子	山科孝良	
情報・広報担当	清水愛香	酒井 一	
居住支援担当	中川英昭	堀口佳子	岩田隆光
被災者サポート担当	藤平淳一		
	倉本文代・谷内絵里・堀口佳子・山田進・門倉美樹子・ 佐藤香苗・浜野秀子・坂本美穂・小林宏美・沖田耐芽・齋藤史織		

上記担当のサポート【推進委員メンバー全員】

赤坂裕美子、岩垣豊、大倉富夫、高田昌利、徳田和世、南 武

【(社福)石川県聴覚障害者協会 職員】

聴覚障害者情報提供施設「石川県聴覚障害者センター」:

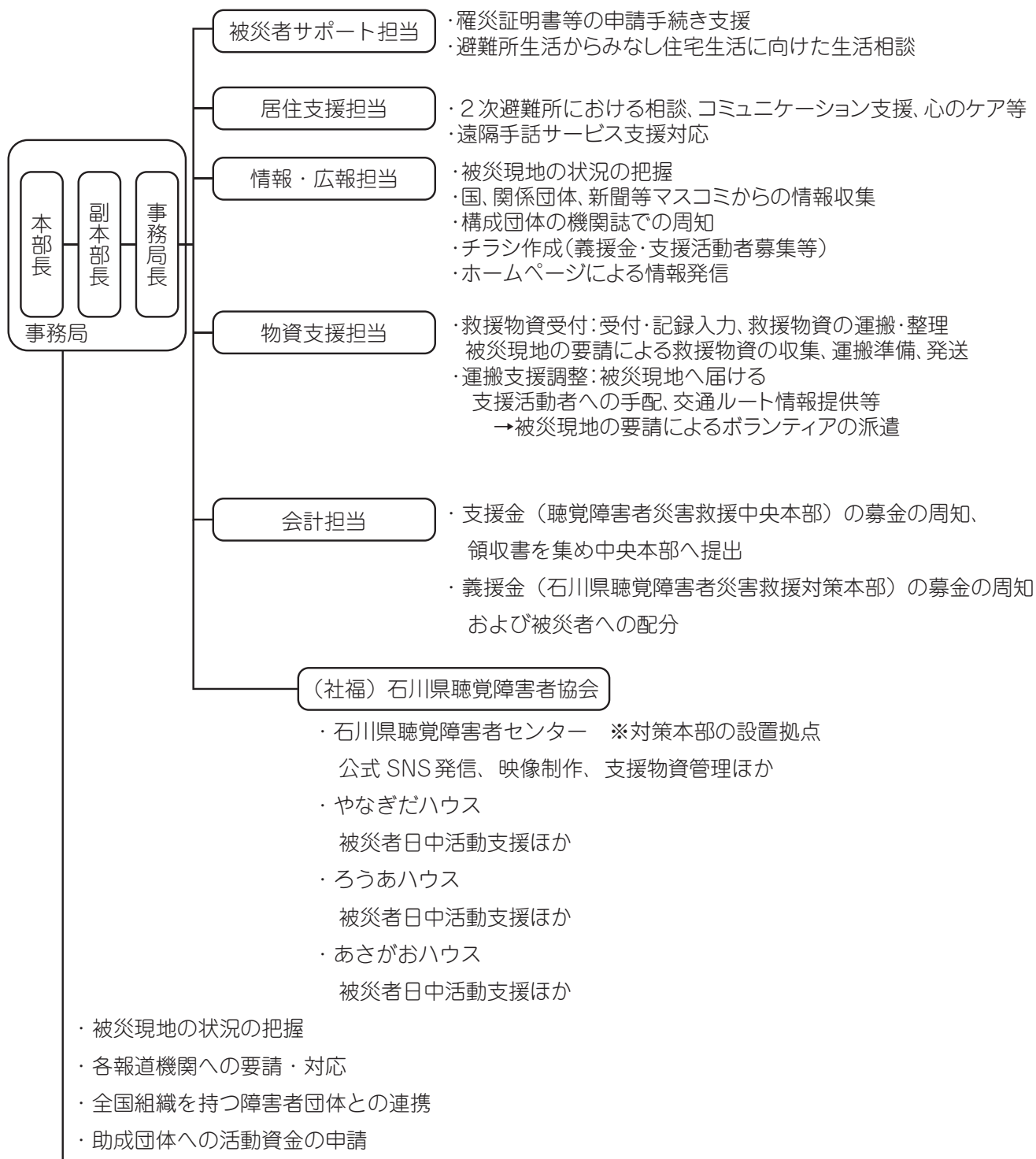
壁下潤一、渡辺由美子、森川さや香、山口美和、駒井由樹、彦谷いつみ、渡部亜樹子、本田千絵、
中嶋真優、一寸木美佑

就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」: 藪岡佳奈恵、今圭子

地域活動支援センター「ろうあハウス」: 田畠芳子、奥野弘子

地域活動支援センター「あさがおハウス」: 喜多知恵子

(2) 役割分担



(3) 会議開催日

開催日	内容
2024年 (令和6年) 1月4日	「聴覚障害者災害救援中央本部第1回対策本部会議」「北信越ろうあ連盟と各県ろう協会とのオンライン会議」の報告、被災地の現況把握と救援物資運搬についての意見交換
1月5日	1月6日、被災地に現況把握・救援物資運搬のための支援チームの派遣についての意見交換
1月7日	石川県聴覚障害者災害救援対策本部 支援活動報告会 (聴覚障害者災害救援中央本部(全日本ろうあ連盟)) 山根、梅澤 (全国聴覚障害者情報提供施設協議会) 井澤 (石川県聴覚障害者災害救援対策本部) 吉岡、達磨、西、藤平、南、山科、大倉、長井、岩田、酒井、高田、大前 (石川県聴覚障害者センター) 壁下、森川 (被災地派遣メンバー) やなぎだハウス(沖田)、志賀町チーム(山科(兼))、曾々木チーム(岡田・西(兼))、柳田チーム(加藤・山田)、松波・宇出津チーム(中川・堀口)、珠洲チーム(宮河・高田(兼))、穴水チーム(篠原・新田) (自治体設置通訳者) 谷内・堀口(兼)・山田(兼) (取材/障害者放送通信機構) 岡・斎藤 <内容> ・石川県聴覚障害者災害救援対策本部より報告 ・被災地派遣メンバー、障害者放送通信機構より報告 ・今後の支援計画について 1. 現状と推察 2. 救援物資について 3. 福祉避難所の早期設置を 4. 手話通訳の早急派遣の実施へ 5. 相談支援(心のケア)体制について 6. 救援物資運搬の人員について 7. 支援金・義援金について
1月8日	災害救援対策本部の体制(組織)の決定 —本部長、副本部長、事務局長、会計担当、物資支援担当、被災者サポート担当と最低限必要な組織を編成 —石川県聴覚障害者センター職員は、災害救援対策本部の後方支援を実施
1月15日	災害発生状況、災害救援対策本部組織、役割分担、新担当の構築、情報発信、1.5次避難所への移動、被災者兼支援者の心のケア、オンライン授業対応
1月29日	組織の見直し、義援金・支援金の集金状況、物資運搬状況、動画配信、仮設住宅、やなぎだハウスの現状、2次避難所状況
2月12日	中央本部激励訪問、義援金・支援金の状況、Amazonほしい物リストの活用、物資の状況、Skype活用、被災者自宅の応急危険度判定結果、シェアハウス、罹災証明書、2次避難所状況、災害ボランティア
3月1日	JDF災害総合支援本部会議報告、義援金・支援金の状況、請求報告、物資の状況、Amazonほしい物リスト、避難所当番、ろう高齢者向けシェアハウス視察予定
3月11日	Apple社よりiPadの貸し出し、義援金・支援金の状況、物資の状況、動画配信、避難所当番、被災者宅への貴重品回収支援
3月26日	義援金・支援金の状況、物資の状況、動画配信、避難所当番、貴重品回収支援、手話ハウス「結」視察報告、被災者の住処、国際ロータリー第2680地区よりやなぎだハウスの公用車寄贈

開催日	内容
4月8日	防災懇談会、やなぎだハウス完工式、義援金・支援金の状況、物資の状況、動画配信、避難所当番、モバイルハウス、義援金の周知文書と申請書
4月28日	※中央本部同席 やなぎだハウス完工式、被災者支援、相談機能の強化、被災者の会費、被災者支援のマンパワー
5月13日	やなぎだハウス完工式の振り返り、義援金給付対象、義援金・支援金の状況、日当、物資の状況、動画配信、避難所当番
5月28日	義援金・支援金の状況、動画配信、避難所当番、クラウドファンディング
6月10日	義援金・支援金の状況、物資の状況、動画配信、避難所当番、クラウドファンディング
7月8日	義援金給付対象、義援金・支援金の状況、物資の状況、動画配信、避難所当番、クラウドファンディング
8月6日	クラウドファンディング、モバイルハウス入所式、義援金・支援金の状況、物資の状況、動画配信、安否確認訓練
9月9日	義援金・支援金の状況、義援金給付対象、被災者の生活必需品、動画配信、防災学習会・安否確認訓練
10月15日	クラウドファンディング、義援金・支援金の状況、義援金給付対象、物資の状況、動画配信、防災学習会・安否確認訓練
11月11日	モバイルハウス、義援金・支援金の状況、義援金給付対象、物資の状況、動画配信、防災学習会・安否確認訓練
12月9日	被災者対象調査、義援金・支援金の状況、義援金給付対象、物資の状況、動画配信、モバイルハウス付近の除雪、防災学習会・安否確認訓練
2025年 (令和7年) 1月14日	クラウドファンディング、義援金の送金、物資の在庫、動画配信、防災学習会・安否確認訓練の開催報告、被災者対象調査、報告書、奥能登豪雨支援金
2月10日	やなぎだハウス作業所改修、モバイルハウスの移設、義援金追加給付、物資の在庫、動画配信、中央本部との意見交換会、報告書
3月10日	クラウドファンディング、義援金按分、物資の在庫、動画配信、外部研究への協力、七尾市への要望運動、報告書
4月14日	やなぎだハウス作業所改修、モバイルハウス、義援金の送金、物資の在庫、被災者対象調査、報告書、防災マニュアル
6月9日	やなぎだハウス作業所改修、モバイルハウス、物資の在庫、被災者対象調査中間報告
8月12日	安否確認の実施基準、中央本部オンライン説明会、やなぎだハウス作業所改修完工式、大阪府立だいせん聴覚高等支援学校交流依頼、報告書作成状況、モバイルハウス、福祉大会感謝状贈呈報告、物資支援、動画配信
10月14日	大阪府立だいせん聴覚高等支援学校交流報告、報告書作成状況、やなぎだハウス作業所改修完工式、やなぎだハウス修繕工事、仮設住宅の期限終了後の支援
12月8日	モバイルハウス居住3名の移動、やなぎだハウス作業所改修完工式、物資支援、動画配信、石川県感謝状贈呈、他団体からの義援金支給、報告書作成状況

(4) 会計報告

石川県聴覚障害者災害救援対策本部 会計収支報告（2024年（令和6年）1月1日～2025年（令和7年）9月30日）

〈収入の部〉

項目	金額（円）	備考
義援金（震災関連）	13,739,608	全日本ろうあ連盟含む
大雨見舞金	1,381,873	
支援金	6,484,749	
合計	21,606,230	

〈支出の部〉

項目	金額（円）	備考
義援金支出	14,465,000	
支援物資費	320,760	
運搬・物流費	867,316	
人件費	999,365	
ボランティア支援費	568,423	
旅費交通費	566,780	
備品・消耗品費	40,124	
式典費	323,356	
手数料	45,760	
雑費	206,278	
合計	18,403,162	

まとめ

収入合計 … 21,606,230円

支出合計 … 18,403,162円

残 高 … 3,203,068円

残高の内訳

銀行預金残高 … 3,183,327円

小口現金残高 … 19,741円

4 聴覚障害者災害救援中央本部

(1) 概要

2011年以前も、各地で地震等が発生した際には、その都度、一般財団法人全日本ろうあ連盟が中心となり対策を講じてきた。しかし、未曾有の被害をもたらした東日本大震災を機に、2011年11月、全日本ろうあ連盟（以下、連盟）・全国手話通訳問題研究会（以下、全通研）・日本手話通訳士協会（以下、士協会）の3団体が中心となり、「東日本大震災聴覚障害者災害救援中央本部」を立ち上げた。

翌年には、全国各地で多発する自然災害に対応するため、名称を「聴覚障害者災害救援中央本部（以下、中央本部）」に変更し、現在に至る。これまでに熊本地震や西日本豪雨など全国各地で発生した地域災害の救援活動を行ってきた。

2024年1月に発生した能登半島地震に際しても、中央本部は石川県聴覚障害者災害対策本部（以下、対策本部）と連携し、支援活動に取り組んでいる。

(2) 会議開催日

開催日	出席者	内容
2024年 (令和6年) 1月4日	<対策本部会議：オンライン> (連盟) 石野、大竹、石橋、久松、長谷川、 山根、内藤、兵藤 (全通研) 渡辺、桐原 (士協会) 鈴木、加藤、森川 (北信越ろうあ連盟) 石川、山科、中橋、清水 (対策本部) 吉岡、藤平	(1) 令和6年能登半島地震への対応 (2) 被害状況の報告 (3) 聴覚障害者災害救援基金（支援金）について (4) 救援物資について
1月7～ 8日	<対策本部 支援活動報告会> (中央本部) 山根、梅澤 (対策本部) 吉岡、藤平	(1) 現地視察 (2) 支援金と義援金について
2月12～ 13日	<対策本部会議> (連盟) 石野、内藤 (全通研) 桐原 (士協会) 早川	(1) 現地視察 (2) 支援金と義援金について
2月29日	<中央本部 2023年度第2回会議> (連盟) 石野、山根、河原、長谷川、内藤、 兵藤 (全通研) 渡辺、桐原、曾我部 (士協会) 鈴木、森川	(1) 2023年度中央本部事業報告・決算中間報告 (2) 地域災害支援班からの報告 (3) 災害見舞金の承認について (4) 能登半島地震支援について (5) 2024年度事業案・予算案
4月28日	<対策本部会議> (連盟) 石野、山根、兵藤、住吉 (全通研) 桐原 (士協会) 鈴木 (全国聴覚障害者情報提供施設協議会) 井澤 (対策本部) 吉岡、山科、藤平、中川、清水、 浜野、酒井、達磨、高田、堀口、大前、長井	(1) 令和6年能登半島地震への対応 (2) 被害状況の報告 (3) 聴覚障害者災害救援基金について

開催日	出席者	内 容
4月29日	<修繕完工式> (連盟) 石野、山根、兵藤、住吉 (全通研) 渡辺 (士協会) 鈴木	やなぎだハウス修繕完工式参列
8月29日	<入居式> (連盟) 石橋、瀬川	「みんな奥能登におかえりなさい会」第3柳田団地(奥能登ろう者の村)入居式参列
9月4日	<中央本部 2024年度第1回会議> (連盟) 山根、石橋、藤平、深川、瀬川 (全通研) 渡辺、桐原、福田 (士協会) 鈴木、森川、江尻	(1) 2024年度中間決算(案) (2) 2024年3月～8月に発生した災害の状況報告 (3) 南海トラフ地震(巨大地震注意)への対応について (4) 令和6年能登半島地震への支援について (5) 災害見舞金の承認について (6) 2024年度中央交渉について (7) ダイドーグループホールディングス株式会社(災害救援自動販売機)について (8) BCP(事業継続計画)について
9月30日	<中央本部 臨時三役会議> (連盟) 石橋、山根、瀬川 (全通研) 渡辺 (士協会) 鈴木	(1) ソーシャルワーカーと生活支援員の派遣について
10月9日	北摂聴覚障害者センターほくほくより、西田美和氏を派遣	能登半島地震・豪雨災害被災地援助
10月25日	<中央本部 2024年度第2回会議> (連盟) 石橋、山根、藤平、瀬川 (全通研) 渡辺、岡田、桐原 (士協会) 渡部、森川、江尻	(1) 能登半島の大雨特別警報に係る経緯報告 (2) 災害救援基金報告 (3) 見舞金について (4) やなぎだハウスのリフォームについて (5) 残金(10/21現在)の用途について (6) 2024年度中央交渉について (7) JDF能登半島地震支援センター報告会(仮称・案)
12月19日	<2024年度中央交渉> (連盟) 石橋、山根、瀬川 (全通研) 渡辺	内閣府、総務省、厚労省、気象庁へ要望
2025年 (令和7年) 1月24日	<対策本部会議> (連盟) 石橋、山根、瀬川 (全通研) 渡辺 (士協会) 鈴木 (対策本部) 吉岡、藤平、長井、山科、清水	(1) 北能産業(株)との見積書について面談報告 (2) やなぎだハウス職員体制について (3) 災害救援基金と義援金のカンパの終了について (4) 報告書作成について

開催日	出席者	内 容
2月27日	<p><中央本部 2024年度第3回会議> (連盟) 石橋、山根、藤平、深川、瀬川 (全通研) 渡辺、桐原、福田 (土協会) 鈴木、渡部、森川</p>	(1) 能登災害活動について (2) 2024年度内に発生した災害の状況及び事務局よりの警報注意通知について (3) 2024年度中央交渉について (4) ダイドードリンコ株式会社よりの「災害救援自動販売機」設置について (5) 能登地震&大雨被災による支援基金の募集の締切について (6) やなぎだハウスのリフォームについて (7) 2024年度中間決算案および2025年度事業案・予算案 (8) 役員の任期終了に伴う手続きについて (9) 全日本ろうあ連盟評議員会への質問・提案の回答内容について
7月11日	<p><中央本部 2025年度第1回会議> (連盟) 石橋、山根、藤平、深川、瀬川 (全通研) 渡辺、岡田、福田、阿部 (土協会) 鈴木、渡部、江尻</p>	(1) 加盟団体による全国統一要望行動について(戸別訪問) (2) 各省庁への中央交渉について (3) やなぎだハウスリフォーム契約書について (4) 2024年度中央本部決算書承認
12月5日	<p><やなぎだハウス作業所改修完工式> (連盟) 石橋、山根 (全通研) 渡辺 (土協会) 鈴木</p>	やなぎだハウス作業所改修完工式参列
2026年 (令和8年) 2月9日	<p><中央本部 2025年度第2回会議> (連盟) 石橋、久松、山根、深川、瀬川 (全通研) 渡辺、岡田、福田 (土協会) 鈴木唯、渡部、江尻</p>	(1) 加盟団体による全国統一要望行動について(戸別訪問) (2) 各省庁への中央交渉について
2月26日	<p><2025年度中央交渉> (連盟) 石橋、久松、山根、瀬川 (全通研) 渡辺、築山 (土協会) 阿部</p>	内閣府、総務省、厚労省、気象庁へ要望

●聴覚障害者災害救援中央本部 (2026年1月9日現在)

役職名		氏名	所属	
運営委員会	常任運営委員	運営委員長	石橋 大吾	連盟 理事長
		副運営委員長	渡辺 正夫	全通研 会長
		副運営委員長(会計担当)	鈴木 唯美	士協会 会長
		事務局長	久松 三二	連盟 事務局長
		事務局次長	山根 昭治	連盟 本部事務所長
		地域災害支援班	岡田 聡	全通研 理事
	渡部 芳博		士協会 理事	
	事業運営委員	地域災害支援班	藤平 淳一	連盟 理事
			福田八重子	全通研 理事
			江尻さつえ	士協会 福島県支部
			深川 誠子	連盟 理事
			阿部 恵子	全通研 関東推薦
			鈴木 英子	士協会 広島支部
	監事		近藤 龍治	連盟 監事
		木下 博	全通研 監事	
		川根 紀夫	士協会 監事	

(3) 会計報告

聴覚障害者災害救援中央本部会計 能登半島地震・豪雨支援関連決算書

収 支 計 算 書

〔2024年1月1日～2026年3月5日〕

【収入の部】

(単位：円)

科 目	2023年度 (24年1月～24年 3月)	2024年度 (24年4月～25年 3月)	2025年度 (25年4月～26年 3月)	通算決算	備 考
支 援 金 収 入	25,181,021	13,212,670	55,614	38,449,305	災害救援基金
雑 収 入	0	41,694	0	41,694	
合 計	25,181,021	13,254,364	55,614	38,490,999	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	2023年度 (24年1月～24年 3月)	2024年度 (24年4月～25年 3月)	2025年度 (25年4月～26年 3月)	通算決算	備 考
事業費	8,825,422	7,047,758	11,260,394	27,133,574	
旅 費 交 通 費	329,738	793,292	305,052	1,428,082	現地視察等
災 害 支 援 費	8,492,754	6,237,286	9,900,000	24,630,040	能登支援経費（見舞金含む）
印 刷 費	0	0	1,051,852	1,051,852	能登報告書1,000部
雑 費	2,930	17,180	3,490	23,600	ボランティア保険、見舞金振込手数料他
管理費	50,965	121,075	5,684	177,724	
旅 費 交 通 費	0	912	5,684	6,596	
通 信 費	12,696	0	0	12,696	発送費
印 刷 費	30,580	2,860	0	33,440	救援基金チラシ
雑 費	7,689	117,303	0	124,992	振込手数料・残高証明発行手数料
支 出 合 計	8,876,387	7,168,833	11,266,078	27,311,298	
収支差額	16,304,634	6,085,531	-11,210,464	11,179,701	

5 発災から今日までの主な動き

日付	時間	状況
2024年 (令和6年) 1月1日	0:00	2024年（令和6年／甲辰（きのえたつ））元日を迎える
	16:06	能登地方を震源としたマグニチュード5.5（最大震度5強）地震発生（前震）
	16:10	マグニチュード7.6（最大震度7）地震発生
	16:18	マグニチュード6.1（最大震度5強）地震発生
	16:56	マグニチュード5.7（最大震度5強）地震発生



© 2024 株式会社プラスヴォイス



© 2024 株式会社プラスヴォイス




© 2024 株式会社プラスヴォイス


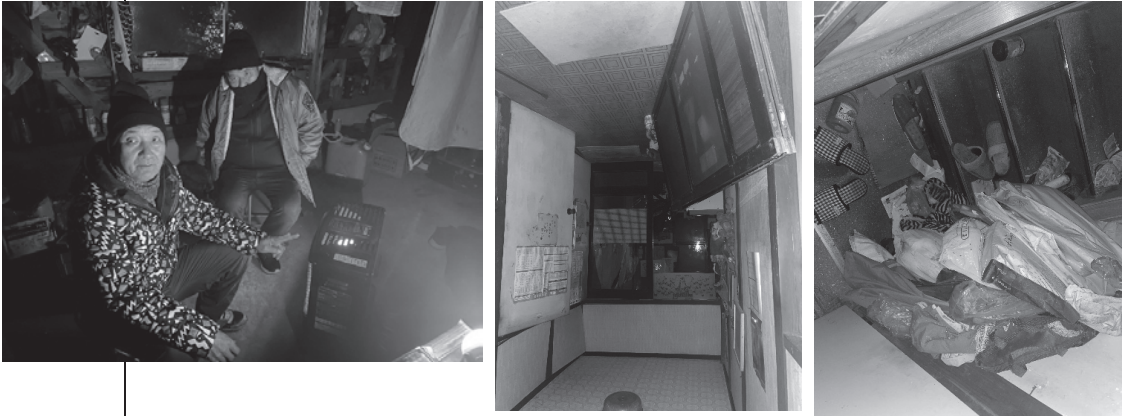


© 2024 株式会社プラスヴォイス


日付	時間	状況
1月1日	17:30	<p>石川県聴覚障害者センターに集合（藤平施設長、大倉高齢部長、壁下事務長）。石川県聴覚障害者センターは、ビデオライブラリーのDVDの落下程度で、大きな被害がないことを確認する。</p> <p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部立ち上げのための準備開始。 県ろう協会、石通研、県サ連、県要連の役員招集。</p> <p>県ろう協会、石通研、県サ連、県要連に対し、会員の安否確認の進捗を確認。</p>
<p>コラム：全国の仲間や各団体より、安否の確認・被災状況を心配する声・救援物資の問い合わせが次々入ってくるが、一つひとつ返答が厳しいことから、動画の発信が必要不可欠となってきた。</p>		
<p>NHK Eテレで放映予定だった手話ニュースが放送中止。</p>		
<p>コラム：石川県聴覚障害者センターに待機して情報収集したが、手話言語による情報入手の手段がひとつ強制的に閉ざされてしまった。ろう者としても、きこえる人との情報格差を拡大させるような深刻な問題と実感。</p>		
<p>吉岡事務局長が石川県聴覚障害者センターに到着。</p>		
<p>コラム：金沢市内でも一部の道路で陥没や土砂崩れが発生し、交通渋滞が生じている。元日の夜という状況の中、4名が石川県聴覚障害者センターに集まった。</p>		
		<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部の立ち上げ。</p>
	19:10	<p>動画発信 安否確認の動画 1本配信</p>
	19:23	<p>動画発信 安否確認の動画 1本配信</p>
	20:35	<p>マグニチュード4.6（最大震度5弱）地震発生 <その日、震度5弱以上の地震が5回発生></p>
	21:29	<p>動画発信 安否確認の動画 1本配信</p>




日付	時間	状況
1月1日		<p>コラム：人命救助のタイムリミットは72時間。72時間を過ぎると生存率が大幅に低下する。きこえない人やきこえにくい人が家屋の倒壊に巻き込まれた場合、どのように助けを呼ぶのか？ いつ来るか分からない救助を待ち続ける不安はどれだけのものか。安否確認ができていないろう者たちに一刻も早く情報を届けたい一心で、安否確認の動画を発信した。</p> <p>動画は、きこえない・きこえにくい人を対象としたことから、手話言語と字幕のみ（音声なし）とし、スピードを優先した。</p> <p>発災直後は、藤平副本部長、大倉がスマホで撮影し、手話言語動画をアップしていた。その後、清水が、スマホのアプリで字幕を付加した。これ以降は、手話言語・字幕での発信で対応することとした。</p> <p>コラム：対策本部のある金沢市内にいても、かなりの揺れを感じた。震源地に近い能登地区のことが、心配される。</p>
1月2日		<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部の主なメンバーが集合。</p> <p>【県ろう協会】吉岡、藤平、大倉</p> <p>【金沢市ろう協会】吉岡（兼）、藤平（兼）、福村、酒井</p> <p>【石通研】長井</p> <p>【県サ連】大前、高田</p> <p>【石川県聴覚障害者センター】藤平（兼）、壁下、彦谷、駒井</p> <div data-bbox="304 992 858 1404" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="874 992 1433 1404" data-label="Image"> </div> <p>県ろう協会、石通研、県サ連、県要連の会員に対して安否確認を実施。会員名簿と照らし合わせながら、確認の取れた情報（避難状況）等をホワイトボードに書き込む。</p> <div data-bbox="445 1574 866 1809" data-label="Image"> </div> <p>→4ろう協会（かほく、野々市、白山、加賀）の会員全員の安否確認完了 →ろうあハウス、あさがおハウスの利用者全員の安否確認完了</p> <p>コラム：奥能登・羽咋・七尾・金沢・小松能美の各ろう協会の安否確認がまだ完了できていない。特に、奥能登ろうあ協会は安否確認できるような状況にない。そのため、やなぎだハウス職員に協会会員、利用者、職員、関係者の安否確認を依頼した。</p>



日付	時間	状況
1月2日	9:30	<p>株式会社プラスヴォイス代表取締役の三浦宏之氏（以下、プラスヴォイス三浦氏）が来局。</p>  <p>三浦氏よりプラスヴォイスの遠隔手話通訳サービスの使い方をご説明いただく。</p> <p>対策本部より三浦氏に、被災地における、奥能登地域のろう者の安否確認を依頼。</p>
<p>コラム：時間が経つにつれ、被害が県内全域に及んでいることが明らかになった。「連絡が取れない場合、直接現場に出向いてほしい」と県内関係者に頼める状況にないことを悟る。そんな時、県外からの支援者三浦氏の「お手伝いしましょうか」という言葉がまことにありがたいものであった。三浦氏は、すぐに能登へ出向いてくださった。今後も、大規模震災が起きた時に、被災していない地域の関係団体がすぐに駆け付け、生存率が低下する72時間以内に生存確認の支援を行うことは重要と考える。その際は、悪路に耐えうる燃費の良い車両が必須である。</p>		
<p>各地の被災状況の確認、能登方面のルート確保のため情報収集を行う。</p>		
<p>コラム：テレビなどのマスコミ媒体を通じて、能登全体の被災状況が甚大であることを改めて知る。安否確認は一向に進まない…。直接会って確かめる必要性を感じる。能登入りを考え、該当する地域へ行けるルートの調査を開始した。しかし、通行止めらしき道が多く、情報は限定的。道路の陥没は地震直後だけでなく、時間の経過とともに発生する陥没もある様子。つい先ほどまで通れた道が、今は通れないなど、安全なルートは皆無に等しいことを知る。</p>		
<p>10:17 マグニチュード5.6（最大震度5弱）地震発生</p> <p>17:00 ろう協会会員の奥能登6名、金沢5名、小松能美6名の安否確認が取れていないと報告がある。</p>		
<p>コラム：震災発生から40時間を過ぎても、複数の会員の安否確認が取れなかった。人命にも関わる問題のため、対策本部も焦りが見えてきていた。スマホを持たない、もしくはスマホを家に置いたまま避難した人が居るのではないかと。また、一部の地域では停電が継続しており、FAXが使えない。基地局が被害を受け、スマホの電話回線だけでなく、メール、インターネット回線も不通となっており、打つ手がなかった。</p>		
<p>能登方面のルートを調べるが、土砂崩れ・道路の陥没などで通行止めの道が多く、救援物資を届ける、支援に行くことも難しい状況であった。</p>		
<p>コラム：それでも三浦氏の後方支援（ルート探し）を可能な限り実施した。能登地域のろう者とは、スマホでの連絡（LINEやビデオチャット）ができず、依然として現況がつかめない。</p>		




日付	時間	状況
1月3日	14:00	<p>やなぎだハウス沖田職員と障害者放送通信機構職員3名が、車両2台に救援物資を積んで、奥能登へ出発。</p> 
	17:00	<p>安否確認の報告あり →七尾中能登ろうあ協会の会員全員の安否確認完了。</p>
	17:40	<p>動画発信 全国の仲間に安否や近況の報告動画配信</p>
		
	19:20	<p>沖田職員と障害者放送通信機構職員はS兄弟宅（穴水町）に到着。 S兄弟は近隣の避難所に行くが、避難所の定員オーバーの上、ウイルス感染を恐れ、自宅前のガレージに車を止め、車内生活を続けていた。</p> 
<p>コラム：S兄弟は、普段からご近所とうまくコミュニケーションが取れないことを気にしており、地域の避難所に滞在したくないとのこと。自車のガソリンも残りわずか。エンジンをかけることは諦め、服を重ね着して過ごす。夜には零下になる狭い車中で、兄弟2人は13日間を耐え抜いた。発災から数日後には自宅から電気ストーブを持ち出したようだが、広いガレージには隙間風が吹き、暖は取れなかったとのこと。</p>		






日付	時間	状況
1月3日	21:00	<p>沖田職員と障害者放送通信機構職員は能登町方面へ向かうも、道路は陥没、度重なる余震に、これ以上の前進は困難と判断し、道の駅「なかしまロマン峠」（能登中島）まで戻り、仮眠を取る。</p> <p>（能登全体が停電しており、車のライトだけでは道路の陥没の状況が視認できず、夜間の移動は危険であると判断）</p> <p>奥能登4名（輪島市3名、穴水町1名）の安否確認が取れていない。</p> <p>輪島市3名のうち、やなぎだハウスの利用者がグループホームに入所している2名（輪島市）について、施設職員に連絡し、やっと電話が繋がったものの、2名の避難先を把握できていない状況であることを伺う。</p> <p>プラスヴォイス三浦氏に2名の探索を依頼。</p> <p>能登地域では多くの地域で停電、断水が続いている。</p> <p>道路が遮断され、多くの集落で陸の孤島状態が続く。</p> <p>能登地域内のガソリンスタンドもすべて閉店状態。</p> <p>自衛隊のヘリ部隊による救援物資の輸送は、「1月4日に実施見込み」と、ニュースが流れる。</p> <p>▲奥能登地域の登録手話通訳者4名の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出入りできる道がすべて遮断され、陸の孤島状態。（浜野職員） ②家族とともに関東の実家に帰り、状況確認中。 ③自宅が被害を受け、支援活動にあたれない状態。 ④被災した自宅は水平を保っていない状態だが、通訳活動に奔走。（佐藤所長）
<p>コラム：能登全体が被災し、能登地域の手話通訳者は動けない状態。道路状態により金沢から派遣することもできない状況である。結果的には1ヶ月間も佐藤所長1人が奥能登地域のすべての手話通訳を担う形となってしまった。緊急災害時とはいえ、手話通訳者の健康状態をかんがみると、猛省すべき案件である。</p>		
<p>コラム：奥能登地域の登録手話通訳者は歯がゆい思いをしている。自身も被災しており、ろう者を支援できない自分に対して、辛い気持ちに駆られたという。</p>		
<p>▲奥能登地域の要約筆記者も被災を受け、稼働できない状態が続く。</p> <p>「O氏、金沢市への搬送失敗」と連絡を受ける。</p> <p>（人工透析患者であるO氏は、通常週3日（火木土）、通院が必要。発災日は月曜日だったため、1月2日（火）に珠洲市総合病院に行く必要があったが、病院から佐藤所長に「まだ来ていない」と電話連絡があった。2日（火）中に佐藤所長と珠洲市福祉課担当者が3か所の避難所を探し、O氏を見つけ、3日（水）7:30に珠洲市総合病院に連れて行く。他の透析患者約20名の患者とともに金沢に搬送することになったが、悪路のため珠洲市に戻ることもなかった。</p> <p>また、3日（水）19:00に自衛隊のジムニーで再出発するも、タイヤがパンクしたため珠洲市に戻ることもなかった）</p>		
<p>コラム：O氏いわく「震災発生後は停電のためテレビが見られなかった。そのため、情報がまったく入らず、バス停で病院行のバスをずっと待っていた。バスは1度も来なかった」と。</p>		



日付	時間	状況
1月3日		<p>【安否確認情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥能登（会員数12名）…安否確認ができていない人がいる。安否確認ができて、停電や断水などでインフラが使用できない。被災者のスマホのバッテリー切れのため、継続した支援ができない。 ・七尾中能登（会員数13名）…1名が避難所で待機していたが、本日は自宅へ。 ・羽咋（会員数9名）…志賀町の3名とも避難所で待機、断水あり。 ・かほく（会員数22名）…全員、安否確認をとることができた。 ・金沢（会員数117名）…3名が未返信（FAX）で安否確認できず。 ・野々市（会員数18名）…全員、安否確認をとることができた。 ・白山（会員数26名）…全員、安否確認をとることができた。 ・小松能美（会員数39名）…1名が未返信（FAX）で安否確認できず。 ・加賀（会員数8名）…全員、安否確認をとることができた。 ・盲ろう者…（会員5名）全員、安否確認をとることができた。 <p>プラスヴォイス三浦氏は、佐藤所長と一緒に珠洲市のN氏、O氏を支援。</p> 
1月4日	9：00	<p>O氏、珠洲市総合病院から金沢市内大学病院までヘリコプター等で搬送。即時、大学病院に入院。対策本部より急遽、ろうあ相談員と手話通訳者（石川県聴覚障害者センター職員）を派遣。</p> <p>コラム：前日（1月3日）に2回、搬送失敗。さらに、命にかかわる透析患者であったため、自衛隊のヘリコプターを要請したらしい。O氏は「たったの40分で金沢に着いた」と喜んでいた様子。（平常時は車で2時間半の距離）</p> <p>14：00 聴覚障害者災害救援中央本部「第1回対策本部会議」を開催（オンライン）</p> <p>コラム：発災から4日経過し、聴覚障害者災害救援中央本部と石川県聴覚障害者災害救援対策本部の初めての会議。中央本部と対策本部が連携しながら被災者の支援をしていくことについて確認できた。</p> <p>16：00 安否確認の報告を受ける。 →2ろう協会（金沢、小松能美）会員全員の安否確認完了。</p>



日付	時間	状況
1月4日	18:00 19:00	<p>北信越ろうあ連盟と各県ろう協会とのオンライン会議</p> <p>【北信越ろうあ連盟】 石川、山科</p> <p>【石川県聴覚障害者災害救援対策本部】 吉岡、達磨、藤平、清水</p> <p>【福井県ろうあ協会】 遊津</p> <p>【社会福祉法人富山県聴覚障害者協会】 中橋</p> <p>【一般社団法人新潟県聴覚障害者協会】 米津</p> <p>【社会福祉法人長野県聴覚障害者協会】 松原</p> <p><内容>救援物資について</p> <p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部 第1回会議</p> <p>北信越の仲間（福井・富山・新潟・長野）に、各県からの救援物資の持ち込みを依頼。</p> <p>対象品は、「水1ケース（2L×6本）／カイロ／毛布／寝袋／ランタン＋乾電池／食糧等」とし、救援物資を現地に届けるタイムリミット（1月6日8時30分）までの運搬を依頼。（購入費や交通費は、聴覚障害者災害救援中央本部が補填予定であることを説明）</p>
<p>トピック：石川県内では、「食料品や飲料品等を確保したい」もしくは、「能登地域へ送りたい」という心理が働いていたのか、コンビニやスーパーの商品棚に食品が何も無い状態。また、県外から石川県内への流通がほとんど止まっていた。</p>		
	22:56	<p>動画発信 「救援物資を届けるメンバーの募集」「救援物資に必要な物品の紹介」による動画2本配信</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="199 1153 805 1489" style="text-align: center;">  <p>奥能登に届ける人を募集しております。</p> </div> <div data-bbox="821 1153 1428 1489" style="text-align: center;">  <p>みなさんからたくさんの協力をいただきました。</p> </div> </div>
1月5日	9:00	<p>当対策本部の山科事務局長が、羽咋郡市（羽咋市、志賀町、宝達志水町）を廻り、安否確認・救援物資を運搬。</p> <p>志賀町在住のろう者4名、通訳者2名と会い、状況を確認する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>

日付	時間	状況
1月5日	12:00	<p>馳浩県知事は「能登へ向かう道路の渋滞で大変困っている、不要不急の能登への外出は控えてほしい」「個別や一般ボランティアもまだ控えて」と協力を求める声明を出す。</p> 
<p>トピック：金沢から能登方面へ向かうには、通行できない道路が多かった。限られたルートを使って人命救助、道路や電気、水道などのライフラインの復旧に使用する緊急車両、避難所などへの物資運搬車両が通行し、大規模な渋滞が発生。支援が遅々として進まない現状を表していた。</p>		
	16:00	<p>安否確認の報告を受ける。 →羽咋郡市ろうあ協会の会員全員の安否確認完了。</p>
	19:00	<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部 第2回会議</p>
<p>コラム：きこえない・きこえにくい人の被災情報が想像以上に収集できない。その焦りからか、被災地派遣チームは、翌日、1月6日に出発することを最終決定する。しかし、「県知事の『不要不急の能登への外出は控えてほしい』という声明に反するため、派遣を控えるべきではないか」という意見も多数出た。当対策本部の三役も意見がまとまらない。 しかし、被災地のろう者のことを考え、1月6日の被災地派遣を強行突破することに。「身の安全が確保できない」「2次災害が起きたらどうするのか」など、当対策本部内でも意見が大きく分かれ、重苦しい空気が広がった。対策本部の一体性が揺らぐのではないかと懸念される場面となった。</p>		
		


日付	時間	状況
1月5日		<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>被災地派遣チームは6台に分かれて出発することから、訪問する被災者を決め、運搬支援者のグループ分け、ルート探し、ボランティア保険加入等の手続きを実施。</p>
1月6日	<p>5:26</p> <p>8:00</p> <p>9:00</p>	<p>マグニチュード5.3（最大震度5強）地震発生</p> <p>被災地派遣5チーム10名（車両1台（1チーム）：ろう者1名・きこえる人1名）に、目的（救援物資の運搬、現況把握）や、派遣にあたっての留意点などを説明。</p> <p>※6チーム派遣予定だったが、輪島市町野町へ入ることが厳しいと判断し、最終的に5チームの派遣となった。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>北信越4県（新潟・長野・富山・福井）の聴覚障害者協会より救援物資が石川県聴覚障害者センターに届く。</p> <p>被災地派遣5チームが石川県聴覚障害者センターより目的地へ出発。</p>


日付	時間	状況																																						
1月6日		<p style="text-align: center;">被災現地への運搬担当 (2024年1月6日)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>被災者</th> <th>訪問先</th> <th>運転者</th> <th>同乗者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 曾々木</td> <td>H氏</td> <td>曾々木ふるさと体験実習館</td> <td>O氏(R)</td> <td>N氏(K)</td> </tr> <tr> <td>② 柳田</td> <td>N氏、S氏 U氏、Y氏</td> <td>寺分集会所、鈴ヶ嶺集会所 自宅(藤波・笹川)</td> <td>K氏(R)</td> <td>Y氏(K)</td> </tr> <tr> <td>③ 松波</td> <td>W氏、S氏</td> <td>松波中学校</td> <td rowspan="2">N氏(R)</td> <td rowspan="2">H氏(K)</td> </tr> <tr> <td>③ 宇出津</td> <td>H氏</td> <td>自宅(宇出津)</td> </tr> <tr> <td>④ 町野</td> <td>T氏</td> <td>東陽中学校</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">通行不可</td> </tr> <tr> <td>⑤ 珠洲</td> <td>S氏、N氏</td> <td>珠洲合同庁舎、直小学校</td> <td>M氏(R)</td> <td>T氏(K)</td> </tr> <tr> <td>⑥ 穴水</td> <td>S兄弟</td> <td>自宅(穴水)</td> <td>S氏(R)</td> <td>N氏(R)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【救援物資】※1人ずつ ・水1ケース(2L×6本) ・カイロ ・ランタン+乾電池 ・毛布 ・寝袋 ・食糧(お菓子等)</p>  <p>出典：石川みち情報ネット</p> <p>【救援物資1名分の内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水1ケース(2L×6本)、カイロ、ランタン+乾電池、毛布、寝袋、食糧(お菓子等)   <p>コラム：「能登に行く道は陥没や凸凹が多く、注意深く視認しながらゆっくり走るように。何かあれば、真っ先に対策本部に連絡をするように」と指示。また、訪問先はほとんどが避難所であるため、「対象者のみに救援物資を渡すのではなく、避難所に居る周囲の被災者にも気遣いながら渡すように」と依頼。</p> <p>コラム：多くの被災地は、断水が継続。移動中の道の駅なども、トイレでは排泄物が滞留し、悪臭が発生するなど、衛生環境が悪化していたとのこと。支援者も簡易トイレは必需品である。</p>  	方向	被災者	訪問先	運転者	同乗者	① 曾々木	H氏	曾々木ふるさと体験実習館	O氏(R)	N氏(K)	② 柳田	N氏、S氏 U氏、Y氏	寺分集会所、鈴ヶ嶺集会所 自宅(藤波・笹川)	K氏(R)	Y氏(K)	③ 松波	W氏、S氏	松波中学校	N氏(R)	H氏(K)	③ 宇出津	H氏	自宅(宇出津)	④ 町野	T氏	東陽中学校	通行不可		⑤ 珠洲	S氏、N氏	珠洲合同庁舎、直小学校	M氏(R)	T氏(K)	⑥ 穴水	S兄弟	自宅(穴水)	S氏(R)	N氏(R)
方向	被災者	訪問先	運転者	同乗者																																				
① 曾々木	H氏	曾々木ふるさと体験実習館	O氏(R)	N氏(K)																																				
② 柳田	N氏、S氏 U氏、Y氏	寺分集会所、鈴ヶ嶺集会所 自宅(藤波・笹川)	K氏(R)	Y氏(K)																																				
③ 松波	W氏、S氏	松波中学校	N氏(R)	H氏(K)																																				
③ 宇出津	H氏	自宅(宇出津)																																						
④ 町野	T氏	東陽中学校	通行不可																																					
⑤ 珠洲	S氏、N氏	珠洲合同庁舎、直小学校	M氏(R)	T氏(K)																																				
⑥ 穴水	S兄弟	自宅(穴水)	S氏(R)	N氏(R)																																				

日付	時間	状況
1月6日	<p data-bbox="306 210 405 241">10:00</p> <p data-bbox="306 362 405 394">11:08</p>	<p data-bbox="450 210 1425 327">曾々木チーム：上棚矢駄IC近くで車（エンジン）故障。 対策本部は急遽チームを作り、代車（石川県聴覚障害者協会公用車）で上棚矢駄ICへ。</p> <p data-bbox="450 362 1425 434">やなぎだハウス佐藤所長、沖田職員、認定NPO法人障害者放送通信機構職員3名がやなぎだハウスに到着。被災状況を確認する。</p> <div data-bbox="450 470 1276 1008">  </div> <div data-bbox="306 1034 1431 1442">  </div>
	<p data-bbox="306 1487 405 1518">11:40</p> <p data-bbox="306 1590 405 1621">14:25</p> <p data-bbox="306 1653 405 1684">15:25</p>	<p data-bbox="450 1487 1425 1559">曾々木チーム：代車が上棚矢駄ICに着き、救援物資を積み替え、輪島市曾々木へ再出発。</p> <p data-bbox="450 1590 1425 1621">柳田チーム：四明ヶ丘集会所 到着。（S氏避難所）</p> <p data-bbox="450 1653 1425 1684">柳田チーム：笹川 到着。（Y氏避難所）</p>

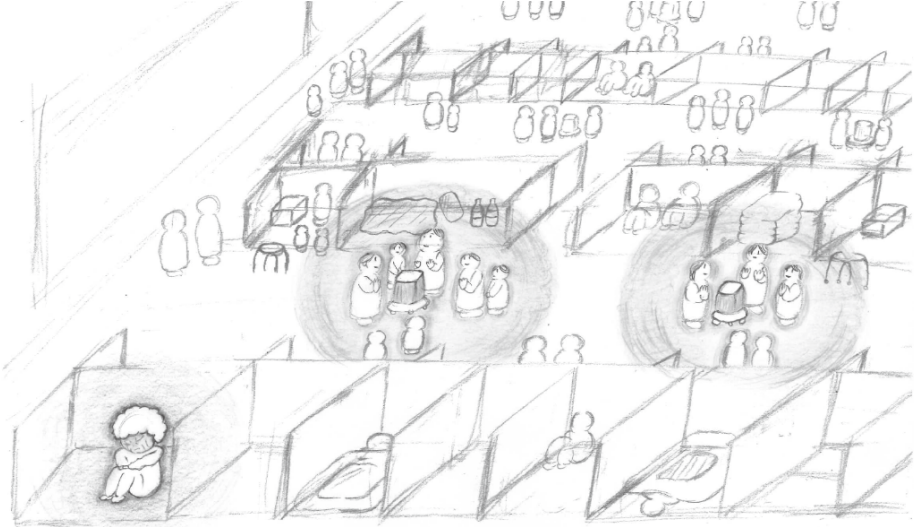




日付	時間	状況
1月6日	15:31	<p>松波・宇出津チーム：松波中学校 到着。(W氏避難所) 避難していたS氏(ろう学校生徒)と遭遇した旨、報告を受ける。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>15:35 穴水チーム：穴水町村田製作所内避難所に到着。K氏不在のため自宅へ。</p> <p>15:45 柳田チーム：鈴ヶ嶺集会所 到着。(U氏避難所)</p> <p>16:05 柳田チーム：寺分集会所 到着。(N氏避難所)</p> <p>16:10 穴水チーム：S兄弟の自宅 到着。</p> <p>16:40 曾々木チーム：曾々木ふるさと体験実習館 到着。</p> <p>17:03 松波・宇出津チーム：能登町宇出津へ向かう途中で道を尋ねると、隣家が目的の方のご自宅だったため、会うことができた。</p> <p>17:10 珠洲チーム：珠洲合同庁舎 到着。大雨のため、避難所で宿泊。</p> <p>17:19 穴水チーム：石川県聴覚障害者センターに帰還。</p> <p>18:35 柳田チーム：帰途の七尾市中島町にて、車のタイヤがパンク。中能登町在住の手話サークル会員(自動車整備士)が自社タイヤを運搬するが、タイヤホイールが合わず、交換を断念。 翌日に珠洲チームと合流するまで、中島駅周辺にて車中泊。</p> <p>19:30 曾々木チーム：石川県聴覚障害者センターに帰還。</p> <p>21:00 障害者放送通信機構の職員3名とやなぎだハウスの沖田職員：石川県聴覚障害者センターに帰還。</p>
<p>コラム：障害者放送通信機構職員3名が1月3日から奥能登に入り、危険を顧みず4日間にわたり現地取材。その間、SNSで情報発信を行った。特に、X(旧Twitter)にて、避難所で周りにきこえない・きこえにくい人がいて、コミュニケーションに困っている時の問合せ先について説明した手話動画の投稿は、数日間のうちに閲覧数が10万を超え、現在は25万を超えている。 全国に奥能登の実態を伝えることができ、多数の物資支援の提供にも繋がった。</p>		
	22:30	<p>松波・宇出津チーム：石川県聴覚障害者センターに帰還。 対策本部の赤坂(中能登町在住)が七尾市・中能登町にて支援活動を開始。</p>
1月7日	8:00	<p>曾々木チーム：柳田チームの替えのタイヤを載せ、七尾市中島町へ。 到着後、柳田チームのタイヤ修理が完了し、帰途につく。</p>

日付	時間	状況
1月7日	8:04	<p>動画発信 「1月6～7日に実施した被災地派遣チームの状況報告」動画配信</p> 
	11:30	<p>聴覚障害者災害救援中央本部（全日本ろうあ連盟：山根昭治本部事務所長・梅澤仁士職員）、特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会（以下、全国聴覚障害者情報提供施設協議会）（井澤昭夫事務局長）が石川県聴覚障害者センターに視察訪問。</p>
	13:20	<p>柳田チーム、珠洲市チーム、曾々木チーム：石川県聴覚障害者センターに帰還。（被災地派遣メンバー全員帰還）</p>
<p>コラム：被災地派遣メンバーは全員怪我無く帰還することができた。計画段階では、あわよくば日帰りで戻れることを願っていたが、2チームが一晩を被災地で過ごすことになった。また、車両のエンジントラブルや、タイヤパンク等、想定外のトラブルに見舞われたチームもあった。それでも、対策本部を軸に、怪我なく乗り切ることができたことに安堵した。</p>		
	13:30	<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部 支援活動報告会を開催。 被災地派遣結果報告と今後の支援計画について議論。</p>
		

日付	時間	状況
1月7日		<p>コラム：被災地派遣メンバーからの報告により、被災地のろう者が地域の避難所で情報提供・情報保障が受けられず、我慢していることが判明した。ろう者専用の福祉避難所の設置が急務であることを再確認。しかし、道路状況や宿泊場所の不足等で金沢以南の情報保障者を奥能登に送ることが難しいため、情報支援が必要な被災者が、金沢市に避難する案が浮上した。</p> <p>トピック：金沢市のマンション中層階に一人で暮らす高齢会員は、歩行が不安定で、弱視。揺れのため、ブレーカーに取り付けられた自動遮電装置が作動し、一時的な停電状態に。自身でブレーカーを操作すれば戻せるが、地域一帯が停電になっていると思い込み、3日後に親族が訪れるまで外にも出ず、何とかしのいでいた。幸いにも体調に異変はなく、無事であった。スマホを持っておらず、停電状態であることからFAXが通じず、連絡手段が途絶えてしまった。また、マンションはエントランスで解錠するオートロック式であるため、居室まで行って手紙を差し込むこともできない。さらに年始のためか、マンションの管理人室には誰もおらず、なすすべがなかった。</p> <p>石川県障害保健福祉課（以下、県障害保健福祉課）に、きこえない・きこえにくい人を優先的に1.5次避難所に移動することを電話で要望。</p> <p>コラム：元日から県障害保健福祉課と、被災者の安否確認や避難状況の情報交換を重ねてきた。聴覚障害当事者団体として、当協会を頼りにしてもらえることは嬉しいものである。そんな中で、1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター／金沢市）に奥能登の被災者が移動する案が本格化しているという情報が入る。情報不足で避難生活に苦勞しているきこえない・きこえにくい人を優先に1.5次避難所に運搬していただけるよう依頼。その上で、1.5次避難所への運搬における留意点等の説明を受ける。</p>
1月8日	<p>9：00</p> <p>10：18</p>	<p>聴覚障害者災害救援中央本部と石川県聴覚障害者災害救援対策本部の会議（オンライン）</p> <p>中央本部は支援金（支援者に対してサポートするための費用）を、対策本部は義援金（被災者に対しての見舞金）を募る棲み分けについて確認。</p> <p>石川県聴覚障害者センターホームページ内に石川県聴覚障害者災害救援対策本部のページを作成（清水・酒井）</p> <p>災害対策本部特設ページ</p> <p>ホームページ > 災害対策本部特設ページ</p> <p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部</p> <p>災害対策本部特設ページについて</p> <p>令和6(2024)年1月1日に発生した、令和6年能登半島地震の、きこえない・きこえにくい人、関係する人たちの支援や救援活動に関する情報を発信しています。</p> <p>お問い合わせはこちら</p> <p>災害情報、救援活動、支援協力などのお問い合わせは google フォーム で受け付けています。</p> <p>動画発信 「救援物資の募集一時停止のお願い」動画配信</p>  <p>いったん停止とさせていただきます。</p>

日付	時間	状況
1月9日	13:00	<p>県障害保健福祉課に対し、下記4点を要請。</p> <p>①情報支援が必要なろう者を優先的に1.5次避難所に移動するよう再度要請。 県からは、「自衛隊の車両であることから、家族同伴は1名のみである。あくまで障害者や高齢者を2次避難所までのつなぎとして、1.5次避難所につなげる。」と回答あり。 県障害保健福祉課や当対策本部は、輪島市にT氏、W氏、能登町にN氏、珠洲市にN氏の移動を優先的に願います。</p>
<p>コラム：搬送が必要な人のリストを県障害保健福祉課に提案するも、ろう高齢者でスマホを持たない人も多く、本人に直接連絡できる手段がなかった。そのため、推定としてリストアップして搬送をお願いする形となった。</p>		
<p>②搬送時や1.5次避難所において、手話通訳者等と手話言語による意思疎通を可能にするよう要請する。</p> <p>③県障害保健福祉課に対して、1.5次避難所にはきこえない・きこえにくい人のためのエリアを（1区画にひとまとめ）確保してほしいと願います。</p>		
<p>コラム：きこえない・きこえにくい人のエリアを作ってもらえれば、ろうあ相談員、手話通訳者等が支援しやすくなり、被災者同士のコミュニケーションもスムーズになるというメリットがあることを県障害保健福祉課に説明した。</p>		
<p>④4市町の要請を受けて県障害保健福祉課より各市町自治体へ「車両の確保、専任手話通訳者＋ろうあ相談員＋保健師＋運転手の派遣」の呼び掛けを検討しているとのこと。その派遣チームにおいて、県障害保健福祉課をサポートしていくと口頭（電話）で話し合う。</p>		
<p>コラム：しばらくして個人情報保護法を理由に立ち消えとなるが、実現すれば…と思うと悔やまれる。</p>		
<p>コラム：「能登に支援の拠点が作れるか」「支援者のための宿泊場所があるか」を対策本部の中でも議論したが、現時点では絶望的であるとわかった。要望④を実現するためには、それなりの力のあるコーディネーターの確保が必要であったが、現在の対策本部のリソースでは難しかった。</p>		
20:00		<p>プラスヴォイス三浦氏が石川県聴覚障害者センターに帰還し、被災者の現況報告、情報交換を実施。</p>
21:00		<p>被災者サポート担当チームを立ち上げ。</p>
<p>コラム：発災から9日経過。被災しながら支援に立ちまわっている人のメンタルを心配する。特に、やなぎだハウスの職員へのケアについての議論も出る。</p>		
22:30		<p>動画発信 「やなぎだハウスの被災状況報告」「補聴器の電池が必要な被災者への呼び掛け」動画2本配信</p> <div data-bbox="448 1742 1043 2078" style="text-align: center;">  </div>


日付	時間	状況
1月11日	13:23	<p>災害対策業務を担う者として、元職員2名およびろうあ運動に関する見識を有する1名の計3名（倉本文代氏、坂本美穂氏、小林宏美氏）を社会福祉法人石川県聴覚障害者協会職員として採用。</p> <p>動画発信 「義援金・支援金の呼びかけ」 動画配信</p>  <p>動画発信 「1月7日の報告会」 動画YouTube配信</p> 
1月12日	14:11	<p>W氏（能登町）が能登町のバスに乗り、地域の避難所から1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター／金沢市）に移動。 W氏がろう者初の1.5次避難所の入所者となる。</p> <p>トピック：W氏の家屋は全壊となったが、お向かいさんとの付き合いが良好であったため、地域の避難所（松波中学校）に避難することができた。近所の方の支援のおかげで水や食事を入手することができた。しかし、W氏の居住スペースが中学校体育館の出入り口付近に割り当てられ、戸が開閉するたびに冷気が入り込み、寒さが生じたが、運営側に伝える方法がわからず、W氏は我慢し続けていた。1月4日沖田職員の訪問時、W氏が寒さを我慢していることを察知し、避難所の運営側にその旨を伝えたところ、「この避難所にろう者がいることは知らなかった」と回答される。家屋が倒壊し、薬やおくすり手帳を持ち出すことができていなかった。避難所の運営スタッフより、日頃通院している開業医に問い合わせたが、医者は金沢に避難していた。医者から電話で薬の情報を聞き出し、薬を提供することができた。手話の通じる相手もおらず、ひとりで地域の避難所で耐えていたW氏だったが、W氏の姉（能登町）と妹（珠洲市）は既に金沢市に避難していたことが判明すると、1.5次避難所（金沢市）への移動を強く希望した。</p>



日付	時間	状況
1月12日		
		 
		 
		<p>県障害保健福祉課へ、1.5次避難所において、ろう者を1区画にまとめてほしい（1つのエリア）と要請。</p> <p>県障害保健福祉課より、1.5次避難所では、被災者のプライバシーを配慮し、1世帯が1つのテントに入居する旨、説明を受ける。</p> <p>トピック：1.5次避難所には最大700名収容、約80個のテントが並べられていた。テント1張の中には、2台の段ボールベッドや毛布が用意されていた。電子レンジやテレビ、ポットを利用できる食堂のような共用スペースも設けられており、食事が1日3食提供された。さらに、看護師が24時間体制で常駐するほか、洗濯機と乾燥機を使ったり、近隣にある入浴施設を無料で利用したりすることができた。</p>

日付	時間	状況
1月13日	13:55 16:37	S兄弟が穴水町の指定の駐車場（自宅から駐車場まではやなぎだハウス沖田職員が送迎）から穴水町のバスに乗って1.5次避難所へ移動。 N姉弟が珠洲市役所（やなぎだハウス佐藤所長が見送り）から珠洲市のバスに乗って1.5次避難所へ移動。 1.5次避難所のろう者は計5名となった。
1月14日	15:30 21:30	K氏（穴水町）は、被災を受けていた姉宅（志賀町）に避難していたが、手話言語で囲まれた環境が望ましいと、姉を説得し、山科事務局長の送迎により、姉宅から1.5次避難所へ移動。 T氏（輪島市町野町）が株式会社プラスヴォイス代表取締役の三浦宏之氏の送迎によって、1.5次避難所へ移動。 その日にろう者は7名と増加。
1月15日	21:00 18:00	N氏（輪島市）、M親子（輪島市）が輪島市のバスに乗って1.5次避難所へ移動。 H氏（能登町）が能登町の指定の駐車場（自宅から駐車場まではやなぎだハウス沖田職員が送迎）から能登町のバスに乗って1.5次避難所へ移動。 最終的に1.5次避難所に避難したろう者は11名。
		<p>コラム：1.5次避難所は石川県が管轄。きこえない・きこえにくい仲間がしばらく1.5次避難所に留まることができるか、県障害保健福祉課と協議したところ、「罹災証明書発行や通院等の通訳派遣の増加が想定されるため、県が引き続き担うことは難しい」との可能性を示唆された。手話通訳等派遣は、災害救助法を活用することで実施できるが、派遣をコーディネートする自治体が必要となる。県庁は会計年度任用職員（県登録手話通訳者）1名のみでの対応となり、それが厳しいと判断したのだろう。対策本部としては、県庁にとって代わる自治体探しが焦眉の急となった。</p> <p>1.5次避難所にいる11名に対し、2次避難所へ移動する必要性について、情報提供。</p> <p>コラム：みなし仮設住宅に入る選択肢もあることを説明するが、11名全員が2次避難所への移転を選択した。</p> <p>対策本部は、全11名が引き受けられる2次避難所の探索を開始。</p> <p>コラム：対策本部として、2次避難所の移転先の選定基準として、次の2点を挙げた。①災害救助法による手話通訳派遣のコーディネーターを配置できる市町であること。②当協会地域活動支援センターに通うことで、被災者が昼間のストレス緩和ができること。それらをかながみると、地域活動支援センター「ろうあハウス」のある金沢市、地域活動支援センター「あさがおハウス」のある白山市に絞られ、全体的な支援などを総合的に考え、白山市へと傾いていった。</p>


日付	時間	状況
1月16日		<p>白山市障害福祉課に全11名の2次避難所への移動を打診。</p> <p>堀口課長と藤平副本部長が複数の避難所候補地を下見。</p> <p>白山市がろう者の集団避難の受け入れを決定。 白山市障害福祉課より、2次避難所には、紙の間仕切りと段ボールベッドを設置したものであるという説明を受けた。</p> <div data-bbox="448 860 1430 1218" data-label="Image"> </div> <p>2次避難所を松任総合運動公園体育館とし、1月18日に移動できることを白山市障害福祉課と確認。</p> <p>18:42 マグニチュード4.8（最大震度5弱）地震発生</p>
1月17日		<p>兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授の松川杏寧氏が来局。 「応急危険度判定と被害認定調査の違い」などの説明を受ける。</p> <p>コラム：「応急危険度判定」は、建物の安全性に関わる被害を判定する（余震による倒壊や部材の落下など）。2次災害を防止し、避難の必要性についての情報提供が目的である。「家屋被害認定調査」は、住まいの継続使用が可能かどうか、構造的・経済的視点から被害を判定する。各種被災者支援策を受ける根拠となり、被災者の生活再建に長期的に影響するため、重要な位置づけになるとのこと。</p>






日付	時間	状況
1月17日		<p>日本財団電話リレーサービスより、Apple社の協力を得て、タブレット20台を借り受け。</p> 
1月18日		<p>1.5次避難所から2次避難所へ全11名移動（白山市松任総合運動公園体育館）</p>  
<p>（白山市障害福祉課（堀口佳子氏））コラム： 市では混乱の中、能登地区で被災された方々の受け入れのため、広域2次避難所開設に向け、全庁職員あげて準備を行っていた。聴覚障害者の対応については、対応マニュアル、コミュニケーションボードの作成等、様々な場面を想定し準備にあたったが、初めてお会いする能登地区の高齢の聴覚障害者の表出される手話の意味がわからず、苦慮した。生活背景を知らない市職員の手話通訳者だけでは支援の限界を感じた。特に医療場面での手話通訳は、県聴覚障害者協会との連携なしでは困難だった。また、感染症拡大の折には、24時間体制での手話通訳が必要となり、他自治体の設置通訳者からの協力を得た。日頃からの連携のとれた関係性が、緊急時に活かされた。日頃の関係性が重要！！</p>		
<p>（地域活動支援センターあさがおハウス（白山市）所長（中川英昭氏））コラム： 2次避難所である松任総合運動公園体育館からの受け入れにより、平日の日中は地域活動支援センター「あさがおハウス」へ通所となる。利用登録のため、奥能登の2市2町と契約を行った。職員サポートにやなぎだハウスの沖田職員を派遣していただいた。 日中活動で避難者が心の癒しになるよう企画を立てたり、福祉バスで様々なところへ行ったりした。あさがおハウスの利用者からも心の支えになり、かけがえのないものになったろう。 また、当対策本部の居住支援担当にあたり、2次避難所で平日夕方や休日の日中の相談員配置に当対策本部委員やろうあ相談員、合わせて17名を交代にコーディネート。女性の入浴支援も介護資格を持つろう者1名及び手話サークルの4名をコーディネートした。</p>		


日付	時間	状況
1月18日		<p>11名全員が感染症の感染疑いがあり、他の避難者とは別の部屋（隔離部屋）へ移動。</p> <p>コラム：元日からの震災による疲れと、急激な環境変化によって免疫力が低下し、1.5次避難所では集団感染の兆候が見られるようになった。2次避難所入所についての説明をロビーで受けている間に、複数名が体調不良を訴える事態に。準備された体育館内のスペースに割り当てることなく、即座に別部屋への移動となった。むしろ、1.5次避難所から移転したばかりのため、ろう高齢者の中では納得ができない人もいた。被災者が終日、避難所内で顔を合わせることもストレスの原因となるため、気分転換となるよう、翌日、1月19日から地域活動支援センター「あさがおハウス」に通所する予定を計画していた矢先のことであった。</p> <p>コラム：日に日に感染者が増えていく。支援する手話通訳者・ろうあ相談員には持病がある方や、家族に高齢者がいることなどから、支援メンバー入りを辞退された方もいた。感染リスクを検討した上で人選を行い、感染対策6種セット（ヘッドキャップ、マスク、簡易エプロン、フェイスシールド、グローブ、靴カバー）の着用を徹底し、手話言語による支援を行った。</p>
1月19日	18:10	<p>2次避難所は24時間のサポート体制を整備。 白山市役所職員及び対策本部の手話通訳者が交代配置で対応。</p> <p>動画発信 「被災者のインタビュー」 動画配信</p> 
1月20日	17:46	<p>動画発信 「1.5次避難所から2次避難所への移動の報告、救援物資の募集停止の呼びかけ、支援金・義援金の募金のお願い」 動画配信</p> 
1月21日		<p>北信越ろうあ連盟評議員会において報告を実施。 1月5・6日に実施していただいた「他県在住者による救援物資の購入・運搬」に対する謝意をお伝えし、経過報告と今後の理想的な支援の在り方を協議した。</p>



日付	時間	状況
1月22日	10:03	<p>2次避難所受付待機の手話通訳メンバーを増員。 各市町設置手話通訳者及び本部職員の通訳者が対応。</p> <p>動画発信 「1月19日やなぎだハウスの近況報告」 動画配信</p>  <p>まず、やなぎだハウス前の道の状況です。</p>
1月23日	10:00 15:00 15:30	<p>ろうあ相談員もローテーションを組み、手話通訳者同様、受付待機することとした。</p> <p>1月22日、隔離部屋から2次避難所の指定場所に移転したK氏があさがおハウスに通所開始。 以降、1月30日までの間、隔離部屋から出られるようになった被災者が順にあさがおハウスに通所開始。</p> <p>ろうあ相談員・あさがおハウス中川所長が15時～17時受付待機。</p> <p>宝達志水町I氏訪問（震災後の状況把握）。</p>
1月29日		<p>2次避難所の入居者を集めて、今後の流れについて説明。</p> <p>コラム：やなぎだハウスの再建はまだ厳しい段階であること、家に戻るまでのロードマップ（「罹災証明書発行」→「仮設住宅住まい」→「家に戻る（家を修繕できるか?）」）、家の解体や補助金の情報提供について説明。この頃から「白山市を出たい!」「奥能登に帰りたい!」という声がちらほらと出る。避難所生活の疲れが出ているのだろう。</p>
1月31日	16:02	<p>白山市内で罹災証明書申請窓口が開設。 ろうあ相談員（藤平業務執行理事）、手話通訳者が申請の情報支援を担当。</p> <p>T氏、K氏（輪島市／生活訓練参加者／きこえにくい人／非会員）が1.5次避難所へ。 以降、ろうあ相談員や手話通訳者が週1回の頻度で訪問支援。</p> <p>動画発信 「被災者のインタビュー」 動画配信</p>  <p>1月1日に襲った突然の激しい揺れ。</p>



日付	時間	状況
2月1日		日本聴力障害新聞掲載2月号掲載（1～2頁） 「ニュースろうあ石川」2月号に経過報告を掲載 
2月12日	19:00	聴覚障害者災害救援中央本部（石野本部長、桐原委員、早川委員、内藤職員）が石川県聴覚障害者センターに激励訪問。 聴覚障害者災害救援中央本部「対策本部会議」を開催。
2月13日	9:00 10:30 11:00 13:00	聴覚障害者災害救援中央本部（石野本部長、桐原委員、早川委員、内藤職員）が挨拶廻りを実施。 石川県健康福祉部次長と面談 白山市長表敬訪問。  あさがおハウスへ激励訪問。 あさがおハウスにて、被災者とあさがおハウス利用者と交流会を実施。  



日付	時間	状況
2月17日	21:18	<p>動画発信 「石野中央本部長の激励訪問時のインタビュー」動画配信</p> 
2月21日		<p>JDF（日本障害フォーラム）が「能登半島地震に関する情報交換会」を実施。 場所：石川県社会福祉会館4階大ホール 全国の障害者団体と石川県内の障害者団体が集まり、能登半島地震の現状について情報交換を行う。藤平がJDFに対し「個々のニーズの把握と支援を行うために自治体からの名簿提供が必要である」と訴えた。</p>
2月27日		<p>退去後の住居として、シェアハウス構想が持ち上がる。</p> <p>コラム：2次避難所入居者のほとんどの方の家屋が全壊している。2年間の仮設住宅生活後の住家の候補として、「シェアハウス」の構想が生じている。長崎県の聴覚障害者シェアハウス「～手話ハウス 結～」への視察訪問についても検討された。</p>
2月28日	9:00	<p>支援者宿泊場所として、トレーラーハウスを搬入。 能登福祉救援ボランティアネットワークや全国聴覚障害者情報提供施設協議会の協力を得て、3月1日より全国から派遣される生活支援員が交互に泊まりながら支援していただけることになった。その生活支援員の宿泊場所として、能登町の承諾を得て、トレーラーハウスをやなぎだハウス横の駐車場に設置した。</p>
2月29日	15:00	<p>2023年度第2回聴覚障害者災害救援中央本部会議 開催。</p>
3月1日		<p>奥能登で生活している利用者が集い、やなぎだハウスでの作業を開始（柳田公民館にて）。</p> <p>コラム：能登福祉救援ボランティアネットワークと全国聴覚障害者情報提供施設協議会の生活支援員の派遣をもとに、やなぎだハウスの就労支援事業が柳田公民館で週1日の頻度で再開。ただ、受託先の企業が被災で機能停止しているため、通常通り週5日の開所はできず、収益激減を覚悟の上での再開となった。</p> <p>能登福祉救援ボランティアネットワーク後藤至功氏と今後のやなぎだハウスの生活支援員の派遣について意見交換。</p> <p>コラム：能登福祉救援ボランティアネットワークの後藤至功氏（佛教大学専門職キャリアサポートセンター講師）と、やなぎだハウスの生活支援員の派遣にあたって、厚生労働省のマッチングシステムを活用できるという説明を受ける。そして、当面のコーディネートについて、後藤先生を中心に、能登福祉救援ボランティアネットワークが担うことを確認した。</p>

日付	時間	状況
3月1日		<p>やなぎだハウス修繕工事開始。</p>  <p>日本聴力障害新聞掲載3月号掲載（1～2頁）。 「ニュースろうあ石川」3月号に経過報告を掲載。</p> 
3月5日	<p>13：00</p> <p>17：52</p>	<p>奥能登に引き続き居住している仲間（利用者）のみ、やなぎだハウスへの通所を再開。</p> <p>動画発信 「本当に必要としている救援物資を集めるために、Amazonサービスの「ほしい物リスト」を紹介」動画配信</p>  <p>動画発信 「被災者のインタビュー」「被災者の現況報告」動画2本YouTube配信</p>
		 
<p>コラム：その後、5月頃までAmazonほしい物リストを通じて全国の仲間から必要な物品が届き、被災者にお渡しすることができた。</p>		



日付	時間	状況
3月11日	10:00	<p>参議院議員の宮本周司氏と今井絵理子氏があさがおハウスに激励訪問。</p> <p>コラム：避難者7名と、あさがおハウスの利用者10名が意見交換。震災発生時や、避難所などで不十分だったことや困っていたことを宮本氏と今井氏から質問され、今後に対する不安や課題も含め、わかりやすく丁寧に伝えていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次避難所は混乱の中で十分に情報を得ることができず、不安な感情が渦巻く中で、さらに精神的な負担も重なっていた。 ・知りたい情報を確実に受け取ることが難しく、視覚情報が限られ、頼れる人もいなかった。など、回答した。利用者は、きこえない人は情報を得ることが難しいため、情報保障の実施の重要性を強く訴えた。「『誰ひとり取り残さない、人に寄り添う防災』の実現に向け、とても貴重なヒアリングの機会になった」と宮本氏と今井氏より伺った。 <p>13:00 一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会（以下、日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会）（舘脇氏・松田氏）が来局。 今後の被災者や支援者のメンタル支援について協議。 日本財団の助成金申請中。支援開始は4月中旬以降になること、短期的な支援（延べ十数人（8回程度））の見込みであることを確認。</p> <p>14:00 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会があさがおハウスを激励訪問。</p> <p>15:30 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会が2次避難所を視察訪問。</p>
3月13日	18:33	<p>2次避難所のT氏、災害ボランティアの支援を受けながら、全壊の自宅（輪島市）より貴重品を取り出し（担当：沖田、浜野）。</p> <p>コラム：T氏宅は、屋根が地面についてしまうほど完全に崩壊した状態であったため、安易に家屋に近づくことはできず、専門ボランティアを依頼し、貴重品の取り出しを行った。T氏が一番大切にしている貴重品は、電気自転車。時間はかかったが、電気や建築の専門家達が安全を確認しながら瓦礫の中に潜り込み、自転車を取り出してくれた。取り出した自転車は、やなぎだハウスで一時保管した。</p> <p>動画発信 「やなぎだハウス再開について沖田職員から報告」 動画配信</p> 
3月14日		<p>2次避難所のW氏、全壊の自宅（能登町）より貴重品を取り出し（担当：沖田、浜野）。</p>



日付	時間	状況
3月15日	16:00	<p>2次避難所のN氏、全壊の自宅（珠洲市）より貴重品を取り出し（担当：中川、沖田）。</p> <p>藤平副本部長が（一社）日本モバイル建築協会（※現在は一般社団法人日本オフサイト建築協会）代表理事 長坂俊成氏と初めて対面し、モバイルハウスについて説明を受ける。</p>
<p>コラム：（一社）日本モバイル建築協会代表理事の長坂俊成氏（立教大学大学院社会デザイン研究科教授）と面会し、モバイルハウスについて説明を受ける。モバイルハウス（移動式住宅）とは、応急的な居住スペースを確保するために仮設住宅として利用し、自宅敷地に移設できるハウスのこと。震災によって全壊したが、新築する予算のない（補助金の上限は600万円のため不足分は自己負担となる）ろう高齢者にとっては、公費解体によって更地となった自宅敷地に、仮設住宅を移動させることができるモバイルハウスの利用は非常に有益であると理解し、とんとん拍子で進めることとなった。</p>		
3月18日		<p>対策本部の藤平副本部長、山科事務局長、やなぎだハウスの佐藤所長、沖田職員が長崎にて視察。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）長崎県ろうあ協会シェアハウス「手話ハウス結」（大村市）を視察。 ・（一社）長崎県ろうあ協会長崎県聴覚障害者センター（長崎市）を見学。
3月19日		<p>3月18日に引き続き、視察。NPO法人ひまわり 諫早市地域活動支援センターを見学。</p>
3月23日	8:51	<p>動画発信 「被災者のインタビュー」 動画配信</p> 
3月27日		<p>K氏、町営アパートの水道が復旧したため、2次避難所を退所し、穴水町の自宅へ移動。</p>
3月28日		<p>藤平副本部長が2次避難所の状況を確認するため奥能登4市町へ訪問。</p>
3月29日		<p>2次避難所のS兄弟、全壊の自宅（穴水町）から貴重品を取り出し（担当：沖田、浜野）。</p>
4月1日		<p>避難生活の現状や今後の生活、シェアハウスの希望の有無等について個別面談を実施。</p> <p>対象者：W氏、N氏、H氏、M氏、T氏、S兄弟、K氏 兵庫県のロータリークラブ「国際ロータリー第2680地区」 喜多美雄氏が来局し、車両寄贈について協議。</p> <p>日本聴力障害新聞掲載4月号掲載（2頁・7頁）。 「ニュースろうあ石川」4月号に経過報告を掲載。</p> 





日付	時間	状況
4月3日		全日本ろうあ連盟機関紙部が来県し、日本聴覚障害新聞の取材を実施。(4月3日～5日)
4月5日	16:08	<p>動画発信 「やなぎだハウスの修繕工事をはじめた様子を報告」 動画配信</p> 
4月6日		<p>M親子、2次避難所を退所し、輪島市の自宅へ移動。 仮設住宅入居日を待ちながら、水道は復旧していない半壊の自宅で生活を開始。</p> <p>コラム：「せめて水道が復旧するまで待ってはどうか」と止めたが、80代後半の母親のだんだん元気がなくなっていく様子を見かねたM氏。「母ちゃんに輪島市の空気を吸わせてやりたい」「何もせず避難所で暮らしていたら俺までもおかしくなりそうだから」と輪島市への帰宅を決意された。 翌日、「母ちゃんと家の掃除を始めました」「水は出ないけど、母ちゃんは元気になりました」と連絡があった。</p>
4月8日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。
4月11日		<p>能登町へ「聴覚障害者のためのモバイル建築住宅による仮設住宅の設置に関する要望書」を提出。</p> <p>コラム：モバイルハウスについて、能登町より一定の理解を得られたが、総務課→健康福祉課→町長の下承の上、水道建築課から県への申請が必要であるとのこと。石川県は、モバイル建築協会事務局長を通して理解を得ているが、能登町の下承がないままでは手続きを進められない状況となった。</p>
	9:37	<p>動画発信 「義援金のお礼について」の動画配信</p> 
4月15日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会と今後の支援計画についてZoomで協議。 期間は5月中旬から7月とし、能登特有のろう高齢者へのコミュニケーション支援のため、現地の被災者サポート担当を付けることを確認。</p>

日付	時間	状況
4月16日	13:32	<p>動画発信 「やなぎだハウスの現況報告」 動画配信</p> 
4月17日		やなぎだハウス利用者の通所を週1日から週2日（水・金曜日）に変更。
4月20日		<p>ライオンズクラブ（北陸3県（石川県、富山県、福井県））総会にて、背面に「手話マーク」を付記した黄色のビブスを寄贈いただく。</p> <p>※ライオンズクラブでは北陸3県（石川県、富山県、福井県）で手話講習会など、様々な取り組みを年間で実施。その記念事業のひとつとして、上記のビブスを寄贈いただいた。今後、災害が発生した際、手話のできる人がこのビブスを着用し、支援活動を実施予定。</p> 
4月22日		K氏（輪島市）が1.5次避難所を退所し、輪島市の県営住宅に移動。
4月24日		T氏（輪島市）が1.5次避難所を退所し、金沢市内のアパート（みなし仮設住宅）に移動。
4月26日		田門浩弁護士があさがおハウス、2次避難所を激励訪問。
4月27日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会と今後の支援計画についてZoomで協議。</p> <p>具体的な日時と対象者、ワーカー、被災者サポート担当を最終確認。</p> <p>全8回、期間を5月15日から7月26日とし、対象者を延べ14名とした。</p>
4月28日		<p>聴覚障害者災害救援中央本部「対策本部会議」を開催。</p> <p>聴覚障害者災害救援中央本部・石川県聴覚障害者災害救援対策本部と「情報交換会」を実施。</p>
<p>コラム：中央本部は、休みなくボランティア活動を継続する支援者に対し、贈呈金として100万円を支給することを緊急に決定した（対策本部にて受領）。また、支援金と義援金の募金を10月10日まで募集することを確認した。</p>		
4月29日	11:00	<p>やなぎだハウス修繕完工式 開催。</p> <p>コラム：奥能登全体の公費解体が本格化する前の工事依頼であったため、優先的に修繕工事を実施できたことが大きかった。また、費用の面でも全国の仲間から多額の支援金を集金が寄せられたことにより、616万円を工事費用の補填することができたことも大きかった。</p> <p>2次避難所（白山市）に避難している被災者も式典に参加し、震災以降会っていなかった奥能登在住の利用者と久しぶりの再会を果たした。</p>
	14:00	終了



日付	時間	状況
4月29日	19:11	<p>動画発信 「やなぎだハウス修繕完工式後の石野本部長のインタビュー」動画配信</p> 
5月1日		<p>2次避難所が縮小化。 居住スペースが体育館から会議室に移動。</p> <p>日本聴力障害新聞掲載5月号掲載（1頁・7頁）。 「ニュースろうあ石川」5月号に経過報告を掲載。</p> 
5月5日	9:46	<p>動画発信 「令和6年能登半島地震から4ヵ月《能登就労支援事業所やなぎだハウス_修繕完工式》〈2024/04/29〉」動画配信</p> 
5月6日		M氏（輪島市）が2次避難所を退所し、輪島市内の自宅へ移動。
5月8日		やなぎだハウス利用者通所日を週2日から週3日（水～金曜日）に変更。
5月9日		珠洲市で震災を受け、家屋が全壊となったO氏は奥能登での永住を諦め、金沢市内のグループホームと契約し、地域活動支援センター「ろうあハウス」に通所開始。
<p>コラム：（地域活動支援センターろうあハウス（金沢市）所長（吉岡真人氏）） 人工透析患者であるO氏は、1月4日、珠洲市総合病院より金沢市内の大学病院までヘリコプター等にて搬送され、即時、大学病院に入院し、2月7日、北陸病院へ転院し入院した。入院時、O氏より、「珠洲市に永住して、やなぎだハウスに通所することを諦め、金沢市にあるろうあハウスに通いたい」旨の相談があり、金沢市へ移住することとなった。2～3月、O氏の退院後の生活に向けた相談にあたって、金沢市内でグループホーム探しを行い、金沢市障害福祉課にグループホームの空き部屋の情報収集や相談を数回行った。のちに金沢市にある障害福祉総合サービス事業smileワールドの協力を得て、ろうあハウス付近にあるグループホームと契約し、生活を始めた。5月4日に退院後、5月9日からろうあハウス利用者として通所を開始した。現在、人工透析治療のため、週に3回通院しながらも、休まずに、毎日利用者たちと仲良く、タオル作業などを行っている。</p>		





日付	時間	状況
5月13日		<p>JDF能登半島地震支援センターを七尾市和倉町に開設。</p> <p>コラム：支援センターの開設によって、のちに、やなぎだハウスが大きな恩恵を受けることとなった。全国から集ったスタッフが「利用者の送迎のお手伝い」「生活支援員の派遣」「利用者の仮設住宅より通院における送迎のお手伝い」を担ってくださり、やなぎだハウス職員だけでは担うことが難しい業務を手伝っていただいている。</p>
5月15日	19:00	<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。</p> <p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による初回の相談支援を実施。 対象者は、利用者のW氏、T氏。</p>
5月16日		<p>やなぎだハウスでの送迎車両の贈呈式を開催。 寄附者：国際ロータリー第2680地区</p>  <p>コラム：やなぎだハウスは公用車を3台所有しているが、東京23区の倍以上の面積となる奥能登地域を、「輪島方面」「珠洲方面」「穴水方面」に分け、毎日3台をフル活用して利用者の送迎を実施している。発災以来、破損や凸凹のある悪路の上、迂回しなければならないルートも多々あり、ガソリン車ではガソリンを大幅に消費し、1日分の走行には満タンにしなければならない状況があり、費用面でも苦慮していた。そのような状況で、ハイブリッド車を贈呈していただき、費用も節約することができ、大いに助かった。</p> <p>コラム：国際ロータリー第2680地区の皆さまは阪神・淡路大震災を経験され、当時の現場でさまざまなコミュニティの崩壊を目の当たりにしていた。今回の能登半島地震において、能登福祉救援ボランティアネットワークに「能登地域でコミュニティへの支援を必要としている団体を紹介してほしい」と尋ねられたそう。その結果、当対策本部に白羽の矢が立った。ありがたい話である。</p>
5月18日	15:00	<p>JDF能登半島地震支援センター開設式</p>  <p>場所：石川県地場産業振興センター（金沢市）</p> <p>コラム：出席した藤平施設長と宮永氏（石川盲ろう者友の会会長）が「県内団体・関係団体からのメッセージ」にて、それぞれの立場でメッセージを述べる。</p>

日付	時間	状況
5月20日	11:25	<p>動画発信 「令和6年能登半島地震から4ヵ月半《能登就労支援事業所やなぎだハウス_送迎車両贈呈式》〈2024/05/16〉」 動画配信</p> 
5月21日		<p>O氏、グループホームに入居。 珠洲市の自宅から荷物取り出し（担当：吉岡、浜野）。</p>
5月22日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 W氏、自宅の公費解体の説明を受けるため、能登町へ移動。</p>
5月23日		<p>N氏、H氏、自宅の公費解体の説明を受けるため、珠洲市へ移動。</p>
5月24日		<p>2次避難所にプランターと土と野菜苗を持ち込み、キュウリとトマトの栽培開始。野菜苗は大倉氏より寄贈いただく。</p>  <p>コラム：季節も変わり、2次避難所の松任総合運動公園体育館では、当初100名以上もいた被災者も20名程度に減少した。「みんな帰っているのに、自分はまだ帰れないの？」と言う被災者もいた。避難所生活の疲れが顕著に見受けられ、「もう都会（白山市）は嫌！」「奥能登に帰りたい！」「家に帰って、畑を耕したい！」と不満をこぼすようになった。その上、ストレスから被災者同士の揉め事も見受けられるようになったため、対策本部としては、「畑の提供はできないが、少しでも能登に居た時の生活に近づけることができれば…」と、家庭菜園を行ってもらおうということで、実施に至った。</p>
5月28日	19:00	<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。</p>
6月1日		<p>やなぎだハウス利用者の通所を週3日から週5日に変更。 利用者も6名から11名に増員。（白山市の2次避難所にいる利用者の退所は、8月末まで待たなければならない状況） 筑波技術大学教授・大杉豊氏、学生3名が撮影を実施。</p> <p>コラム：6月1～2日は、将来的に被災者がモバイルハウスを出る際の費用確保のためのクラウドファンディングの実施を想定し、筑波技術大学に動画撮影・編集を依頼した。</p>




日付	時間	状況
6月1日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 対象者は、利用者のH氏。</p> <p>日本聴覚障害新聞掲載4月号掲載（1頁・7頁）。 「ニュースろうあ石川」6月号に経過報告を掲載。</p> 
6月3日	6:31 15:40	<p>マグニチュード5.9（最大震度5強）地震発生</p> <p>T氏、自宅の公費解体の説明を受けるために、輪島市へ移動。</p> <p>動画発信「今朝の地震において安否確認の報告」動画配信</p> 
6月10日		<p>穴水町S兄弟が2次避難所を退所し、穴水町の仮設住宅へ移動。 石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。</p>
6月13日	16:51	<p>動画発信「全国ろうあ者大会での募金のお礼と義援金の締切について」動画配信</p> 
6月15日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。
6月17日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。
6月19日	21:13	<p>動画発信「被災者のインタビュー」動画配信</p> 



日付	時間	状況																																																																																
6月20日	14:00	JDF能登半島地震支援センターに関する意見交換(連絡会議)オンライン開催。																																																																																
6月22日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。																																																																																
6月24日		モバイルハウスについて、入居予定4名に対する説明会を実施。																																																																																
6月26日		やなぎだハウス駐車場に設置するモバイルハウス(応急仮設住宅)の団地名が、「やなぎだ第3団地」とされる。 ろう者3名とその家族を含む、3世帯4名の入居が確定。																																																																																
6月30日		1月11日より、災害対策業務を担当した3名(倉本文代氏、坂本美穂氏、小林宏美氏)が契約満了により、退職。																																																																																
<p>コラム：2次避難所の手話通訳・ろうあ相談員のローテーションを組み、対策本部や支援員に対するコーディネートを担当してきた。倉本氏は元行政職員、坂本氏と小林氏は当協会元職員の経験を活かし、様々な社会資源につなぎ、派遣要員の特性を理解しながら、コーディネートに携わった。その功績は大きかった。緊急時、自ら役を買って出てこられたことに感謝したい。3名の給与は、公益財団法人日本財団「災害復興支援特別基金(令和6年度能登半島地震・大雨被害)」の「令和6年能登半島地震被害における聴覚障害者支援」事業より支給した。</p>																																																																																		
<p>3名の職員が担った業務量は下記のとおり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.5次避難所における手話通訳、相談支援の補佐</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2次避難所における手話通訳、相談支援の補佐</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>被災者相談支援業務</td> <td>13</td> <td>31</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>要望・交渉</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>マスコミ・取材・来客対応</td> <td>9</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>電話通訳</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>記録</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>22</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>その他業務</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76</td> <td>87</td> <td>81</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>301</td> </tr> </tbody> </table>				1月	2月	3月	4月	5月	6月	計	1.5次避難所における手話通訳、相談支援の補佐	5	-	-	-	-	-	5	2次避難所における手話通訳、相談支援の補佐	6	12	3	2	1	0	24	被災者相談支援業務	13	31	25	5	6	7	87	要望・交渉	6	2	3	0	0	0	11	マスコミ・取材・来客対応	9	18	10	0	0	0	37	電話通訳	14	11	9	0	0	0	34	記録	3	3	22	10	9	3	50	その他業務	20	10	9	1	6	7	53	計	76	87	81	18	22	17	301
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計																																																																											
1.5次避難所における手話通訳、相談支援の補佐	5	-	-	-	-	-	5																																																																											
2次避難所における手話通訳、相談支援の補佐	6	12	3	2	1	0	24																																																																											
被災者相談支援業務	13	31	25	5	6	7	87																																																																											
要望・交渉	6	2	3	0	0	0	11																																																																											
マスコミ・取材・来客対応	9	18	10	0	0	0	37																																																																											
電話通訳	14	11	9	0	0	0	34																																																																											
記録	3	3	22	10	9	3	50																																																																											
その他業務	20	10	9	1	6	7	53																																																																											
計	76	87	81	18	22	17	301																																																																											
7月1日		<p>日本聴覚障害新聞掲載4月号掲載(2頁・11頁)。 「ニュースろうあ石川」7月号に経過報告を掲載。</p> 																																																																																
7月8日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。																																																																																


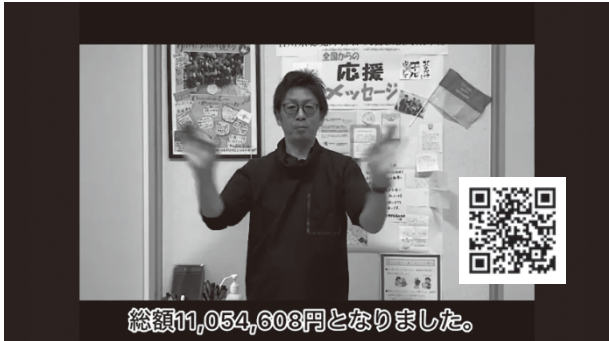
日付	時間	状況
7月12日		<p>モバイルハウス設置工事開始。</p>  <p>コラム：最初に地縄検査を実施し、7月15日から基礎工事開始予定の工程を提示していただいた。最終的には、8月26日にすべての工事と検査を終える段取りとなっている。8月29日に工事完工を記念し、何らかのイベントを実施する方向で検討を進めた。</p>
7月17日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 対象者は、利用者のS氏、M氏。</p>
7月22日		<p>全国司法書士会、石川県司法書士会とろう者の支援について協議。</p>
7月25日	16:35	<p>動画発信 「モバイルハウス設立の近況報告」 動画配信</p> 
7月26日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会に依頼した相談支援 全8回（5月15日～7月26日）を完了。 相談対象者は、延べ14名。</p>
7月31日	14:00	<p>JDF能登半島地震支援センター第2回連絡会議（オンライン）に出席。</p>
8月1日		<p>日本聴覚障害新聞掲載8月号掲載（4頁）。 「ニュースろうあ石川」8月号に経過報告を掲載。</p> 
8月6日		<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。</p>
8月15日		<p>能登町主催モバイルハウス居住者向け「モバイルハウスに設置する白物家電における説明会」開催。</p>




日付	時間	状況
8月21日		<p>参議院議員今井絵理子氏、プロレス団体「プロレスリングHEAT-UP（ヒートアップ）」が激励来訪。</p>   <p>コラム：今井絵理子参議院議員、高誠（たかまこと）金沢市議会議員、HEAT-UPの選手4名が来訪し、きこえない被災者を激励。プロレスの話題などを中心に交流会を行った。HEAT-UP所属の兼平選手とハジメ選手は金沢市出身。ハジメ選手の強靱な体格に驚きながら、二の腕の筋肉にそっと触れる被災者も。和やかな雰囲気の中、笑顔いっぱいの一と時だった。HEAT-UPの選手から、9月23日の石川県復興支援イベントについて「プロレスで皆さんを元気にしたい。是非、見に来てください。」と案内をいただいた。</p>
8月26日		<p>モバイルハウス（やなぎだ第3団地）完成。</p>  
8月28日	14:00	<p>白山市長へ表敬訪問。 出席：達磨理事長、吉岡本部長、藤平副本部長、中川所長</p> <p>コラム：2次避難所として生活の場を提供していただいたことへの謝意を伝えるため、8月29日に退所する前に、表敬訪問を行った。</p>
8月29日	8:00	<p>白山市の2次避難所に入所していた4名が退所。 最後の4名の見送り時、白山市長が2次避難所に来所。</p> <p>コラム：1月18日に2次避難所へ11名が入居して以降、それぞれが奥能登に帰還した。モバイルハウスの完成に伴い、8月29日に最後の4名が退所。7か月以上にわたり、2次避難所で支援いただき、また、ろう者に対する合理的配慮について十分に対応いただいた白山市のご尽力に深謝したい。</p>
	13:00	<p>モバイルハウス（やなぎだ第3団地）に3世帯4名が入居。 「みんな奥能登におかえりなさい会」を実施。</p>


日付	時間	状況
8月29日		 <p>コラム：モバイルハウスの完成に伴い、当協会が関わってきた奥能登在住の被災者は全員帰還することができた。ようやく震災前の能登の美味しい空気を吸って生活ができるようになったことで、喜びもひとしおであり、まるで生気を取り戻したかのように、生き活きと表情が明るくなったように感じる。人間には、変化があっても元の状態へ回帰しようとする強い傾向があり、「生まれ育った場所に戻る」ということは非常に大切なものであることを感じさせられたセレモニーであった。</p>
8月30日	14：00	JDF能登半島地震支援センター第3回連絡会議（オンライン）出席。 出席：山根・藤平
8月31日	12：52	<p>動画発信 「モバイルハウス設立の近況報告」 動画配信</p>  <p>ようやく今日帰ってくる事が出来ました。</p>

日付	時間	状況
9月1日		<p>「ニュースろうあ石川」9月号に経過報告を掲載。</p> 
9月4日	13:00	<p>石川県に「2024年度聴覚障害者の福祉施策への要望書」を提出。2024年度第1回聴覚障害者災害救援中央本部会議 開催。</p>
9月9日		<p>石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。</p>
9月14日		<p>秋篠宮皇嗣妃殿下が石川県聴覚障害者センターにご来臨された。</p>
9月18日	11:38	<p>動画発信 「みんな奥能登におかえりなさい会」動画配信</p> 
9月21日		<p>令和6年9月能登半島豪雨発生。</p>  <p>9月21日～23日、石川県能登半島で発生した豪雨災害。線状降水帯が発生し、1時間121.0mmという記録的な雨量（輪島市）であった。</p> <p>豪雨災害による死者は、合計16名。</p> <p>豪雨による河川の氾濫や土砂崩れで、多くの家屋や仮設住宅が浸水し、一部の地域では泥水が腰の高さまで達したと報告されている。</p> <p>やなぎだハウス職員が中心になって、会員や利用者の安否確認を実施。</p>
<p>コラム：やなぎだハウス設立時から今日まで、奥能登ろうあ協会は活動は続けているものの、以前のように機能できず、やなぎだハウスに安否確認等の作業を依存してきた状態。会員高齢化に伴う奥能登ろうあ協会の基盤の弱まりと、度重なる自然災害の影響もあり、心理的な負担が蓄積し、疲弊が見られると言わざるを得ない。</p>		

日付	時間	状況
9月21日	20:40	<p>動画発信 「大雨被害の安否確認の結果について」 動画配信</p>  <p>やなぎだハウスが床上浸水、モバイルハウスは床下浸水。</p> <p>コラム：やなぎだハウスの横を流れる町野川が氾濫し、近くの橋には上流から流れる樹木などが引っ掛かり、辺り一帯が冠水した。やなぎだハウスは作業室が40cm程度浸水、隣接するモバイルハウスは床下浸水を受けた。モバイルハウス入居者3世帯4名は地域の消防団が引導して柳田公民館に避難することができたため、人的な被害はなかった。しかしモバイルハウスは水が引いた後、汚泥が悪臭を放った。</p> <p>コラム：「心が折れる」という言葉はまさにこのような時に使うものであろう。元日の震災より8か月もの間、白山市の2次避難所で生活していた3世帯4名は、8月末に奥能登に帰ったばかりだった。1ヶ月も経たない間の被災者を再び襲った天災。自然の猛威になす術もなく、立ち尽くすのみ。震災と豪雨被災の不運が重なった。諦めムードが漂っていた。</p>
9月22日		<p>奥能登ろうあ協会やその関係団体（通研・手話サークル・要約筆記サークル）の会員、やなぎだハウス利用者・職員の安否確認を実施し、全員の安全を確認した。</p> <p>線状降水帯が移動する兆しが見えず、町野川の氾濫が継続。</p>
9月23日	10:00	<p>泥かき作業のボランティアを急遽招集し、約50名で作業を実施。 9～16時、「やなぎだハウス」「やなぎだ第3団地」の泥水の除去作業を実施。</p> <p>コラム：2007年能登半島地震後の戸別訪問をきっかけに、家族に守られながら自宅でひっそり暮らすろう者が複数人存在することが発覚した。手話も文字も通じないきこえない仲間を連れ出し、交流を重ね、2017年にやなぎだハウスを設立。当法人初の就労支援事業所の設立に、県内のたくさんのろう者が喜び合った。作業用の棚やテーブルは、ろう者が手作りしたものであった。…そのような、ろう者の思いが詰まった棚やテーブルは、2日間の大雨ですべてが使用できなくなってしまった。</p> <p>コラム：泥水被害は、特に、床上浸水の場合、感染症対策が必要。泥の除去、洗浄、乾燥、消毒が必要であることについて説明を受ける。洗浄→乾燥→消毒→洗浄の作業を1週間程度、繰り返し行った。</p>
	14:28	<p>動画発信 「災害救援本部報告」 動画配信</p> 

日付	時間	状況
9月30日	12:00	聴覚障害者災害救援中央本部緊急三役会議 開催。
10月1日		日本聴力障害新聞掲載10月号掲載（1頁・12頁）。 「ニュースろうあ石川」10月号に経過報告を掲載。 
10月2日		災害対策業務を担う職員1名（齋藤史織氏／週8時間）、当協会にて採用。
10月3日	14:00	JDF能登半島地震支援センター第4回連絡会議（オンライン）出席。
10月5日 ～6日		第66回北信越ろうあ者大会・第50回北信越手話通訳問題研究集会を加賀市文化会館で開催し、430名が参加。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>コラム：まだ被災者支援に終わりが見えない段階で大会運営を引き受けるのは過重労働ではあったが、分科会を実施しない形で規模を縮小した。その代替案として、特別企画「令和6年能登半島地震防災講演」を実施した。講演には、やなぎだハウス沖田職員、吉岡対策本部長が登壇した。</p> </div>
10月7日 ～10日		やなぎだハウスに、北摂聴覚障害者センターほくほく（社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会）センター長の西田美和氏が生活支援員として派遣された。
10月11日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会と、2期支援計画についてZoom協議。 具体的な日時、対象者、ワーカー、被災者サポート担当を最終確認。 全14回、期間を10月25日～3月17日とした。
10月15日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。
10月20日		聴覚障害者災害救援基金チラシ印刷。
10月25日	13:00	2024年度第2回聴覚障害者災害救援中央本部会議 開催。 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会により、2期相談支援実施。
10月29日	13:17	聴覚障害者災害救援基金チラシ発送（24,000部）。 【聴覚障害者災害救援基金のお願い】令和6年9月能登半島豪雨災害／被災したきこえない仲間や手話言語関係者を支援しよう！ 動画発信「9月21日能登半島豪雨における近況報告と義援金を10月10日に締め切り、12月中に支払うことの報告」動画配信 
10月31日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。

日付	時間	状況
11月1日		<p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。</p> <p>日本聴力障害新聞掲載11月号掲載（1頁）。</p> <p>「ニュースろうあ石川」11月号に経過報告を掲載。</p> 
11月2日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。
11月7日	14:00	JDF能登半島地震支援センター第5回連絡会議（オンライン）出席。
11月11日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。
11月27日	20:37	<p>震災に関わる要望として「アイ・ドラゴン4」の設置に関する要望運動を実施。</p> <p>対象市町：羽咋市、志賀町、中能登町、宝達志水町、石川県立ろう学校</p> <p>要望者：障害者放送通信機構・梅田理事、西田事務局長、石川県聴覚障害者協会・藤平業務執行理事、各市ろう協会三役</p> <p>動画発信「前夜の能登半島の震度5弱の地震の安否確認を終えたことの報告」動画配信</p>  <p>昨夜22:47頃、能登地方で地震が発生しました</p>
11月28日		<p>震災に関わる要望として「アイ・ドラゴン4」の設置に関する要望運動 実施。</p> <p>対象市町：珠洲市、能登町、輪島市、穴水町、七尾市</p> <p>要望者：障害者放送通信機構 梅田理事、西田事務局長、石川県聴覚障害者協会・藤平業務執行理事、各市ろう協会三役</p>
11月29日		<p>震災に関わる要望として「アイ・ドラゴン4」の設置に関する要望運動 実施。</p> <p>対象市町：石川県、白山市、加賀市、小松市、能美市、川北町</p> <p>要望者：障害者放送通信機構 梅田理事、西田事務局長、石川県聴覚障害者協会 藤平業務執行理事、各市ろう協会三役</p> <p>日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援の実施。</p> <p>対象者は、利用者のU氏、I氏、N氏、H氏。</p>
12月1日		<p>「ニュースろうあ石川」12月号に経過報告を掲載。</p> 
12月9日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。
12月13日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。

日付	時間	状況																																
12月18日	14:00	JDF能登半島地震支援センター第6回連絡会議（オンライン） 出席。																																
12月23日		<p>対象の被災者宛に、支援金・義援金を送金。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>ろう者</th> <th>きこえる人</th> <th>総計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全壊</td> <td>6世帯</td> <td>5世帯</td> <td>11世帯</td> </tr> <tr> <td>大規模半壊</td> <td>1世帯</td> <td>4世帯</td> <td>5世帯</td> </tr> <tr> <td>中規模半壊</td> <td>1世帯</td> <td>4世帯</td> <td>5世帯</td> </tr> <tr> <td>半壊</td> <td>5世帯</td> <td>17世帯</td> <td>22世帯</td> </tr> <tr> <td>準半壊</td> <td>7世帯</td> <td>7世帯</td> <td>14世帯</td> </tr> <tr> <td>準半壊に至らない（一部損壊）</td> <td>11世帯</td> <td>36世帯</td> <td>47世帯</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>31世帯</td> <td>73世帯</td> <td>104世帯</td> </tr> </tbody> </table>	区分	ろう者	きこえる人	総計	全壊	6世帯	5世帯	11世帯	大規模半壊	1世帯	4世帯	5世帯	中規模半壊	1世帯	4世帯	5世帯	半壊	5世帯	17世帯	22世帯	準半壊	7世帯	7世帯	14世帯	準半壊に至らない（一部損壊）	11世帯	36世帯	47世帯	総計	31世帯	73世帯	104世帯
区分	ろう者	きこえる人	総計																															
全壊	6世帯	5世帯	11世帯																															
大規模半壊	1世帯	4世帯	5世帯																															
中規模半壊	1世帯	4世帯	5世帯																															
半壊	5世帯	17世帯	22世帯																															
準半壊	7世帯	7世帯	14世帯																															
準半壊に至らない（一部損壊）	11世帯	36世帯	47世帯																															
総計	31世帯	73世帯	104世帯																															
12月27日		<p>3拠点での初の合同企画（やなぎだハウス・ろうあハウス・あさがおハウス）“忘年会だよ！ 全員集合”を開催。</p> <p>コラム：2次避難所であさがおハウスにお世話になったやなぎだハウスの利用者もいたため、久しぶりに顔を合わせることができた。</p>																																
2025年 （令和7年） 1月1日	16:10	<p>動画発信 「能登半島地震より1年経過したことの報告」動画配信</p> 																																
1月9日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 対象者は、支援者のA氏。																																
1月14日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。																																
1月16日		JDF能登半島地震支援センター報告会 出席。 会場：石川県地場産業振興センター／オンライン																																
1月25日	15:00	聴覚障害者災害救援中央本部と石川県聴覚障害者災害対策本部との意見交換会 開催。																																
2月10日		石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。																																
2月13日	14:00	JDF能登半島地震支援センター第7回連絡会議（オンライン） 出席。																																

日付	時間	状況
2月19日		<p>県聴覚障害者センターで、やなぎだハウスで使用する除雪機のオンライン贈呈式を開催。寄附者：国際ロータリー第2680地区</p>  <p>今日は手話をしていただきますので 原稿を読みながら御挨拶させていただきます</p> <p>こちらが 今回 寄贈された除雪機です</p> <p>やなぎだハウス一同 本当に感謝しております</p>
<p>コラム：送迎車両を寄贈していただいた国際ロータリー第2680地区に除雪機の寄贈をお願いし、贈呈いただいた。国際ロータリー第2680地区は阪神・淡路大震災を受け、情報弱者の支援を目的とした支援を継続している。</p>		
<p>コラム：柳田は盆地のため、奥能登地域でも雪が積もりやすい地域。除雪作業は力が必要なため、やなぎだハウス職員の30歳の沖田職員が1人で作業を担っている。日常業務のほか、震災関連やマスクミ対応も重なり、疲弊している中で手作業による除雪は困難であることから、ロータリークラブからの寄贈は大変有難かった。</p>		
2月27日	10：30	<p>動画発信 「国際ロータリー第2680地区より除雪機の寄贈を受けた贈呈式の報告」 動画配信</p>  <p>10分ほどで あっという間に 除雪がきれいになりました</p>
	15：00	2024年度第3回聴覚障害者災害救援中央本部会議（オンライン）開催。
3月2日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。
3月8日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。
3月9日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。
3月10日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 石川県聴覚障害者災害救援対策本部会議 開催。

日付	時間	状況
3月12日		W氏（能登町）、自宅の公費解体完了。
3月17日		日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会による相談支援を実施。 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会に依頼した相談支援事業第2期14回（10月25日～3月17日）が完了。 第2期は、相談対象者延べ37名。
3月26日	14：00	JDF能登半島地震支援センター第8回連絡会議（オンライン）出席。
3月27日		文書「令和6年能登半島地震&大雨による聴覚障害者災害救援基金の受付終了について（お願い）」を加盟団体に発送。
3月31日		能登半島地震に関する支援金、義援金の受付を終了。 支援金38,490,999円（2025年3月31日終了） 義援金11,054,608円（2024年10月15日終了）
4月2日	20：04	<div data-bbox="459 792 1329 831" data-label="Text"> <p>動画発信 「支援金・義援金の受付終了に伴う御礼と報告」動画配信</p> </div> <div data-bbox="448 846 1058 1171" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="539 1137 967 1167" data-label="Caption"> <p>3/31をもって災害救援中央本部(連盟)による</p> </div> <div data-bbox="448 1178 1126 1211" data-label="Text"> <p>※（社福）石川県聴覚障害者協会公式LINEのみ配信。</p> </div>
4月23日	14：00	JDF能登半島地震支援センター第9回連絡会議（オンライン）出席。
5月2日		七尾市長宛に、要望書「緊急災害時に七尾市在住の聴覚障害者手帳保持者の名簿をご提供ください」を提出。 提出者：石川県聴覚障害者協会 業務執行理事 藤平淳一 同行者：JDF能登半島地震支援センター 事務局長 本田雄志氏 七尾中能登ろうあ協会会長 三浦亜紀子
5月12日		S兄弟（穴水町）、自宅の公費解体完了。
5月14日		やなぎだハウス送迎車両贈呈式（オンライン）開催。 公益財団法人洲崎福祉財団「令和6年度下期石川県復興支援助成」助成について当協会への助成が決定し、「令和6年度下期石川県復興支援助成贈呈式」に出席。 助成金を使用し、トヨタ・ルーミー カスタムG 1台を購入。 N氏（珠洲市）、自宅の公費解体完了。
5月16日	13：30	JDF能登半島地震支援センター第10回連絡会議（オンライン）出席。

日付	時間	状況
5月19日		<p>「聴覚障害者災害救援基金チラシ」27,000部配布。 表面「能登半島地震&大雨災害にご支援いただいた皆さまに深く感謝いたします」 裏面「聴覚障害者災害救援基金へのご協力のお願い」「鳥取県に全国初の聴覚障害者災害救援自動販売機設置!」「災害はいつ来るのかわからないので、備えが必要です!」</p>
7月3日	14:00	JDF能登半島地震支援センター第11回連絡会議（オンライン）出席。
7月11日	10:00	2025年度第1回聴覚障害者災害救援中央本部会議（オンライン）開催。
7月27日		やなぎだ第三団地 外出支援（対策本部委員）実施。
8月14日	17:43	<p>動画発信「大雨被害の状況報告」動画配信</p>  <p>※（社福）石川県聴覚障害者協会公式LINEのみ配信。</p>
9月15日		やなぎだ第三団地 外出支援（ろうあハウス職員）実施。
9月21日		やなぎだ第三団地 外出支援（対策本部委員）実施。
12月5日		やなぎだハウス作業所改修完工式 開催。
		

日付	時間	状況
12月8日	17:01	<p data-bbox="453 210 1436 293">動画発信 「2025年12月5日 やなぎだハウス作業所 改修完工式から」 動画配信</p>  <p data-bbox="512 600 979 636">心が晴れやかになっています。</p>
12月10日		<p data-bbox="448 687 1436 792">令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨に係る知事感謝状贈呈式にて、 (一財)全日本ろうあ連盟および(社福)石川県聴覚障害者協会が感謝状を授与。</p> 
12月17日	15:27	<p data-bbox="453 1247 1197 1283">動画発信 「やなぎだハウス作業所 改修完工式」動画配信</p> 

6 支援物資運搬記録一覧

月日(曜)	運搬担当名	届け先	救援物資				その他	
			水 (ケース)	カイロ	食品	その他		
1月3日(水)	沖田 耐芽	穴水町、珠洲市		○	○	○	ブランケット、カセットガス、食品等	
1月5日(金)	山科 孝良	羽咋郡市(羽咋市、志賀町、宝達志水町)	8	○	○	○	トイレットペーパー等	
1月6日(土)	岡田 智浩	輪島市曾々木	5	○	○	○	ランタン+乾電池、毛布等	
	西 暢三							
	加藤 康士	能登町柳田	15	○	○	○	ランタン+乾電池、毛布等	
	山田 進							
	中川 英昭	能登町松波・宇出津	10	○	○	○	ランタン+乾電池、毛布等	
	堀口 佳子							
	宮河 春樹	珠洲市	10	○	○	○	ランタン+乾電池、毛布等	
1月11日(木)	高田 昌利							
	篠原 正行	穴水町	10	○	○	○	ランタン+乾電池、毛布等	
	新田 照子							
1月14日(日)	岩田 隆光	七尾市(千寿苑)				○	補聴器電池、簡易トイレ等	
1月17日(水)	沖田 耐芽	やなぎだハウス			○		ティファール、バケツなど	
1月18日(木)	嶺藤 至	七尾市(千寿苑)			○		バックご飯等	
	藤平 淳一		5	○	○	○		
	清水 愛香	あさがおハウス	5	○	○			
	浜野 秀子		5	○	○			
1月19日(金)	小林 宏美		5	○	○			
1月21日(日)	沖田 耐芽	やなぎだハウス他						
1月22日(月)	徳田 正広	来所						
	本多 薫	来所	?	○	○			
	足津 清美	来所	1	○	○	○		
1月23日(火)	岩田 隆光	七尾市(千寿苑)	10	○	○	○		
1月26日(金)	吉岡 真人	1.5避難所			○	○	寝袋、マスクなど	
1月27日(土)	東 義一	来所			○	○	ペットシート	
	西 暢三	支援物資を取りに来られないう者・サークル会員宅	22					
	赤坂裕美子							
1月28日(日)	山科 孝良	志賀町	6	○	○	○		
	浅谷 政志		14	○	○	○		
	島 大騎	七尾市(矢田郷コミュニティセンター)	15					
	加藤 康士		8					
	西 暢三		13			○	筆談ボード6ヶ	
1月29日(月)	足津 清美	来所	5	○	○			
1月30日(火)	清水 愛香	2次避難所(あさがおハウス)				○	衣類1枚(女性用)新品	
1月31日(水)	中川 英昭	2次避難所(あさがおハウス)				○	アウターなど(男性用・女性用)新品	
2月2日(金)	岩田 隆光	中能登町(赤坂さん会社)	10		○	○	トイレットペーパー	
2月5日(月)	藤平 淳一	あさがおハウス			○		菓子類	
	吉岡 真人	石川県立ろう学校	6		○		カップ麺	
2月7日(水)	岩田 隆光	中能登町(赤坂さん会社)	10	○	○		お菓子	
	沖田 耐芽	やなぎだハウス他	11		○	○	カップ麺・簡易トイレ、靴下など	
2月8日(木)	佐藤 香苗	来所(七尾市、中能登町)	3				簡易トイレ	
	赤坂裕美子	来所(七尾市、中能登町)	9	○	○	○	ティッシュ、マスク、お菓子など	
2月10日(土)	吉岡 真人	石川県立ろう学校					補聴器電池・人工内耳充電電池	
2月11日(日)	西 暢三	七尾市(矢田郷コミュニティセンター)	14		○		お菓子	
2月13日(火)	徳田 正広	来所	10					
	藤平 淳一	あさがおハウス			○		輪	
2月14日(水)	中川 英昭	あさがおハウス			○	○	お茶600ml26本、紙コップ	
	岩田 隆光	中能登町(赤坂さん会社)	10					
2月15日(木)	長井由美子	石川中央保健福祉センター					○	生理用品、赤ちゃん用紙おむつ
	浅谷 政志	来所	5		○		お菓子	
2月17日(土)	今 圭子	来所	3		○	○	マスク、ウェットティッシュなど	
	森川さや香	あさがおハウス			○		カップ麺、お菓子	
2月23日(金)	山本静香	来所(石川県立ろう学校)	4		○	○	寝袋、電気カーペット、筆談ボードなど	
	松井泉恵	来所(七尾市ろう協会)				○	マスク、除菌シート	
2月26日(月)	佐川急便 (チャーター便)	中能登町(赤坂さん会社)	130					
2月27日(火)	戸田正之	来所(志賀町)	1	○	○	○	お菓子、味噌汁、紙コップ	
2月29日(木)	沖田 耐芽	やなぎだハウス	10		○	○	お菓子、味噌汁、マスク、大人用おむつなど	
3月1日(金)	中川 英昭	あさがおハウス					お茶、カップうどん	
3月2日(土)	西 暢三	来所(職場)		○		○	肌着	
	赤坂裕美子	来所(七尾市、中能登町)		○				
3月6日(水)	長井由美子	石川県肢体不自由児協会		○				
3月7日(木)	柳澤知栄	来所(羽咋市)	1					
3月10日(日)	西 暢三	内灘町社会福祉協議会		○				
	長井由美子	内灘町社会福祉協議会		○		○	赤ちゃん用紙おむつ、おしりふき	
3月12日(火)	岩田 隆光	羽咋市(正津さん宅)	10					
	中川 英昭	あさがおハウス			○		お茶、カップうどん	
3月25日(月)	赤坂裕美子	来所(七尾市社協、中能登町)		○				
3月27日(水)	長井由美子	石川県肢体不自由児協会		○		○	歯磨き用品	
4月11日(木)	藤平 淳一	やなぎだハウス	7					
5月24日(金)	浜野 秀子	2次避難所				○	苗、プランター	
	佐川急便	やなぎだハウス	100?	○	○	○	毛布、マット、除菌シート等いろいろ	
7月14日(日)	浜野 秀子	2次避難所				○	毛布、マスク、ランタン、スリッパなど	
	長井由美子							
8月22日(木)	吉岡 真人	ろうあハウス				○	寝袋、毛布、除菌シートなど	
8月31日(土)	壁下潤一	UDトーク学習会				○	ホワイトボード	
9月7日(土)	赤坂裕美子	七尾市、中能登町		○			ホワイトボード	
9月9日(月)	浜野 秀子	奥能登各役場				○	ホワイトボード	
	浜野 秀子					○	電気ストーブ	
11月19日(火)	吉岡 真人	柳田第三団地						
	藤平 淳一							
	斎藤 史織							
12月3日(火)	赤坂裕美子	来所(輪島市)		○			毛布など	
12月11日(水)	藤平 淳一	やなぎだハウス	2	○				
12月26日(木)	赤坂裕美子	来所(珠洲市)					カイロ	
1月14日(火)	浜野 秀子	奥能登地域		○				
1月15日(水)	赤坂裕美子	来所(七尾市、中能登町)		○				
1月15日(水)	藤平 淳一	やなぎだハウス	1					

7 1.5次避難所における支援体制

石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長

吉岡 真人

1.5避難所である石川県総合スポーツセンターからの受け入れにより、きこえない・きこえにくい人の相談支援体制を立ち上げ、平日の日中は金沢市身体障害者相談員（きこえない・きこえにくい人）の5名（吉岡、福村、青井、藤平、山村）の他、石川県聴覚障害者相談支援を担うきこえない・きこえにくい人の相談員（中川、清水、沖田）、その他の支援（入浴支援など）には移動支援を担うメンバー（達磨、新田）による協力体制で、1月12日～18日まで1週間、支援を行った。

18日に2次避難所へ移行した後は、あさがおハウス所長の中川が居住支援担当を担い、相談支援体制を引き継いだ。

初期の相談支援体制は、1.5次避難所における、日中のきこえない・きこえにくい被災者の相談・コミュニケーション支援、心のケア、被災についての傾聴や遠隔手話のタブレットの活用などを行った。

また、当対策本部の居住支援担当により、平日午前・午後の2交代制で、相談員を配置した。女性の入浴支援は、介護資格を持つろう者1名にご協力いただいた。

2月16日には、奥能登広域設置手話通訳者の浜野より、1.5次避難所にきこえない・きこえにくい被災者K氏とT氏（輪島市）の2名が滞在しているという連絡があり、2月19日、27日に相談支援を実施し、退所するまで、手話通訳者の浜野による支援のほか、石川県障害保健福祉課の西山氏からもご協力いただいた。

8 2次避難所での暮らしについて

避難者の1日の流れ（平日）

場所・時間	避難者の行動	白山市・避難所の動き	石川県聴覚障害者センター・災害対策本部の動き	沖田職員の動き ※不在時は中川所長が対応
2次避難所 7:00 9:20	朝食 血圧測定	朝食の提供 手話通訳配置		血圧測定支援
移動 9:30 ※2次避難所 ※病院	あさがおハウスへ ※体操教室等の行事がある時は参加 ※定期受診等、通院のある方は病院へ	避難所での行事等の開催 病院受診の送迎（3月まで）	※センター職員が送迎・通訳（4月より）	公用車で送迎
あさがおハウス 10:00 11:45 12:00 13:00 15:00	活動開始 ※毎週火曜日はやなぎだハウスから取り寄せた材料で製品作り 昼食 ※時折あるうどん・カレー等のサービスの時は避難所へ 活動再開 活動終了	保健師の巡回 必要に応じ、各種サービス等の手続きの説明・支援 昼食の提供 毎日のお弁当にも少々飽き気味。時折あるうどん・カレー等のサービスがうれしい！！	居住地の自治体との連絡調整 事前にフードカップ類、コーヒーなど避難者のリクエストにより、Amazonのほしい物リストに追加し、提供	公用車で避難所へ弁当の受取
移動	2次避難所へ			公用車
ショッピングセンター（週2回） 入浴施設（週2～3回） 15:30 ※移動	買い物 入浴	買い物バスの運行（6月まで） 温泉入浴バスの運行（6月まで）	入浴支援、介助	公用車で送迎（7月より）
2次避難所 16:30 18:00 22:00	夕飯まで憩いのひと時 夕食 就寝	夕食の提供	ろうあ相談員 17:15～19:00（4月まで）	相談員 15:00～ 17:30

避難者の1日の流れ（休日）

場所・時間	避難者の行動	白山市・避難所	石川県聴覚障害者センター 災害対策本部
2次避難所 7:00	朝食 受付でろうあ相談員・ 通訳者等との談笑が憩 いのひと時	手話通訳（土曜のみ） 9:00～12:00 保健師による健康チェック 随時、食事フェアや催しの 提供	ろうあ相談員 9:00～17:30（4月まで） 9:00～15:00（5月より）
12:00	昼食		
18:00	夕食		
22:00	就寝		

2次避難所での自由行動としては主にテレビ視聴、新聞の閲覧、買い物、ろうあ相談員・手話通訳者との会話などが挙げられた。一方で、心身の疲労の影響もあり、睡眠に充てる時間が比較的多いものと推察される。避難所内にアイ・ドラゴン4が設置されていなかったため、情報保障の観点から残念であった。

【支援内容】

①情報保障

- ・手話通訳者の設置
- ・夜間対応の遠隔手話通訳のためのiPadを設置（県聴覚障害者救援対策本部持ち込み）
すべての市職員が活用できるよう、マニュアルの作成と掲示
- ・コミュニケーションボードの作成と設置
- ・2次避難所各所にホワイトボードの設置（地域活動支援センターろうあハウスからの寄贈）

②生活支援

- ・入浴支援、入浴介助
- ・買い物支援
- ・認知傾向への対応

③医療

- ・食事の管理
- ・病院受診、服薬等の管理
- ・ソーシャルワーカーとの面談によるメンタルヘルスチェック

④日中活動

- ・あさがおハウス
- ・2次避難所での体操教室等の行事
- ・買い物、パチンコなど自由行動（2次避難所のレンタルサイクル使用）
- ・野菜作り（2次避難所中庭にてミニトマト等を育てた）

9

能登就労支援事業所 やなぎだハウス 再開までの動き

1. 地震発生と初動対応

2024年（令和6年）1月1日、能登半島地震の発災直後には大津波警報が発令され、奥能登一帯は被害の全容が把握できない、極めて緊迫した状況に置かれた。

（社福）石川県聴覚障害者協会が運営する就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」では、発災直後から職員同士で安否確認を行い、互いの無事を確認したうえで、次に利用者の安否確認へと対応を移した。

しかし、地震の影響により停電や通信障害が発生し、固定電話やFAXはほぼ機能せず、スマートフォンについても電波が不安定な状況が続いた。やなぎだハウスの利用者の多くは、高齢のきこえない人・きこえにくい人であり、スマートフォンを所持していない人や、日本語の読み書きによる文字情報でのやり取りが難しい人も少なくない。そのため、電話やメッセージによる安否確認が困難な利用者については、職員が自宅や近隣の避難所を一軒ずつ訪ねて直接確認する必要があった。

道路の陥没や通行止めも多く、移動には時間を要したが、こうした地道な確認作業を積み重ね、利用者全員の安否が把握できるまでには約1週間を要した。

2. 石川県聴覚障害者災害救援対策本部との連携と避難生活の実態

地震発生から約2時間後、石川県聴覚障害者センターに「石川県聴覚障害者災害救援対策本部」が立ち上がった。やなぎだハウス職員はこの対策本部と連携し、情報共有を行いながら、安否確認や避難生活に関する支援を進めた。

避難所を巡回する中で、きこえない・きこえにくい利用者が置かれている厳しい状況が次第に明らかとなった。避難所では音声による情報提供が中心であり、配給の時間や場所、医療や入浴に関する案内など、生活に欠かせない情報が十分に伝わらない場面が多く見られた。

また、周囲の人と円滑に会話ができないことから、相談や雑談を通じて不安を和らげることが難しく、強い孤立感や精神的負担を抱える利用者も少なくなかった。とくに高齢で一人暮らしの利用者や、身近に家族がいない利用者にとっては、避難生活そのものが大きな不安要因となっていた。こうした状況が長期化すれば、心身の健康状態の悪化につながる恐れがあると判断され、早急な環境整備が必要とされた。

3. 1.5次避難所・2次避難所への集団避難

これらの課題を踏まえ、石川県聴覚障害者災害救援対策本部から県へ要望を行い、きこえない・きこえにくい人を対象とした1.5次避難所が金沢市内に設置された。家屋が半壊以上となった利用者とその家族は、1月12日から15日にかけて集団で1.5次避難所へ移動した。

集団での避難により、手話によるコミュニケーションが可能となり、生活上の不安や困りごとを共有しやすい環境が整えられた。その後、罹災証明書の取得や今後の生活再建を見据え、1月18日には白山市の2次避難所へ移動することとなった。

避難先では、日中の活動の場として地域活動支援センター「あさがおハウス」に通所する体制が整えられ、生活リズムの維持や社会的つながりを保つうえで重要な役割を果たした。一方で、さまざまな事情から奥能登に残る利用者もあり、やなぎだハウスの支援は「能登」と「加賀」の二地域に分かれる形

で継続されることとなった。

4. やなぎだハウスの被災状況と再開に向けた検討

安否確認の過程で、やなぎだハウスの建物自体も大きな被害を受けていることが判明した。壁の剥離や鉄骨の露出、室内の物品の散乱が激しく、安全面から通常の作業を行うことは困難な状況であった。このため、2月末までは利用者の受け入れを一時中止し、職員間で「今できることは何か」「どのように再開を目指すのか」について話し合いを重ねた。

その過程で、阪神・淡路大震災における被災・復興支援の経験を持つ佛教大学の後藤先生と出会い、能登福祉救援ボランティアネットワークを通じた外部支援の導入が具体化した。2月18日に、後藤先生がやなぎだハウスに様子を見に来てくださった際、たまたま佐藤所長が在所していたことから、出会うことができた。それからすぐに、3月1日から再開するという決断に至った。限られた人員で無理をするのではなく、外部の力を借りながら継続的な支援体制を築くという判断は、やなぎだハウスにとって大きな転換点となった。

5. 外部支援を受けた段階的な作業再開

NPO法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会を通して呼びかけを実施していただいた結果、京都を皮切りに、大阪、和歌山などから手話対応が可能な生活支援員やボランティアが派遣されることとなった。こうした支援を受け、3月1日から奥能登に残る利用者を対象に週1日の活動を再開した。

再開にあたっては、利用者や職員の心身の状態を確認しながら、無理のないペースで進めることを重視した。週1日から始め、週2日、週3日と段階的に開所日数を増やしていった。建物の修繕期間中は、近隣の柳田公民館を借用し、安全に配慮しながら作業を継続した。

6. 本格再開と再度の災害への対応

5月にはやなぎだハウスの修繕工事が完了し、施設内での作業が再開された。6月以降は震災前に近い運営体制へと徐々に戻り、利用者が日常的に通所できる環境が整えられていった。

8月末には、利用者全員の住まいが能登の地で確保され、9月からは全員が再びやなぎだハウスに通所できるようになった。「おかえりなさい会」も開催され、仲間とともに過ごす日常が戻りつつあることを実感する機会となった。

しかし同年9月、奥能登豪雨により、やなぎだハウスは床上浸水の被害を受け、再び大きな打撃を受けることとなった。

7. まとめと今後への課題

一連の取り組みを通じて、外部支援を柔軟に受け入れることや、集団で避難し支援を継続することの重要性が改めて明らかとなった。特に、外部支援の受け入れについては、平常時に作成する、BCP（事業継続計画）に必ず取り入れられるべき計画である。

一方で、やなぎだハウスが災害時の避難所として行政上位置づけられていないという課題も浮き彫りとなった。

奥能登のほぼ中心に位置し、ろう者が集まりやすく、手話で安心してコミュニケーションを取ることのできる拠点であるやなぎだハウスを災害時に活用できるよう、体制づくりを行政と協議していくことが今後の重要な課題である。

10 震災に関わる要望書一覧

日付	宛名	内容
2024年 1月7日	石川県	きこえない・きこえにくい人を優先に1.5次避難所に移動を希望する件について、電話で要望。
1月9日	石川県	情報支援が必要ならう者を優先的に1.5次避難所に移動を希望する件、搬送時や1.5次避難所において手話通訳者等と手話言語による意思疎通を可能にする件等の要望を提出。(P.34参照)
1月9日	珠洲市	「令和6年能登半島地震における情報保障者等の派遣に対する要望書」を提出。
1月24日	輪島市、珠洲市、穴水町、能登町	「令和6年能登半島地震における聴覚障害者のための仮設住宅の設置に関する要望書」を提出。
4月11日	能登町	「令和6年能登半島地震における聴覚障害者のためのモバイル建築住宅による仮設住宅の設置に関する要望書」を提出。
5月10日	能登町	きこえない・きこえにくい方々を対象とした住まいの確保に関する要望書を提出。
9月4日	石川県	「2024年度聴覚障害者の福祉施策への要望書」を提出。
11月27日 ～29日	石川県、七尾市、小松市、輪島市、珠洲市、加賀市、羽咋市、白山市、能美市、川北町、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町、石川県立ろう学校	「福祉施設、避難所等に情報アクセシビリティ対応機器「アイ・ドラゴン4」を設置してください」要望書を提出。
2025年 5月2日	七尾市	「緊急災害時における七尾市在住の聴覚障害者手帳保持者の名簿提供の要望書提出について」要望書を提出。

11 感謝状被贈呈者一覧

- 2024年4月29日 やなぎだハウス修繕完工式
 - ・能登福祉救援ボランティアネットワーク
- 2024年5月16日 やなぎだハウス送迎車両贈呈式
 - ・国際ロータリー第2680地区
- 2025年2月19日 やなぎだハウス除雪機贈呈式
 - ・国際ロータリー第2680地区
- 2025年8月3日 第58回石川県ろうあ者福祉大会
 - ・白山市
 - ・日本障害フォーラム 災害総合支援本部 能登半島地震支援センター
 - ・特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会
 - ・一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会
 - ・認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構
 - ・株式会社プラスヴォイス
 - ・西田美和氏

12 開催行事一覧

○やなぎだハウス修繕完工式

日 時：2024年4月29日

場 所：やなぎだハウス

内 容：地震により被害を受けたやなぎだハウスの建物を聴覚障害者災害救援基金（支援金）により修繕した。

主 催：石川県聴覚障害者災害救援対策本部

出席者：中央本部、能登町、能登福祉救援ボランティアネットワーク、北能産業株式会社、全国聴覚障害者情報提供施設協議会、石川県聴覚障害者協会、やなぎだハウス（全51名）

次 第：

- ・主催の挨拶 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長 吉岡真人
- ・来賓挨拶 能登町 町長 大森凡世氏
- ・来賓挨拶 聴覚障害者災害救援中央本部 運営委員長 石野富志三郎氏
- ・来賓挨拶 能登福祉救援ボランティアネットワーク 共同代表 石井布紀子氏
- ・感謝状贈呈 能登福祉救援ボランティアネットワーク
- ・謝辞 社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 理事長 達磨敏
- ・来賓紹介 北能産業株式会社 代表取締役 福池功氏
- ・来賓紹介 全国聴覚障害者情報提供施設協議会 理事長 中西久美子氏
- ・来賓紹介 聴覚障害者災害救援中央本部 副運営委員長 鈴木唯美氏
- ・来賓紹介 聴覚障害者災害救援中央本部 運営委員 桐原サキ氏
- ・経過報告 やなぎだハウス 所長 佐藤香苗
- ・経過報告（奥能登に戻って想うこと）奥能登ろうあ協会役員、利用者代表等
- ・閉会のことば 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 事務局長 山科孝良
- ・工事終了箇所の説明（北能産業株式会社・佐藤所長）

○やなぎだハウス送迎車両贈呈式

日 時：2024年5月16日

場 所：やなぎだハウス

内 容：兵庫県のロータリークラブ「国際ロータリー第2680地区」より、トヨタ・ノア（ハイブリッド車／7人乗り）1台の贈呈を受けた。

主 催：石川県聴覚障害者災害救援対策本部

出席者：国際ロータリー第2680区、ロータリー財団委員会、次期ロータリー財団委員会、社会奉仕委員会、能登福祉救援ボランティアネットワーク、石川県聴覚障害者協会、やなぎだハウス（全51名）

次 第：

- ・開会および主催挨拶 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 副本部長 藤平淳一
- ・来賓挨拶 国際ロータリー第2680区 2023-24年度ガバナー 安行英文氏

- ・送迎車両贈呈・車両披露 国際ロータリー第2680区
- ・感謝状贈呈 国際ロータリー第2680区
- ・謝辞 社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 理事長 達磨敏
- ・来賓紹介 国際ロータリー第2680区 2023-24年度ガバナー 安行英文氏
- ・来賓紹介 ロータリー財団委員会 委員長 吉岡博忠氏
- ・来賓紹介 ロータリー財団委員会 令夫人 吉岡喜久子氏
- ・来賓紹介 ロータリー財団委員会 副委員長
補助金小委員会 委員長 秦紳一郎氏
- ・来賓紹介 次期ロータリー財団委員会 副委員長 瀧川祥也氏
- ・来賓紹介 社会奉仕委員会 委員長 喜多美雄氏
- ・来賓紹介 能登福祉救援ボランティアネットワーク 共同代表 石川布紀子氏
- ・経過報告 やなぎだハウス 所長 佐藤香苗
- ・閉会のことば 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 副本部長 藤平淳一

○「みんな奥能登におかえりなさい会」

日 時：2024年8月29日

場 所：柳田公民館

内 容：2次避難所に避難していた利用者が奥能登に戻り、やなぎだハウスの通所事業を再開した。

主 催：石川県聴覚障害者災害救援対策本部

出席者：中央本部、一般社団法人日本モバイル建築協会、能登福祉救援ボランティアネットワーク、JDF能登半島地震支援センター、株式会社クリエイト礼文、認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構、石川県身体障害者団体連合会、石川県聴覚障害者協会、石川県聴覚障害者災害救援対策本部、やなぎだハウス（全47名）

次 第：

- ・主催挨拶 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長 吉岡真人
- ・来賓挨拶 聴覚障害者災害救援中央本部 運営委員長 石橋大吾氏
- ・来賓挨拶 一般社団法人日本モバイル建築協会（※現在は一般社団法人日本オフサイト建築協会）
代表理事 長坂俊成氏
- ・来賓挨拶 能登福祉救援ボランティアネットワーク 共同代表 石井布紀子氏
- ・来賓挨拶 JDF能登半島地震支援センター センター長 田中弘幸氏
- ・来賓紹介 （上記以外では、北信越ろうあ連盟 理事長 石川渉氏）
- ・経過報告 認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構 事務局長 西田浩文氏
- ・経過報告 やなぎだハウス 所長 佐藤香苗
- ・経過報告 （奥能登に戻って想うこと）奥能登ろうあ協会役員、利用者代表等
- ・経過報告 （モバイルハウスについて）株式会社クリエイト礼文 代表取締役CEO 大場友和氏
- ・閉会のことば 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 事務局長 山科孝良

○除雪機贈呈式

日 時：2025年2月19日

場 所：石川県聴覚障害者センター

※やなぎだハウスからはオンライン参加

内 容：兵庫県のロータリークラブ「国際ロータリー第2680地区」より、HONDA HSS1170i (J) 小型ハイブリッド除雪機1台の贈呈を受けた。

主 催：石川県聴覚障害者災害救援対策本部

出席者：国際ロータリー第2680区、ロータリー財団委員会、社会奉仕委員会、石川県聴覚障害者協会、やなぎだハウス（全27名）

次 第：

- ・来賓挨拶 国際ロータリー第2680地区 2024-25年度ガバナー 矢坂誠徳氏
- ・除雪機目録の贈呈・披露 国際ロータリー第2680地区
- ・感謝状贈呈 国際ロータリー第2680地区
- ・謝辞 社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 理事長 達磨敏
- ・謝辞 やなぎだハウス 所長 佐藤香苗
- ・来賓紹介 国際ロータリー第2680地区 2024-25年度ガバナー 矢坂誠徳氏
- ・来賓紹介 ロータリー財団委員会 委員長 吉岡博忠氏
- ・来賓紹介 ロータリー財団委員会 副委員長 瀧川祥也氏
- ・来賓紹介 社会奉仕委員会 委員長 喜多美雄氏
- ・来賓紹介 社会奉仕委員会 副委員長 小坂圭一氏
- ・除雪機の所感 やなぎだハウス 職員 沖田耐芽

○やなぎだハウス作業所改修完工式

日 時：2025年12月5日

場 所：やなぎだハウス

内 容：豪雨により被害を受けたやなぎだハウスの作業室を聴覚障害者災害救援基金（支援金）により修繕した。

主 催：石川県聴覚障害者災害救援対策本部

出席者：中央本部、能登町、JDF能登半島地震支援センター、北能産業株式会社、北信越ろうあ連盟、北國新聞、日本聴力障害新聞、認定特定非営利活動法人障害者放送通信機構、石川県聴覚障害者協会、石川県聴覚障害者災害救援対策本部、やなぎだハウス（全50名）

次 第：

- ・主催挨拶 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長 吉岡真人
- ・来賓挨拶 能登町長 吉田義法氏
- ・来賓挨拶 聴覚障害者災害救援中央本部 運営委員長 石橋大吾氏
- ・支援金目録贈呈
- ・謝辞 社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 理事長 達磨敏
- ・来賓紹介
- ・経過報告 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 副本部長 藤平淳一
- ・閉会のことば 石川県聴覚障害者災害救援対策本部 事務局長 山科孝良

13 全体を振り返って

2次避難所における聴覚障害者支援への取組み

石川県聴覚障害者協会の皆様には、日頃より本市の福祉行政の推進に、多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

また、令和6年1月1日の能登半島地震により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、懸命に救援活動に当たられました石川県聴覚障害者災害救援対策本部をはじめ関係各所の皆様に深く敬意を表します。

本市では松任総合運動公園体育館に広域避難所を開設し、輪島市西保地区で被災された100名を超える方々と能登各地区で被災され1.5次避難所で避難されていた聴覚に障害のある方をお迎えすることとなりました。多くの悲しみと不安を抱えながら避難されたすべての方々に対し、安全で安心できる生活環境の提供を最優先に、関係機関が一丸となり支援にあたりました。

中でも、本市に手話通訳士（者）の資格を持つ職員が5名いること、また、避難所の徒歩圏内に本市の委託事業である「地域活動支援センターあさがおハウス」があることから、聴覚に障害のある方に対し、手話言語が利用できる環境作りに努めるとともに、避難所運営を担う市職員が、避難所における災害情報や生活情報の提供、医療相談等に、適切な対応ができるよう、受け入れ前に「職員のための聴覚障害者対応マニュアル」や「コミュニケーションボード」を作成し、コミュニケーションの取り方、情報伝達の方法などを共有し、来所に備えてまいりました。

しかしながら、円滑なコミュニケーションを図り、確実な情報提供を行うには、聴覚障害者災害救援対策本部との連携は欠かせません。ろうあ相談員 や手話通訳士（者）の配置、テレビ電話の設置、手話のわかるボランティアのコーディネートなどにおいて、貴本部のお力をお借りしながら環境を整えてまいりました。日中活動におきましても、「地域活動支援センターあさがおハウス」にて本市の聴覚に障害のある方々と交流をしながら、「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」で取り組んでいる内容と同じ作業をされるなど、被災された皆様の心の安定が保たれるようお力添えをいただきました。

さらに、高齢の聴覚障害者にとっては、医療相談や通院、福祉サービスの利用なども必要となることから、対象者の住所地の自治体と連携を図りながら、福祉サービスの提供を行うなど、コーディネート業務等も本市が担い、避難生活の安定につなげることを目指しました。

そのような中でも、聞こえる人が多くを占める避難所において、聴覚に障害のある方にとっては情報が届きにくい場面もあり、不便を感じさせたこともあったことと思います。

こうした教訓を踏まえ、福祉避難所の開設に際しては、情報伝達やコミュニケーションがより円滑に行われる支援体制を整えてまいりたいと考えておりますので、引き続き、県聴覚障害者協会の皆様にはお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、まだまだ復旧・復興半ばである被災地の一日も早い復幸を心より祈念申し上げ、ご報告とさせていただきます。

白山市長 田村敏和

“地元で粘る”を応援する～能登福祉救援ボランティアネットワークの活動

能登福祉救援ボランティアネットワーク 共同代表 後藤至功

1. 能登福祉救援ボランティアネットワークの発足の経緯

2024（令和6）年1月1日夕刻、石川県能登地方をマグニチュード7.6、最大震度7を観測する地震が発生した。能登半島地震で被害のあった高齢者施設・障害者施設では、多くの職員が被災する厳しい状況の中で、疲労が極度に蓄積していた。また、余震が続き物資の供給もままならない中で、利用者の精神状態も不安定となるなど、外部からの応援が緊急的に必要な事態となっていた。このような福祉現場の人的支援・物的支援のニーズに対応するため、全国各地からの参画団体とともに、「能登福祉救援ボランティアネットワーク」（以下、「本ネットワーク」）を立ち上げ、被災地の社会福祉事業所に対して、必要な物資の送付や外部支援者の派遣等の活動を行うこととした。被災した奥能登地方では多くの被災施設・事業所が広域避難を選択する一方、避難によって利用者の状況・症状悪化を懸念したことや施設自体は建物損傷を受けずに生活できる空間が残ったこと等の理由により、現地に残った施設・事業所もあった。本ネットワークでは、関係機関・団体の協力のもと、奥能登地方に残る計8法人に対しボランティア派遣を行うことを決定した。

2. やなぎだハウス（能登町）再建プロジェクト

本ネットワークでは、京都聴覚言語障害者福祉協会より情報を入手し、やなぎだハウスに対する支援を模索しアプローチを試みた。その結果、奥能登に残った7名のために3月から通所を再開する方向で調整（当初は週1回⇒3回、6月から週5回となる）、再開にあたって職員が足りないため、全国聴覚障害者情報提供施設協議会と連携し、全国より職員派遣の調整を依頼した。結果、京都、大阪、和歌山より聴覚障害関連団体より職員派遣がなされた。また、長野県社会福祉協議会の協力により個人ボランティアの派遣が可能となった（延べ41名）。外部支援者の宿泊にはトレーラーハウスデベロップメント（株）よりトレーラーの貸与（1台）を借り受け、体制を整えた。また本ネットワークでは、大規模災害の発生後、就労支援事業の生産活動がストップするケース（受注が止まる、販路が休止となりなくなる等）を予測し、当事業所が製作する商品を預かり受け、被災地外での販売を行うことにした。併せて、一般社団法人日本モバイル建築協会（※現在は一般社団法人日本オフサイト建築協会）等との協働により、白山市に避難した利用者が戻り、住居が全壊の利用者（3世帯4名）についてモバイル建築による全国初の福祉仮設住宅（聴覚障害者用）を設置することに成功した。また、やなぎだハウスでは9月豪雨において、浸水被害が発生、床を剥がす状況に追い込まれた。本ネットワークでは復旧に関する支援を行う中で商品の販促活動、地域とのつながりづくりの取り組みを進めることとなった。

3. 今後に向けて

今回、多くの要配慮者が広域避難の道を選んだが、果たしてもっと地元で踏んばる、粘ることはできなかったのか。避難した被災者はある意味、「情報弱者」となり、地元に戻ることが難しくなった人も多い。福祉施設・事業所については、結果として、地元で粘って事業継続した施設・事業所の方が、復旧のフェーズは確実に早いといえる。これは外部の力をどれだけ活用できたかが鍵であった。また震災を機に休止した在宅福祉サービスが、結果として廃止となり被災地では現在、ケアプラン、利用計画が組めない状況が起きている。そしてこのことが被災地へ戻る足かせとなっている。本来、行政は広域避難の先にある出口戦略（福祉仮設、被災施設の存続支援、公的制度の充実等）をどのように描くのか、避難の前に検討しておくべきであった。併せて、介護・福祉事業が過疎化地域の一大産業であるという認識の上で復興計画を策定することが重要である。特に今回の震災は今後の過疎化地域に対するコンパクトシティ構想推進の布石となった。住みなれた地域で暮らすことにどれだけこだわることができるか。やなぎだハウスの実践からぜひ、学んでいただきたい。

JDF能登半島地震支援センターによるやなぎだハウスの送迎・作業支援

日本障害フォーラム（JDF）能登半島地震支援センター スタッフマネージャー
大野健志

2024年5月から、七尾市和倉町に日本障害フォーラム（JDF）能登半島地震支援センターを立ち上げ、誰一人置き去りにしないために、支援活動を続けてきました。当初2025年3月末を支援の節目と考えていましたが、2024年9月の奥能登豪雨を受け、2025年9月末まで支援を延長し、さらに2026年3月末まで再延長となりました。現在、7つの事業所支援、108件の個別支援（片付け・通院支援など）のうち30件超の継続支援を行なっています。

聴覚に障害のある人が多く利用している「やなぎだハウス」には、奥能登豪雨後に、佐藤所長と懇談を持ち、穴水町の仮設住宅に住む利用者の送迎と作業支援を2024年11月中旬から火曜日・水曜日に行なうことになりました。その後、隣接する仮設住宅（モバイルハウス）に住む3人の聴覚に障害のある方が元々住んでいた地域（輪島市・珠洲市・能登町松波）の通院支援も行うようになりました。以下、支援スケジュールとなります。

07：45	JDF支援センター出発
08：45	穴水町の仮設住宅に到着し、聴覚障害のある利用者の朝送迎
09：45	やなぎだハウス到着・作業支援開始 ・モバイルハウスに住む3人の聴覚に障害のある方の通院支援があれば行う
14：30	掃除・終礼
14：50	やなぎだハウス出発
15：50	穴水町の仮設住宅到着
17：00	JDF支援センター到着

2025年10月以降、再延長するにあたり、計24件（個別支援14件、事業所支援7件、コーディネーター3件）からアンケート調査の回答を得ました。

「個別支援」「事業所支援」「コーディネーター」でJDFの支援活動について「9月末の終了について」の問いに対して、「たいへん困る」「困る」で23件（95.8%）となりました。

なぜ、「たいへん困る」のか、理由について聞いてみると「JDFの移動支援がないと、バスの本数も少なく、バスを何度も使ったり、タクシーなどを使ったりすると交通費が高くなる。通院する距離もある」「職員不足で、送迎がまわらない。撤退してしまうとJDFにお願いしている分ができない」「人員不足で稼働できている事業もギリギリの人員で行っているが、JDFのおかげで職員の日々の仕事が分散でき、負担も軽減されている」といった声が上がられました。そして、「国、石川県などに伝えたいこと」として、「JDFに担って頂いている配慮が細かく行き渡る支援について、自治体や事業所等、受け皿となっていく体制づくり、役割の再確認が必要」「事業所としても柔軟に支援をしたくとも、経営維持のために、最低限の支援しかできない現状にある。地元自治体独自の仕組みや資源を考えていく必要がある」といった声も届きました。

現在、JDFは、ゆめ風基金、難民を助ける会（AAR Japan）と連携し、石川県担当課とも定期的な懇談を持ちながら、障害のある人の被災地での生きづらさの現状を伝え、どのように地域の中で、あたりまえの暮らしを実現できるのか話し合いを重ねています。

モバイル型応急仮設住宅による聴覚障害者の避難生活の環境整備と自宅の自力再建支援

一般社団法人日本オフサイト建築協会 代表理事 長坂俊成

木造モバイル建築とは、住宅等の建築物を工場等で製造し、完成した建物ユニットをトラックで輸送し建設地に連結・積層する建設方式であり、完成後に別の場所に移築することもできます。木造モバイル建築は、本設の木造住宅と同等以上の性能（断熱等級5～6相当）と安全性（耐震等級3相当）、耐久性（構造躯体の耐久性は100年）を有しています。

当協会は、令和6年能登半島地震において、石川県との応急仮設住宅の建設に関する協定に基づき、木造モバイル建築を用いた応急仮設住宅を2年間のリース方式で261戸供給しました。リース期間終了後（2年後又はリース契約延長後）、被災自治体や被災者に原則無償譲渡することができます。被災自治体は災害公営住宅の建設費が軽減され、また、被災者の方々は移築して自宅の自力再建に利用することができます。

能登半島地震発災後に、災害時の障害者支援に取り組まれている特定非営利活動法人さくらネットから「被災された高齢の聴覚障害者の方々が集住できる応急仮設住宅ができないか」、「応急仮設住宅の使用後、入居された聴覚障害者の方々がそれぞれ移築し終の棲家として自宅を再建できないか」といった相談を受けました。そこで、県や市町、社会福祉法人石川県聴覚障害者協会の方々と相談し、被災前は別々の市町に住んでいた3世帯4名の聴覚障害者の方々が一緒に生活できる応急仮設住宅（能登町やなぎだ第3団地）を供給することができました。当初、行政の方々は、他の被災者との公平性や、障害者の集住は社会的排除にならないか、コミュニティから切り離されることによる孤立のリスクを心配されました。そこで、被災された3世帯4名の方々が通われていた「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」の隣接地を建設地とすることで、聴覚障害者のコミュニケーションを保障し、普段から顔の見える関係の通所施設のスタッフによる生活面の継続支援や情報支援ができる環境を確保しました。

国は、2025年5月に高齢者や障害者等の要配慮者など多様な支援ニーズに対応するため、災害救助法を改正し救助の種類に福祉サービスの提供を追加するとともに、改正災害対策基本法にも福祉サービスの提供を明記し、福祉関係者との連携を強化する方針を明らかにしました。当協会は、障害特性に応じた合理的配慮に基づく応急仮設住宅の供給の在り方や、家族や支援者の方々とのかかわりを考慮した避難生活やコミュニティの再建について国や自治体に提案し、木造モバイル建築の普及を通じて障害者等の要配慮者の災害レジリエンスの向上に取り組んで参りたいと思います。

【モバイル建築とは】

モバイル建築には3つの特徴があります。1つ目がユニット化です。住宅などの大きな建築物を基本的な単位に分けたユニット（複数の部品が合わさった一つの集合体）として製造し、それらのユニットを用いて建築物を組み立てる仕組みです。2つ目が、オフサイト化です。オフサイトとは「現場から離れた場所」という意味ですが、建物を建てる現場（敷地）とは別の場所で上記のユニットを製造することをオフサイト生産又はオフサイト製造といいます。3つ目の特徴はモバイルです。ユニットをオフサイトで作りますので、ユニット単位で建築する現場まで運ぶことができます。また、一度ユニットを組み立てて完成した建築物を再度ユニット単位に分けて何度も移築することができます。このようにユニット単位で運びなんども移築することをモバイルと呼びます。

従いまして、モバイル建築とは、オフサイトでユニットをつくり、ユニット単位でトラックや船で建設現場に運んでユニットを横に連結しさらに上に重ね合わせることで建物を建築することや、建築した建物を再度ユニット単位に分割し別の場所に移築することができる建築の仕組みです。モバイル建築の方式で建てられた住宅をモバイルハウスと呼びます。住宅としての性能は一般の住宅と同等以上の安全性、性能（断熱性や遮音性等）、耐久性を有していますので、仮設住宅とみなして利用した後、本設の復興公営住宅に転用することや、被災者個人に無償譲渡して移築して自宅の自力再建を支援することができます。

参考文献

一般社団法人日本モバイル建築協会（※現在は一般社団法人日本オフサイト建築協会）編 2025年『新住宅産業論』創樹社

立教大学大学院社会デザイン研究科編 2025年『社会デザイン学 持続可能な共生社会のために』春風社 141-153



出典：日本モバイル建築計画

「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」との連携による被災障害者支援から見える課題

特定非営利活動法人難民を助ける会（AAR Japan）

柳町幸平

AAR Japanは、能登半島地震の発災直後から緊急支援チームを現地に派遣し、自主避難所や在宅で避難生活を送る被災者、障害福祉事業所の利用者・関係者、外国人被災者など、支援の行き届きにくい人々への物資配付を行うとともに、日本障害フォーラム（JDF）やゆめ風基金と連携し、障害福祉事業所の被害情報や障害のある人の被災状況を共有しながら、建物の復旧・再開支援と被災当事者の生活再建支援を実施した。

2024年9月に発生した奥能登豪雨災害の知らせを受け、「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」の被災状況を現地で調査したところ、建物内部には土砂が流入し、備品の多くが使用不能となるなど事業所が一時中断され、利用者が通えなくなっていることが判明した。当事業所は、奥能登地域における聴覚障害者の活動拠点としても重要な役割を担っている。その事業所が被災したことで利用者の生活環境は一変し、日常の活動や就労支援の継続が困難な状況となっていた。そのような中、「早く仕事に戻りたい」という利用者からの切実な声を受け、やなぎだハウス、JDF、そしてゆめ風基金等の障害支援関連団体と相談・調整を重ねながら、冷蔵庫、電子レンジ、机、椅子、ホワイトボード、電気ポット、台車、靴箱等、事業所の再開に必要な物資支援を行った。また、冬場には、やなぎだハウスへの支援員派遣を行っていたJDFから利用者が寒い中で外仕事をしているという情報を受け、すぐに防寒着を提供した。「防寒着のおかげで外作業が楽になり、暖かく過ごせるようになった」と利用者からの声をもらい、見落とされがちな細やかな支援の重要性を改めて感じた。

これら支援にあたっては、やなぎだハウスおよび障害者団体と密に連携し、事業所や障害のある人のニーズを共有することで、迅速な支援につなげることができた。特に、常に利用者や地域の聴覚障害者の生活を第一に考え、現状や要望、具体的な課題を率直かつ的確に伝えてくださった所長や当事者職員の存在は、支援の質を高めるうえで不可欠な存在であった。

一方で、こうした地域の拠点となる障害福祉事業所が災害によって閉鎖に追い込まれた場合、利用者が地域の中で孤立し、日常的に必要な福祉支援へアクセスできなくなるという課題が明らかになった。また、災害時に、避難行動要支援者や障害者手帳保持者に関する名簿が支援を担う当事者団体へ共有されないケースもあり、その結果、被災障害者に十分にリーチできない問題も浮き彫りとなった。

災害では、障害のある人が支援や生活再建から取り残されてしまう状況が繰り返し生じている。災害時においても、障害福祉事業所や当事者団体が、地域に住む障害者の「支援拠点」としての機能を維持するためには、行政、地域住民、事業所、当事者の間で平時から連携を深めていくことが不可欠であり、そのためには関係主体をつなぐ防災プラットフォーム体制の構築が求められる。

●認定NPO法人難民を助ける会（AAR Japan） 支援内容

・ AAR やなぎだハウスへの支援物資一覧

No	品名	個数	備考
1	高圧洗浄機	1	2024年9月奥能登豪雨緊急支援
2	リール	1	2024年9月奥能登豪雨緊急支援
3	ホワイトボード	2	2024年9月奥能登豪雨緊急支援
4	車いす	1	2024年9月奥能登豪雨緊急支援
5	掃除機 小型	2	以下JDF経由で追加要望
6	キャスター付き折り畳みの机	10	
7	掃除機 業務用	1	
8	スタッキングできる椅子10脚（ライトグレー）	3	
9	椅子収納台車（多機能折りたたみカート）	1	
10	靴箱ロッカー	1	
11	キャリーカート 折りたたみ台車	2	
12	電動シュレッダー	1	
13	ラミネーター	1	
14	スタンドライト デスクライト	3	
15	3連折りたたみパーテーション	2	
16	ドラム式洗濯乾燥機	1	
17	電動ミシン	1	
18	パール金属 アイロン台	5	
19	電子レンジ	1	
20	ホワイトボード	3	
21	スチームアイロン	2	
22	電気ケトル	1	
23	パーソナルロッカー 4人用 2段	5	
24	パーソナルロッカー 4人用 2段	1	
25	越冬支援物資（衣類に貼る・靴下に貼るホッカイロ）	1	
26	多機能折りたたみカート	2	
27	冷蔵庫	1	2025年4月下旬提供
28	冷蔵庫	1	2025年4月下旬提供
29	草刈り機	1	2025年7月下旬提供

（その他）

・ やなぎだハウス利用者の墓石修復に関する相談・調整

能登半島地震における全国聴覚障害者情報提供施設協議会の対応について

特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会 理事長 中西久美子

1. 支援の背景と経緯

能登半島地震により、現地の福祉施設や避難所では職員の疲弊や不足が深刻化していました。当協議会では、被災地の福祉機能を維持するため、会員施設に対し生活支援員の派遣協力を呼びかけました。

2. 発生後の動きと派遣の実施状況

- 1月2日 石川県聴覚障害者協会とメールによる状況の共有
- 1月6日 被災地の状況を当協議会会員施設へ発信①
- 1月7日 被災地現地視察（事務局長）
- 1月7、8日 石川県聴覚障害者救援対策本部の会議に出席（事務局長）
- 1月25日 被災地の状況を当協議会会員施設へ発信②
- 2月27日
 - ・全日本ろうあ連盟より連絡を受け、「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」へ手話のできる生活支援員の派遣調整について協議、確認。
 - ・被災地で活動する「能登福祉救援ボランティアネットワーク」と連携し、支援員の派遣調整を開始。
 - ・支援員の派遣にあたり、「全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会」、「全国ろう重複障害者施設連絡協議会」とともに調整。
- 3月5日 生活支援員の派遣協力を当協議会会員施設へ発信③

【派遣概要（派遣人数延17人）】

- 3月1日 2人（京都聴覚言語障害者福祉協会）
- 3月8日 1人（京都聴覚言語障害者福祉協会）
- 3月15日 1人（京都聴覚言語障害者福祉協会）
- 3月22日（能登福祉救援ボランティアネットワークで対応）
- 3月29日 3人（和歌山県聴覚障害者協会）
- 4月5日 1人（大阪聴覚障害者福祉会）
- 4月12日 3人（和歌山県聴覚障害者協会）
- 4月19日 3人（和歌山県聴覚障害者協会）
- 4月26日 3人（和歌山県聴覚障害者協会）
- 4月29日 やなぎだハウス修繕完工式出席（理事長）

3. 人材不足の中での対応について

現在、福祉業界全体で深刻な人材不足が続いており、各会員施設においても日々の運営は決して容易ではありません。しかし、今回の呼びかけに対し、「共に福祉を支える仲間として」「被災地の窮状を見過ごせない」という強い使命感のもと、各施設でシフトの調整や業務の効率化を図り、貴重な人材を送り出していただきました。

4. 当協議会の役割と今後の展望について

今回の震災では、情報共有や支援員派遣において、隣接する第4ブロック（近畿・東海）を中心とした広域ネットワークが大きな役割を果たしました。現場のニーズを的確に捉えた「能登福祉救援ボランティアネットワーク」との連携は、迅速な支援を実現する鍵となりました。

この経験から、協議会として「できること（迅速な情報伝達や広域調整）」と「できないこと（単独での全域支援や専門外の対応）」を明確に整理する必要性を痛感しています。

今後は、自組織の限界を理解した上で、手話通訳や介護支援などの専門機関と補完し合い、必要な支援を確実に届けるためのネットワーク構築と、役割分担の最適化に向けて意見交換を重ねてまいります。

令和6年度能登半島地震における聴覚障害者へのメンタルケア支援事業 今後の必要な支援と本会の取り組みについて（考察）

一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会 会長 舘脇千春

本会は聴覚障害の特性を理解した手話でコミュニケーションできる社会福祉士と精神保健福祉士の有資格者で構成され、より良い相談支援体制を考える職能団体です。100数名の有資格者で構成される小さな団体ですが、聴覚障害者への支援に対する熱い思いであふれる聞こえる人と聞こえない人達の心意気で支えられています。

2024年正月に起きた能登地震における聴覚障害者のメンタルケアの個別面談とアウトリーチでは、微力ながらもできることをできる範囲で、石川県の皆様と一緒に支援を進めてまいりました。しかし、多くの課題が残されています。これらの活動の検証ではソーシャルワークと災害支援を専門とした学者のご見解をいただき、今後の課題は、いつでもどこでも生活課題や心のケアの支援に飛んでいけるような体制を整備するための平時からの取り組みであることを再認識いたしました。

災害は時として、人として健康に生きる平等さえ奪ってしまいます。当たり前前の日常生活が一変するだけでなく、復興の途上では様々な不安、悲しみ、怒り、諦めなど諸々の感情が沸き起こり、大抵は多くの言葉を飲み込みながら、日本の地域特有の文化とも言うべき「我慢と忍耐」で乗り越えようと努力してしまわれます。また長引く避難所生活や仮設住宅での暮らしは、がん、糖尿病や高血圧などの生活習慣病を増大させるだけでなく、アルコールやスマホ、ゲーム、引きこもりなどの合併依存も引き起こし、こころの健康もむしばむこともあり、少子高齢化が進む能登半島でも、人命だけでなく、健康被害、経済被害、心のケアに対する支援が求められています。

本活動は第一期（2024年5月～7月）と第二期（2024年10月～翌年4月末）に分けて行われ、結果、ワーカーが個別に対応したメンタルケアだけでなく、現地の支援者支援の継続的なメンタルケアのニーズもあることがわかりました。第二期が終了した後も石川県聴覚障害者災害救援対策本部からの要請を受けて、次の助成申請までのつなぎとしたメンタルケアを2025年11月現在も継続して支援させていただいております（※）。

ひとまず、第一期・第二期の支援の検証では、支援推進事業委員会において、以下のニーズと課題が浮き彫りになったことが示されています。

【ニーズ】

- ① 被災聴覚障害者の継続的なメンタルケアの必要性
- ② 支援者への支援の必要性
- ③ 潜在化している聴覚障害者へのアウトリーチ

【課題】

- ① 災害時のメンタルケア支援体制の構築
- ② 支援時に動くことができる本会会員の地域の取り組み
- ③ 人材育成

本会では災害支援のミニ学習会（オンライン）を連続的に開き、少しでも顔の見える関係を築きながら、地域においても聴覚障害に必要なソーシャルワークの理解を深めてもらう取り組みを始めています。

復興は気が遠くなるような歩みであり、取り組む課題の多さに時として、立ちすくみそうになります。本会は立ちすくむことはあっても逃げ出さずに立ち続ける『立ち尽くす実践』を心にとどめ、被災地とともに寄り添う支援を今後も皆様と一緒に考えてまいりたいと思います。

（※）財源は「石川県聴覚障害者災害救援対策本部」。

能登半島地震支援の経験から学んだこと — やなぎだハウス支援を通して —

社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会 北摂聴覚障害者センターほくほく
西田美和

2024年1月1日に発生した能登半島地震で、就労継続支援B型のほくほくと同規模である能登町のやなぎだハウスの被害がとても気になっていました。翌日の1月2日は目で聴くテレビの緊急災害放送で手話通訳を担当しながらどのような支援ができるか考えていました。石川県聴覚障害者協会のホームページで被害状況や必要な支援物資の情報が上がっていたので、ほくほくでは冬休み明けの1月4日より緊急カンパを募り、カイロと水を取り急ぎ送りました。

その後も続けてカンパを募り、どのような形で支援できるかを探っていました。そんな中、能登福祉救援ボランティアネットワークが全国聴覚障害者情報提供施設協議会を通してやなぎだハウスへの支援者を募っていると知り、すぐにネットワーク事務局の佛教大学の後藤先生へ連絡を取り、4月4日・5日に伺いました。やなぎだハウスは損傷を受けていたため、近くの公民館の一室を借りて、作業をおこなっていました。その日は奥能登ろうあ協会会長の中谷さんのお誕生日ということが分かり、みなでお菓子を寄せ集めてお誕生日ケーキを作りました。左手におにぎり、右手にケーキを持ってほおばっている中谷さんの満面の笑みが未だに忘れられません。その様子を見て、改めてろう集団の大切さを実感しました。

作業が終わった後、令和6年報酬改定で大幅な変更があったため、正しく申請の準備ができているか気になり、佐藤所長に確認をしました。震災直後の混乱の中では当然国からの大量の通知を読み解く時間もなかったようで、昨年と同じ状態で石川県に報酬改定の届出をされようとしていました。今回は大幅な改定があり、正しく申請すると収入増につながります。まず石川県に申請期日の延長を確認しましたが、4月17日から変更はないとのことでした。すぐに法人に確認を取り、4月16・17日に再訪問の調整をし、事業申請の補助をすることにしました。17日は北陸道が夜間通行止めになるため、夕方の出発時間ぎりぎりまで申請書類作りを手伝い、後ろ髪がひかれる思いでやなぎだハウスを後にしました。帰りの車内で無事に申請したと佐藤所長より連絡があった時は、ほっとしました。

その後も連絡を取り合いながら、修繕完工式やモバイルハウスの設置、みんな奥能登へ『お帰りなさい』会など復興の兆しを感じて嬉しく思っていたのですが、9月21日～23日にかけて奥能登で豪雨災害が発生し、やなぎだハウスとモバイルハウスが浸水被害に遭ったことがわかりました。10月7日～10日に再度訪問し、作業援助や事業所内の整理などの支援や利用者との交流をおこないました。

そこで一番危惧したのは、発災後の混乱の中では目の前の支援や復興に懸命になっているため、行政からの通知に目を向ける余裕がなく、必要な申請も期日までにできないままに遅れることで運営に影響が出ることでした。厚生労働省の「災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン」に利用者支援だけでなく、事務レベルの支援ができるスタッフの派遣も入れてほしいと感じています。

震災はいつ起こるかわかりません。みんなと一緒に助かるために、助かった後は復興に向けてみんなで力を合わせてがんばっていくためにも、今回の経験を次につなぎ、一緒に学んでいけたらと思います。これからもやなぎだハウスはもちろんのこと、能登で今も大変な生活をされている方々に心を寄せて皆さんの健康を祈りながらできる支援を続けていきたいと思っています。

被災した支援者の立場より

佐藤香苗（社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 やなぎだハウス 所長）

「人の心を救えるのは、人の心なんだなぁ」——今回の震災を経験して、私はその言葉の意味を深く実感しました。

お正月の夕方、うとうとしていた私は、最初の震度5の揺れで目が覚め、近所の様子を見に外へ出ました。近隣の人たちも外に出ていて、「大きかったね」「大丈夫やね」と声を掛け合い、それぞれの家に戻って行きました。しかし、家に入って玄関のドアを閉めようとした瞬間、2度目の大地震が襲いました。ドアノブにすがりつきながら動けないほどの揺れが続き、家の中では物が倒れる音が響いていました。「大津波が来る」と知り、とにかく、まずは「自分の身は自分で守る」を実践しなければと必死でした。

避難を覚悟し、すぐに暖かいズボンに履き替えました。足がもつれてうまく着替えられないほど動揺していましたが、今夜は避難所で夜を明かすことになるだろうと考えていました。

避難生活は寒さと余震の恐怖の中で始まりました。床に段ボールを敷き横になりブランケットは2人で使う感じでした。それでも、近所の人たちと一緒にいたことが大きな支えでした。「怖いね」「酷かったね」と言葉を交わすことで、不安が少しだけ和らいでいく気がしました。

翌朝、自宅の様子を見に戻ると家は傾き、駐車場は液状化でコンクリートがめくれ上がり、車の下に突き刺さっていました。車を出せる状態ではありませんでしたが、エンジンはかかったためスマートフォンの充電をしました。2日目には市役所の対策本部前で避難者も充電できるようになり、タコ足配線のような状況で多くの人が集まっていた。

そんな中、やなぎだハウスの利用者で透析患者の安否確認の連絡が入りました。福祉課職員とともに避難所を回り、3日目に本人を病院に連れて行きました。避難所では「食べるものはありますか」と訴える声もあり、支援の必要性を痛感しました。この間もやなぎだハウスの利用者はどうしているかと頭から離れませんでした。

全国から消防、警察、自衛隊が列をなして被災地に入ってくる光景を見たとき、涙があふれました。壊滅的な被害で、ほとんどの家が全壊している現実。避難所には家族を亡くした人も多く、能登の斎場が稼働せず遠方で荼毘に付す状況もありました。

停電、断水の中で、多くの支援者が全国から駆けつけてくださいました。私自身も「普段からしていることをしただけ」でしたが、手話通訳者として行政職員とともにろう者の自宅や避難所を回り、必要な支援につなげることができました。それができたのは、日頃から行政と通訳者の連携を築いてきたからです。そして聴覚障害者団体の対策本部が私の動きを支えてくれたからです。

さらに、町内の人たちも私の仕事を理解し、「ここは任せなさい。必要な仕事をしなさい」と送り出してくれました。避難所では配給品を私の分として取り分けて残してくれるなど、地域の支えがありました。

災害時に本当に人を救うのは、人と人とのつながりかもしれません。支援する側もまた被災者であり、支え合いの中で前に進むことができるのだと、私はこの震災を通して学びました。

被災体験を通じて思う支援活動

門倉美樹子（石川県登録手話通訳者）

2024年1月1日、震度7の揺れは、高齢の両親の生活を一変させました。

輪島市山間部、20軒ほどの集落にある実家で、90歳前後の両親と、帰省していた還暦過ぎの兄と私の4人で、他愛のない会話をしていたとき、突然の揺れに襲われました。

年に数回訪れる中でも、お盆とお正月はゆっくりと過ごせる特別な日でしたが、最初の震度5の揺れで柱につかまり、間もなく襲った大きな揺れの際には、私は一人で叫びながら外に飛び出し、庭から揺れる家を震えながら見ていました。

大きな揺れが収まり、外に出てきた父と母、そして兄と再会したときの光景は、今でも鮮明によみがえります。あの1分間に何を思ったのかも、今なお細かく思い出せます。生死を意識した経験は、いつでも当時の感覚や感情へと引き戻されるものです。

揺れが一旦おさまった夕方、徒歩10分ほどの小学校跡地にある集会所に、集落の人たちが声を掛け合いながら30名ほど集まっていました。夜を過ごすための毛布などの寝具を持ち寄り、お正月のお餅やおせちなど、持ってこられるものはそれぞれが持参しました。県外など遠方から家族連れで帰省し、大勢が集まっていたお宅の小学生や中学生も、突然の出来事に言葉を失っている様子でした。

集会所の玄関の引き戸は、揺れで外側に倒れて使用不能となり、外気がそのまま建物内に入る状態でしたが、畳20畳ほどの空間に集まった人たちは毛布にくるまり、それぞれ膝を抱えて座っていました。古くから続く集落であるため、地区長をはじめ、動ける人は誰もが自ら役割を探し、あるいは引き受け、暖房のこと、トイレのこと、食料のことを、「元旦になんてことだ」と嘆きながらも、順々に進めていきました。

昔からお祭りや人寄せができる集落では指揮系統がはっきりしており、どの家族の誰が足腰が弱いのか、高齢で一人暮らしか、誰がきこえにくいかなど、普段の付き合いの中で把握されています。こんな時に「災害弱者」や「自主防災組織」という言葉が頭をよぎりました。やはり、日頃からのつながりは必要なのだと、仕事柄、得てきた防災組織や行政の連絡体制を思い浮かべ、一瞬、苦笑いしたことを覚えています。

そして、「情報的孤立」。私たちは取り残されているのか、孤立していることを誰がどのように把握してくれているのか。遮断された不安は、集まった人たちが声を掛け合うことで、いくばくかは払拭できていた状況でした。きこえない人が避難していたら、避難所の中でも孤立してしまうだろうと、何人かの顔を思い浮かべながら、それぞれ「どうしているだろうか」と考えたことも覚えています。情報はまったく入ってこず、往来の市道は崩れ落ち、集落は地理的に孤立しました。山間部であるため電波も弱く、ラジオから流れる情報も途切れ途切れでした。富山県が近いためか、富山のニュースが多く、石川の情報が少なかったことにも、いらだちが募りました。

1月3日、数人で倒木や土砂崩れの山道を何とか越え、10キロ歩いた先の町は、家屋が総崩れで、いつも見ていた町並みではありませんでした。川沿いの輪島市町野支所は使用できず、向かいの東陽中学校体育館がメインの避難所となっていました。受付対応をする支所職員は本当に疲れ切った様子で、ご自身も被災していたはず。「自治体職員」は、緊急災害時に働くことが求められるからこそ身分保障があり、また、身分保障があるからこそ災害時に働くことができます。社会基盤を支える働き手に、

心の中で「ありがとう」と伝えました。

さて、この避難所には、ろう者が1人、避難していました。1週間後に訪れた際、受付で「きこえない人、手話を使っている人はいますか」と尋ねると、案内してくれました。初めて会う方だったため、藤平さんと吉岡さんのビデオを見せてから、話を始めました。

その方の上着の左袖には「耳がきこえません」とガムテープで貼られていました。ご本人が書いたのか、他の人が書いたのかは分かりません。周囲のきこえる人たちが「この人は毛布が足りなくて寒いのでは」と、さまざまなことを教えてくれました。避難所では、自治体職員だけでは行き届かない部分を、地域で顔見知りの人同士が補い合っていました。

普段の生活や、日常の付き合いの大切さを実感するとともに、「こんな時のために、当たり前のように『手話』があることが、きこえない人の暮らしの安心につながるのだ」と、いつも口にしている言葉を、改めて頭の中で反芻していました。

帰りの山道では、山頂近くで携帯電話の電波が1本立つ、10メートル四方ほどのスポットを見つけました。その時の喜びは忘れられません。金沢の家族、職場、手話通訳関係の方々に「生きているよ」と、ようやく連絡ができました。

1月6日、仕事があるため、私は両親と兄と別れ、避難所を後にしました。山道を下り、金沢に住む甥に迎えに来てもらい、帰宅しました。地震で壊れた道を何時間もかけて来てくれたことに、感謝してもしきれません。帰宅後にテレビを見た際、自分がいた集会所の映像に文字情報が重なって映った瞬間、思わず涙があふれ、嗚咽が止まらなくなるという初めての体験をしました。

また、石川県聴覚障害者協会が1月1日にすぐ災害対策本部を立ち上げていたことを後で知り、胸がいっぱいになりました。関わる人達が支えてくれている安堵感は何にも代えがたいものでした。

さて、あれから2年が過ぎました。これまで、災害地支援や被災者支援について学んできたつもりでしたが、当事者になった途端、これまで「支援」という言葉で語ってきた自分の傲慢さが見え隠れし、穴があったら入りたい気持ちでいっぱいです。この原稿に筆が進まなかったのも、そのためでした。

「寄り添う」という響きのよい言葉は、とても難しいものです。ある人には支えとなっても、別の人には合わないことがあります。個別性があるため、今後の選択や自己決定を傍らでどのように支えるのかは、一生学び続けることだと感じています。

前半を長く書いたのは、被災当事者として当時を思い起こしながら綴ったためです。災害のフェーズには、発災直後からある程度落ち着き、復興までの各段階での対応がありますが、落ち着いたと思われる後も将来の不安はあるものです。長期に渡るメンタルケアは寄り添う支援者も含めて必要だと考えます。

災害支援は、当事者支援、家族支援、地域支援、専門職支援、自治体支援など、それぞれの視点と専門性があり、人材も多様です。多くのネットワークの中で、誰もが支えると共に支えられている。その都度、自分が関わっている立ち位置を振り返る必要があると感じています。

(考えたこと)

- ・災害は想定内のものとして、日頃から目にし、話題にし、声を掛け合い、研修を重ねる仕組みが必要。

災害弱者は他人事ではなく、誰もがなり得るという意識を持つこと。

- ・年に数回の訓練や研修はとても重要である。
- ・避難場所や避難方法は、体感しておくこと。
- ・行政だけでは限界があり、地域の組織が不可欠である。
- ・多方面からの災害支援ネットワークがあれば、網目のような支援の中で、どこかに必ずつながる。

繰り返しになりますが、今後のことを考えると、日常からの地域のつながりと公的制度の充実を継続し、人任せにせず、自分自身でも考え、そして、皆で考えながら進めていくことが必要だと思います。災害支援も含め、自分が住む地域や社会を振り返ること、そして「手話施策推進法」を身近なものとしていく活動を進めていきたい——そのように願ってやみません。

最後に、能登の災害支援に携わる皆さまのご尽力に、心からの敬意と深い感謝を申し上げますと共に、皆さまの日々が穏やかであたたかなものでありますよう、お祈りいたします。

手話コミュニティの大切さ

浜野秀子（社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 奥能登広域設置手話通訳者）

20年前に広域設置手話通訳者として奥能登に赴任した頃、私は奥能登の複数のろう者と手話が通じませんでした。それぞれホームサインはありましたが極端に語彙が少なく、意思疎通は困難な人が何人もいました。何より、私と目を合わせてくれませんでした。県聴覚障害者センターや奥能登ろう協の協力を得ながらろう者同士が集う会合を重ねました。集うことで共通の話題が増え、共通の手話が増えていきました。2017年「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」が設立し、ろう者が毎日集える場所ができると、更に会話が通じるようになりました。

2024年元日の地震は能登半島全域に大きな被害を与えました。被災したろう者のうち12人が1.5次避難所を経て2次避難所に身を寄せましたが、そのほとんどが高齢者です。避難して少し落ち着いたころ、私たちは荷物取り出しの支援をしました。道路状況は悪く、自宅までは被災前の倍の時間を要しました。わずかの荷物を一日がかりで取り出し2次避難所に戻ると「どうだった?」「ひどい状態」「住み続けられるの?」「う～ん」「俺の場合は…」と、被災ろう者同士情報交換です。

次は順次、役所に公費解体の申請用紙を受け取りに行きました。柱が傾き、壁は落ち、雨漏りする自宅は「全壊」判定。住める状態ではないと分かっているにもかかわらず、公費解体の申請には踏み出せない被災ろう者たち。決心がつかないので、揃えなければならない書類の説明など全く頭に入らない様子です。自宅再建の見通しが立ってから公費解体するのなら、話はスムーズだったかもしれませんが、公費解体申請には期限があります。理屈は分かっているにもかかわらず、被災ろう者の表情は硬いまま。そして避難所に戻ると、待っていた他のろう者が「遅かったね」「どうだった?」「決めたの?」「話は進んだ?」質問攻めです。

何度も一緒に奥能登に通いました。イラストを描いたりフローチャートを作ったり、支援する側もあの手この手を尽くしました。最終的には申請書類にサインしても心の中は複雑なようで、被災ろう者同士やほかの支援者には「本当は嫌だなあ」「家無くなったら、どこに帰ればいいのか」や「先祖代々受け継いだ家なのに」など話していたようです。

8か月の避難所生活を経て、今、被災ろう者たちは奥能登の仮設住宅で暮らしています。2次避難所では「早く奥能登に帰りたい」と言っていたのですが、今は「自分の住んでいた土地に戻りたい」と言っています。住む地域が変わり、できなくなったことがたくさんあります。「近所の店とは勝手が違い、思うような買い物ができない」「海から遠くなって釣りもできない」「いつもの美容院に通えない」など行き場のない不満が溢れます。

ただ私は「手話で語れるコミュニティがあってよかった」と思います。今の彼らには、心の揺らぎを伝える術があります。不満や、感じたストレスを語れる仲間がいます。毎日小競り合いばかりしている面々ですが、彼らの生活再建にこのコミュニティは欠かせないものだと感じています。

総 括

石川県聴覚障害者災害救援対策本部 副本部長 藤平淳一

◆はじめに

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」は、最大震度7を観測し、直接死228名（関連死を含むと700名以上）、住家被害11万棟以上、避難者は最大3万4千名に上り、大規模かつ広範囲の大災害となりました。

石川県内外の多くの方が、前述のとおり甚大な被害を受けました。さらに、能登半島地震からの復旧・復興が道半ばのなか、2次避難所である松任総合体育館に避難していたきこえない・きこえにくい被災者の全員が奥能登へ帰還を果たした直後の2024年9月21日、「令和6年9月能登半島豪雨」が能登地方を襲いました。

これらの災害をとおして、我々は何ができたのか、できなかったのか。もっと有効な取り組みはなかったかなど自問自答しています。災害対応力を向上させるため、これらの課題と真摯に向き合い、この報告書をお読みいただいている全国の仲間とともに、今後発生しうる災害に備え改善していく必要があります。

◆情報発信体制・安否確認

震源地が能登北部であったこと、また県都であり当法人の活動拠点である金沢市への被害が軽微であったことから、発災後数時間以内に聴覚障害者情報提供施設（石川県聴覚障害者センター）に集まり、対策本部を設置することができました。

人命救助においては、災害発生から3日間（72時間）を過ぎると生存率が劇的に低下するといわれています。

きこえない・きこえにくい人は、家屋が全壊し、助けを求めなければいけない状況にあっても、防災無線が聞こえず、SOSの声を出すことができません。そのため、県内のきこえない・きこえにくい人の安否確認が急務でした。

このことから、我々の発信する情報に対して全てのきこえない・きこえにくい人が迅速にアクセスできるようにするためのツールとして当センターホームページや公式LINE・Facebook・Instagramに、手話言語と字幕の動画を活用した情報発信の仕組みを整え、緊急出動に備えました。その上で安否確認は、きこえる人は通研・手話サークル・要約筆記サークル会員、そして、きこえない・きこえにくい人は当法人会員だけでなく、県内在住のすべての方を対象として実施しました。

過去に発生した大震災当時の社会情勢と比べると、デジタル・デバイドも是正されつつありましたが、依然として奥能登のきこえない高齢者にはスマホを持たない人もいることから、対面での安否確認が必須でした。また、連絡体制を震災前に整備していたにもかかわらず、手話サークル役員のスマートフォンが津波で流されてしまい、安否確認が遅々として進まない状況も続いていました。

◆状況把握・情報収集体制

県内全域が被災したため、被害が顕著であった能登北部へ即座に派遣できる人員が不足していました。そのような困難な状況下で、県外から被災者の安否確認のために支援に駆けつけてくださった方々には、この場を借りて深く御礼申し上げます。

金沢市内においても、物流の停止やパニックに伴う買いだめ、被災地への救援物資の優先供給といった複数の要因が重なり、コンビニやスーパーで食料品や生活用品が不足する事態となりました。その際、北信越ブロック（福井・富山・新潟・長野）の仲間の支援があったからこそ、この危機を乗り切ること

ができました。

県知事からは「能登へ向かう道路が渋滞し、物資の遅延や救援部隊の支障となっているため、不要不急の移動は控えるように」との通知がありました。しかし、情報障害やコミュニケーション障害のある「きこえない人」「きこえにくい人」への支援は一刻を争う状況でした。そのため、対策本部より5台の車両を出し、エンジントラブルやパンクに見舞われながらも、被災者の安否確認と情報収集、支援物資の提供に努めました。

◆避難所における情報保障の手配

過去の大震災では、全国の自治体へ手話通訳者の派遣を申請した事例が多くありましたが、今回は奥能登地域のろう被災者が11名と限定的であったため、石川県の登録通訳者で対応することを決定しました。

一方で、課題も残りました。高齢のきこえない方が避難している地域の避難所に支援者が物資を届けたとき、避難所の運営側に状況を伺ってみると、「きこえない人がいるとは知らなかった」と驚かれ、指差しボードの設置など、きこえないことに対する合理的配慮が提供されたという報告は届きませんでした。また、1.5次避難所や2次避難所においては、一般の避難者と同様のスペースを活用し、テレビも共同利用であったため、アイ・ドラゴン4の設置は叶いませんでした。

それでも、対策本部からろうあ相談員（全日本ろうあ連盟登録ろうあ相談員または当法人のろう職員であり社会福祉主事有資格者）や手話通訳者（各市町の専任手話通訳者など）を派遣し、相談支援・情報保障体制の整備に取り組みました。とりわけ、各市町の専任手話通訳者は正規職員であるため、身分が保障された状態で、自治体業務として通訳支援活動に従事できたことは、当事者であるきこえない・きこえにくい被災者や対策本部、関係者の安心へとつながったと思います。

◆避難所探しのポイント

中継地である1.5次避難所に被災者が集まり始め、長期的な支援が可能となる2次避難所へ移行する段階で、正規職員の専任手話通訳者4名を擁する白山市へ受け入れを要請し、1月18日より移転が実現しました。これには、白山市障害福祉課長が手話通訳士であったこと、白山市聴覚障害者協会の顧問が市議会議員の藤田政樹先生であったことなど、行政側に深い理解者がいたことが大きく寄与しました。その結果、受け入れ先である松任総合運動公園体育館（白山市）が福祉避難所に準ずる役割を果たすことができました。

奥能登地域2市2町に暮らすきこえない人・きこえにくい人の交流拠点である就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」の利用者は、2次避難所への滞在期間中、地域活動支援センター「あさがおハウス」に通所することで、一時的に、震災の苦しみから離れることができる娯楽の場を持つことができました。

2次避難所、白山市役所（専任手話通訳者4名）、公立病院（専任手話通訳者1名）、そして「あさがおハウス」の4拠点が徒歩10分圏内に位置していたことは、長期的な支援活動を継続する上で理想的な環境であったといえます。

◆相談支援の在り方

支援活動が長期化することを見据え、持続可能な組織体制の構築を図りました。また、被災者だけでなく支援者に対してもメンタルケアが必要であると考え、気兼ねなく相談できるよう、外部団体である一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会に相談支援を依頼しました。

◆個人情報の取り扱いの在り方

奥能登地域において、身体障害者手帳を保持する聴覚障害者は約270名ですが、当時、当協会が動向を把握できていたのは約50名に留まりました。すべてのきこえない・きこえにくい方々への支援が行き届いていないことは、対策本部として大きな課題であると痛感しました。

災害対策基本法に基づき、行政窓口では避難行動要支援者名簿が作成されていますが、これは本人の申請（拳手制）により登録されるものです。きこえない・きこえにくい人は要配慮者としての登録が少ない傾向にあると想定されるため、身体障害者手帳を保持する聴覚障害者の名簿を当法人に提供していただけるよう、石川県や奥能登4市町へ要望を行いました。

2007年や2023年の地震では、被災地自治体からの依頼により、ろうあ相談員・専任手話通訳者・保健師の3名でチームを組み、公用車で戸別訪問を実施して生活支援とピアサポートを包括的に実践することができました。しかし今回の震災では、戸別訪問が別団体に委託されたため、当事者の心情に寄り添ったピアサポートの実践や、ろうあ相談員の知見につなげることができなかったことは非常に悔やまれます。別団体が中心となって戸別訪問を行われる場合も、当事者としてピアサポートが実施できるよう、当協会のろうあ相談員が同行できるようにしていただきたかったと思います。

◆災害時の事業所の運営

就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」では、利用者の半数が遠方へ避難することにより通所できない状況が続き、当法人から国保連合会への請求が困難となり、職員への給与と支払いに苦慮しました。それ以上に、職員は通常業務に加え、悪路での送迎や災害支援業務に追われ、自身の被災状況を省みる余裕さえない日々が続きました。そのため、能登福祉救援ボランティアネットワークや全国聴覚障害者情報提供施設協議会へ支援を要請し、生活支援員の派遣が実現しました。その後はJDF能登半島地震支援センターに引き継ぎ、対応を継続していただきました。

また、利用者に工賃を支払えるよう、能登福祉救援ボランティアネットワーク等の協力を得て、全国の福祉施設を通じて製品を特別価格で販売していただきました。

◆被災者の終（つい）の棲家（すみか）の支援

家屋が全壊した場合、解体については公費解体が行われるも、そのあと新築するためには、きこえない・きこえにくい人たちの中で、国の支援だけでは明らかに資金不足であり、生活再建の目処が絶たれている方々がいます。この背景には、きこえない・きこえにくいため、一般就労の機会に恵まれず、蓄財ができていない状況があります。仮設のモバイルハウスにて、一時的な生活の負担は軽減されているとはいえ、現時点では先行きが不透明な状態です。

◆さいごに

当時を振り返ると、発災が元日の夕方という時間帯だったということもあり、当時を振り返れば被災者も対策本部も情報収集には試行錯誤しながら、完全なる手探りで対応してきました。救援のあり方を巡り対策本部内にて意見が対立することもありました。その中でも「石川はひとつ」「北信越はひとつ」という共通の目的を掲げて、全国の仲間の支援を糧に未曾有の難局を乗り越えることができました。ご尽力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

現在も、被災者の暮らしを震災前の状況に近づけるにはまだ道半ばであり、被災者の心理に真に寄り添うことができたかという点については、依然として課題が残ります。

今後は、今回の経験と教訓を風化させることなく、復旧・復興に向けた支援の継続と、将来の災害に備えた強靱な地域ネットワークの再構築に全力を挙げて取り組んでまいります。

(参考資料1)

1. 能登の地域性

能登地域は、本州中央部の日本海側に位置し、圏域面積は2,404 k m²で、石川県域の12市町、富山県の1市の13市町からなる、日本海側最大の半島である。

地理的には、半島先端部（石川県珠洲市）は、金沢市から直線距離で約110km（道路距離で約140km）、また富山市からは富山湾を隔てて直線距離で約80km（道路距離で約160km）となっている。

能登地域の地形は、準平原（半島北部に連なるなだらかな丘陵地帯）、呂知瀉低地帯（半島中央部に羽咋市から七尾市にかけて存する帯状の低地域）及び宝達山（標高637m）を中心とする低い山地（傾斜地）からなり、地域内には多数の段丘が散在し、標高100m以下の土地は、50.6%を占めているが、傾斜が3%未満の土地は14.2%に過ぎず、低平地は非常に乏しい。本地域の地形のもう一つの特色は、全体として半島の突出方向、すなわち東北東から西南西を軸として富山湾側に傾いている背斜構造をなしており、このため能登半島の西北に位置する地帯は、標高100mから400mの山地地形で急峻な海食崖を形作り、東南側海岸線は穏やかな地形を形成している。海岸線は約530kmにおよび、先の背斜構造から、外浦が日本海に直接面した断崖であり、内浦はなだらかな傾斜を伴い富山湾に面していることから、対照的な景観を形成している。また七尾湾は中央に能登島を浮かべ、海岸線を一層複雑なものとし、景観に変化を与えている。南部地区の西側海岸線は、長遠な砂浜海岸であり、その粒子が非常に細かく密圧が高いため、普通の自動車が走行できる全国的にも珍しい地区がある。これらの海岸線を中心として「能登半島国定公園」に指定されるなど、優れた自然環境と景観を保有している（石川県・富山県（2016）。「能登地域半島振興計画抜粋」。

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/shinkou/hantou/documents/keikaku2015.pdf>, (参照 2025-05-09).).

能登には、おたがいのことを思いやり支えあう、人のつながりがある。昔から、能登に住む人々の素朴で温かい人情は、「能登はやさしや土までも」と表現されてきた。収穫した野菜や獲れた魚を近所の人にお裾分けし合う関係が、日々の暮らしに息づいている。能登の社会の最も大切な部分は、決して経済的な数字に表れない、緩やかで温かい形で存在している（石川県能登半島地震復旧・復興推進部創造的復興推進課（2025）。「石川県創造的復興プラン」。

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukkyuu/fukkou/souzoutekifukkousuishin/documents/souzoutekifukkouplan_1_070425_1.pdf, (参照 2025-12-12).).



引用：石川県・富山県（2016）。「能登地域半島振興計画抜粋」。

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/shinkou/hantou/documents/keikaku2015.pdf>, (参照 2026-02-18).

2. 石川県の聴覚障害者数

①身体障害者手帳保持者数

聴覚・平衡機能障害 2,857人（2023年度時点。「いしかわ障害プラン2024」より）

②石川県聴覚障害者協会 会員数（2024年2月1日時点）

（単位：名）

地域	人数
奥能登ろうあ協会	12
羽咋郡市ろうあ協会	9
七尾中能登ろうあ協会	13
河北郡市聴覚障害者協会	24
野々市市聴覚障害者協会	16
金沢市聴力障害者福祉協会	123
白山市聴覚障害者協会	28
小松能美聴覚障害者福祉協会	38
加賀市聴力障害者福祉協会	8
総計	271

3. 石川県のきこえない人・きこえにくい人の社会資源

①意思疎通支援従事者数

・石川県登録手話通訳者

（単位：名）

年度	合計人数	内訳	
		手話通訳士	手話通訳士以外
2023年度	108	35	73
2024年度	107	37	70
2025年度	111	38	73

・石川県登録要約筆記者（単位：名）

年度	合計
2023年度	51
2024年度	51
2025年度	53

・ろうあ相談員（2024年1月1日時点）（単位：名）

区分	人数
全日本ろうあ連盟登録ろうあ相談員	3
石川県聴覚障害者協会ろう職員 （社会福祉主事保持者）	5

※両区分に該当する者を1名含むため、実人数は7名。

②設置手話通訳者数

(単位：名)

圏域	市町名	設置 手話通訳者数 (R 5. 4. 1時点)	設置状況	派遣状況
南加賀	小松市	2	会計年度任用職員 2名	市ろう協会委託
	加賀市	2	正規職員1名、加賀市医療センターに週1回会計年度任用職員1名設置	県ろう協会委託
	能美市	2	正規職員1名、会計年度任用職員1名	直営
	川北町	0		県ろう協会委託
石川中央	金沢市	7	正規職員2名、嘱託職員2名 市ろう協会3名(正規職員1名、嘱託職員2名) ※市ろう協会職員：市立病院に週3日程度、午前中に1名設置。	市ろう協会委託
	かほく市	1	正規職員1名(H28～)	直営
	白山市	6	正規職員3名、市社会福祉協議会に1名、 会計年度任用職員2名	直営
	野々市市	3	正規職員3名	直営
	津幡町	1	正規職員1名(R 4. 4～)	直営(R 4. 7～)
	内灘町	1	正規職員1名	直営
能登中部	七尾市	1	正規職員1名	直営
	羽咋市	1	会計年度任用職員1名	直営
	志賀町	2	正規職員2名	直営
	宝達志水町	0		県ろう協会委託
	中能登町	1	毎週月曜日(祝日の場合は休日(R 7. 4～))1回2時間設置	県ろう協会委託
能登北部	輪島市	1	会計年度任用職員1名	直営
	珠洲市	1	県ろう協会から派遣1名(週1、2日程度)	県ろう協会委託
	穴水町			
	能登町			
石川県		2	会計年度任用職員1名、 県立中央病院に会計年度任用職員1名	
計		34		

■社会福祉法人石川県聴覚障害者協会

大正4年に初めて石川県内のろう者のための組織が誕生し、昭和35年に、県内のきこえない人の親睦と権利擁護を目的として財団法人石川県聴覚言語障害者福祉協会を設立。会員の増加に伴い、県内のきこえない人たちによる当事者団体として、聴覚障害者の福祉向上と社会参加を図るための啓発、各種研修及び会員相互の交流等の活動を展開してきた。

このような自主的な活動が理解され、昭和46年から石川県からの受託事業として手話奉仕員養成事業（現在の手話通訳者養成事業）を始め、聴覚障害者の社会参加促進を目的とする事業を広げてきた。

平成9年10月、社会福祉法人石川県聴覚障害者協会を設立し、その事業の全てを移行した。

■聴覚障害者情報提供施設「石川県聴覚障害者センター」（金沢市）

多様な福祉サービスを利用する聴覚障害者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援している。

- ・ 情報提供事業
- ・ コミュニケーション支援事業
- ・ 生活相談事業
- ・ 手話通訳・要約筆記者等の養成事業
- ・ 団体等の支援事業
- ・ 会場の提供

■就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」（能登町）

2017年、奥能登地域2市2町（輪島市・珠洲市・能登町・穴水町）に暮らすきこえない人、きこえにくい人の交流拠点として開所。2007年3月の能登半島地震発災時、輪島市の協力のもと、石川県聴覚障害者協会にて、保健師、手話通訳士がろう者宅を何う戸別訪問を行ったところ、家族の陰に隠れて表に出ないろう者と出会うことになった。金沢のろう者の手話は通じず、奥能登地域にはろう者が集まる場としてのろうコミュニティがないという課題が浮き彫りになった。そこで、奥能登2市2町の協力を得て、ろう者問題の発掘に取り組み、2007年11月には、輪島市福祉課の支援を得て「手話によるミニデイサービス」を試行し、翌2008年度からは奥能登2市2町の支援で年4回の「手話によるろう者のミニデイサービス」をスタートした。

その後、「奥能登ろう者の集い」として10年間のデイサービス事業を経て、2017年、「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」として再スタートした。

現在は、就労継続支援B型事業所として、ゴムの袋詰めやぞうり作りなどの作業を行っている。

■地域活動支援センター「ろうあハウス」（金沢市）

2002年、金沢市を中心としたきこえない・きこえにくい方を対象に、金沢市に開所。豊かなコミュニケーションを保障し、社会参加を目的とした地域活動支援センター。タオルたたみ作業、タオル袋入れ作業、タオル熨斗袋入れ、テープ貼り作業を行っている。

■地域活動支援センター「あさがおハウス」(白山市)

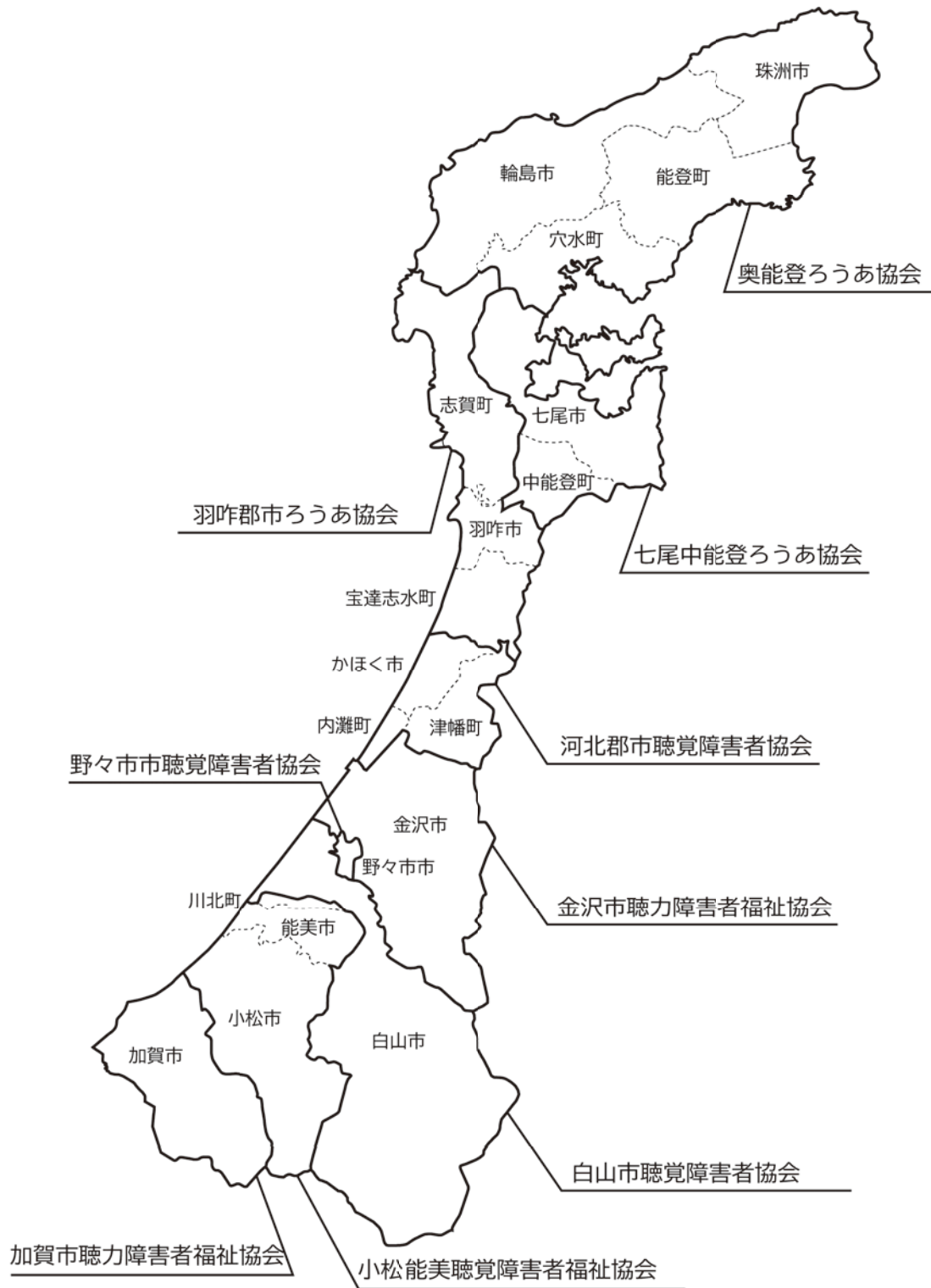
2021年、白山市を中心としたきこえない・きこえにくい方を対象に、加賀地区に開所。利用者の状況に応じた生活訓練や創作活動、体力づくり、趣味教養活動、娯楽などのプログラムを通して、自立の支援と日常生活の充実に役立つようサービスを提供している。生活に関する相談支援も実施している。

③石川県手話通訳制度を確立する推進委員会

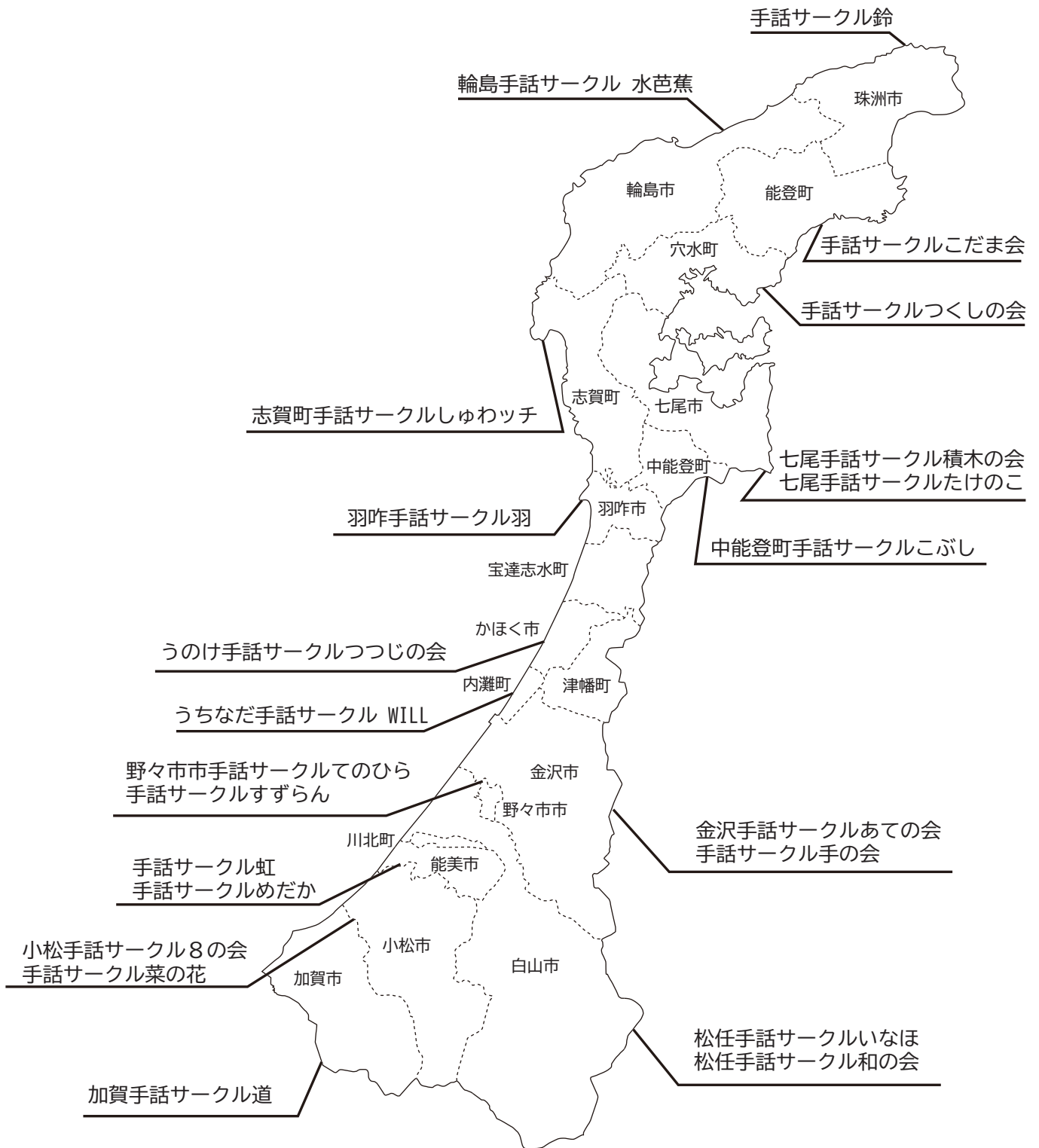
1986年、手話通訳の制度化を求めてパンフレットの普及活動を行った「アイ・ラブ・コミュニケーション普及運動」がきっかけとなり、県民、市民の理解、支援の輪も広まり、ろう者に対する行政の対応も大きな変化が見られた。しかし、県内の地域格差が顕著であったため、手話通訳制度化を求める運動団体として、1988年2月11日、社会福祉法人石川県聴覚障害者協会、石川県手話サークル連絡協議会、全国手話通訳問題研究会石川支部、石川県要約筆記サークル連絡会の4団体による「石川県手話通訳制度を確立する推進委員会」を発足した。「聴覚障害者の参政権の保障」「手話通訳設置運動」「手話言語条例制定運動」「聴覚障害者防災対策推進」「手話通訳等健康対策」「福祉施設設立運動」「アスラボ(若年層育成)」の7本の柱を掲げて運動を行っている。

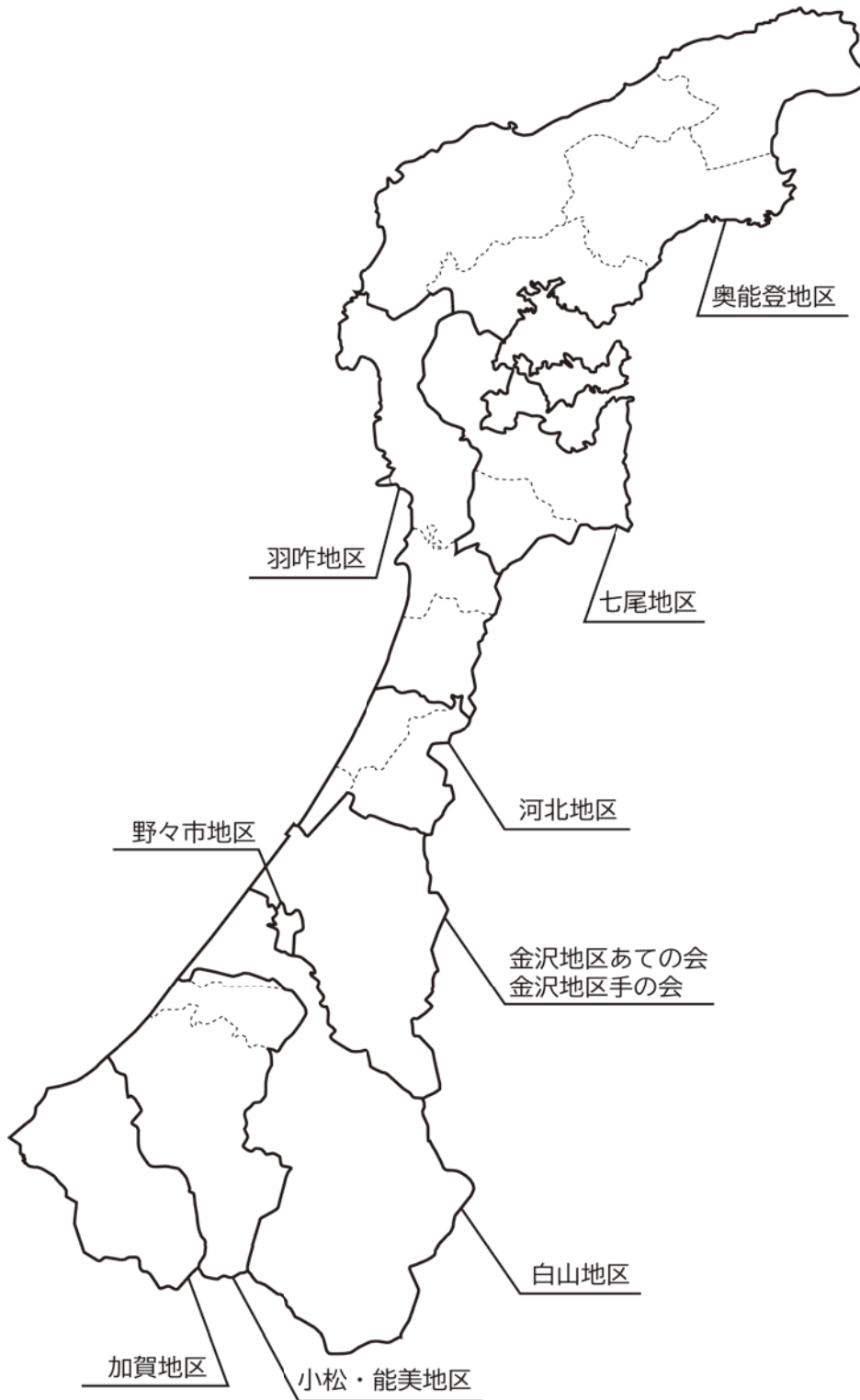
④石川県内の手話関係団体

- ・石川県聴覚障害者協会

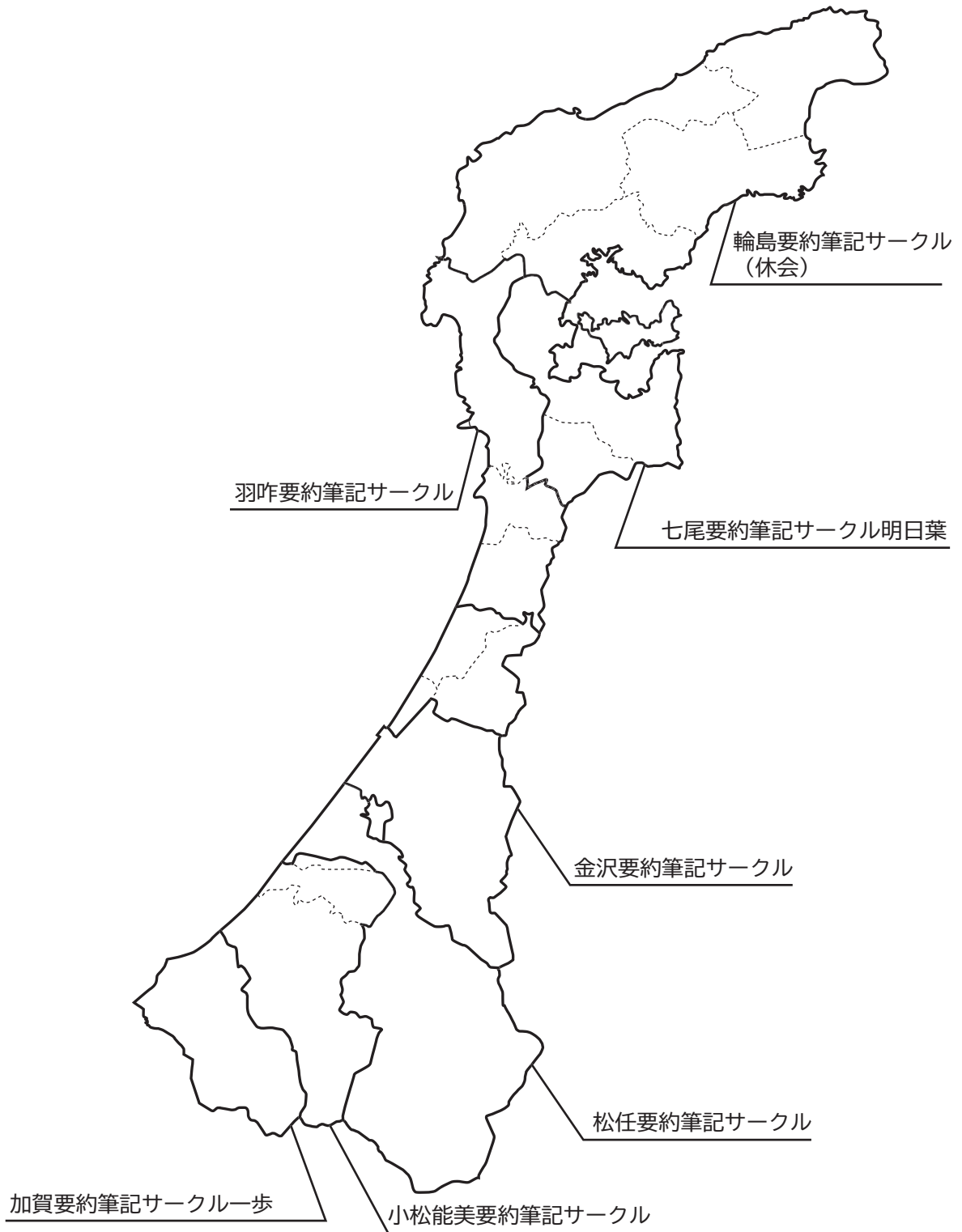


・石川県手話サークル連絡協議会





・石川県要約筆記サークル連絡協議会



(参考資料2)

一般社団法人日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会

「令和6年能登半島地震被害における聴覚障害者に対するメンタルケア及びアウトリーチ」
事業報告

事業成果報告（第一期）

1. 事業成果

(1) 事業目標の達成状況：

【契約時の目標】

1. 活動人数：派遣ワーカー 延べ16名
2. 避難所等における被災聴覚障害者支援：8名以上
3. 被災聴覚障害者支援者支援：5名以上
4. 事業内容
 - ①時期：2024年5月～7月末
 - ②活動場所：石川県白山市内の避難所等
 - ③支援対象・件数：避難所に滞在する被災聴覚障害者10名
支援者（ろうあ者相談員・通訳者）5名
 - ④具体的な活動内容：
 - (1) 避難所等で生活する聴覚障害者約10名（精神障害や知的障害の重複含む）に対する専門的な傾聴、生活再建に向けた相談支援
 - (2) 避難所等で聴覚障害者を支援する支援者に対する専門的なサポート

【目標の達成状況】

1. 活動人数：派遣ワーカー 延べ19名派遣
2. 避難所等における被災聴覚障害者支援数：
 - ①2次避難所となった地域活動支援センター避難者及びB型事業所利用者等：10名
 - ②被災聴覚障害者支援員数：6名 総計：16名（内ろう者13名、聴者3名）
3. 活動場所：石川県聴覚障害者センター、白山市松任総合運動会館、地域活動支援センター「あさがおハウス」、就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」、奥能登仮設住宅
4. 活動状況
 - ①現地の送迎及びろう通訳の活動
能登半島の地理に疎いワーカーが現地で活動するために送迎担当はやなぎだハウスの職員（運転手兼ろう通訳）及び石川県聴覚障害者センター長（石川県聴覚障害者災害対策本部副本部長）が担った。
 - ②メンタルケアのニーズの確認
2次避難所となった「あさがおハウス」へ訪問調査した結果、継続してメンタルケアが必要と思われるケースは10件ほどの実態を確認。

③主に支援員である職員への支援が課題となることが判明。

石川県は自治体設置通訳者が多く災害時は支援に赴くなどの支援体制ができていたが、現状は限られた支援者が対応しており、現地は疲弊している状況であった。

(2) 事業実施によって得られた成果：

- ① 現地のコーディネーターが本務でも相談支援を兼ねての事業を実施しており、現地のろう者を熟知していたことから、事業実施にあたっては現地のコーディネートの判断による要支援者を掘り起こすことができた。
- ② 本会と聴覚障害者災害救援中央本部との信頼関係が東日本震災支援時からできていたため、被災地の現地本部との連携が迅速に進められた。結果、現地への送迎、事前情報提供、被災聴覚障害者の通訳のサポート、かつ安全配慮の下、ワーカーが要支援者に対するメンタルケアを進めることができ、次のフェーズにも対応できる体制を整えることができた。
- ③ 派遣したワーカーによるアセスメント記録や支援計画から今後の支援の課題を見出すことができ、現地のコーディネーターと共有することで現地の支援員の疲弊を軽減。
- ④ 全国各地からの支援を受けて（現地支援者の声）
 - ・当初は外部からの訪問や支援の受け入れにやや消極的であり、高齢化・過疎化が課題となっていた保守的な地域であったが、全国各地のろう者や手話のできる人が訪問することにより、現地の被災聴覚障害者の意識やコミュニケーション方法に変化が見られ、また「外部の訪問者の応援や支援は本当に心強く助かった」との声をいただくことができた。
- ⑤ 派遣ワーカーと現地との連携・協働による成果
 - ・「みんな大変なのだから我慢しよう」と困りごとを隠してしまう国民性が見られた地域であるが、そんな場面でも、被災者の何気ない手話での会話での表情や手話の動き（緩急）、視線やしぐさ、あらゆるものからの情動を読み取り、不安や困りごとを引き出すことができていた。
 - ・現地の相談支援員と共に、拒否感や抵抗感をもつきこえない人とも根気よく手話で会話しながら肯定的に寄り添い続ける中で支援対象者と信頼関係を築くことができ、寄り添う支援を実践できていた。
 - ・支援の現場では他の職種（医師、看護師、保健師等）が気づきにくいニーズに目をとめる「気づくことのできる専門職」を發揮していた。
- ⑥ 関係機関・団体との連携・協働

石川県内の専門機関（石川県精神保健福祉士協会、石川県相談支援専門員連絡会、石川県聴覚障害者協会災害対策本部）との支援関係者会議を開催し、現地における状況と各ニーズを確認することができた。200人ほど未確認となっている聴覚障害者の支援について、第二期のフェーズを実施できることになった時はどのように連携・協働していくか話し合い、地域支援機関による戸別訪問の際は聴覚障害を熟知した本会のワーカーが同行サポートする等今後の連携を確認することができた。

(3) 成功したこととその要因：

今回のメンタルヘルスケア支援は現地のライフラインが復旧し、DWATなどの災害救援ネットワー

クによるサポートが終了した頃に赴いたため、残された課題を探ることができた。また東日本大震災被災聴覚障害者支援の経験のスキルがあり、聴覚障害者救援中央本部及び石川県聴覚障害者災害対策本部と本会との信頼関係構築による協力体制が整っていたことから、安全体制の下、派遣ワーカーを派遣することができた。それによって支援のニーズに対応でき、ワーカーの潜在的な力を発揮したメンタルケアによる支援を進めることができたと考える。

課題としては、時期的に支援期間が短く、予算も小規模となっていたため、支援につながっていない被災聴覚障害者の掘り起こしができなかったことから、今後は能登地域の2市2町の委託で全戸訪問事業を行っている石川県精神保健福祉士会と石川県相談支援専門員協会との協働活動が望まれている。

<今後の課題>

- ①第1期のメンタルケア支援で確認した必要な人への支援を継続
(仮設住宅や施設の訪問、面談)
- ②聴覚障害者協会(情報提供施設)、関係機関との情報共有・連携
- ③まだ支援につながっていない被災聴覚障害者の掘り起こし
- ④災害支援のネットワークを考える

(4) 失敗したこととその要因：

特にないが、支援の秘匿性が高い趣旨上、支援活動の様子を本会ホームページに掲載することができなかったため、活動状況を一般的に広く周知することがかなわなかった。次回の活動では活動の趣旨を考慮したWEB上での情報発信を意識した取り組みが必要と思われる。

事業成果報告（第二期）

1. 事業成果

（1）事業目標の達成状況：

【契約時の目標】

1. 活動人数：派遣ワーカー 延べ24名
2. 避難所等における被災聴覚障害者支援：9名以上
3. 被災聴覚障害者支援者支援：4名以上
4. 事業内容
 - ①時期：2024年10月15日～2025年4月30日
 - ②活動場所：就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」in能登町（メンタルケア個別面談のための訪問）
 - ③支援対象・件数：被災聴覚障害者9名
支援者（ろうあ者相談員・通訳者）8名
 - ④具体的な活動内容：
 - （1）避難所等で生活する聴覚障害者約9名（精神障害や知的障害の重複含む）に対する専門的な傾聴、生活再建に向けた相談支援
 - （2）避難所等で聴覚障害者を支援する支援者に対する専門的なサポート

【目標の達成状況】

1. 活動人数：派遣ワーカー 延べ12名派遣
2. 避難所等における被災聴覚障害者支援数：
 - ①B型事業所利用者等：12名
 - ②被災聴覚障害者支援員数：5名 総計：17名（ろう者9名、聴者8名）
3. 活動場所：石川県聴覚障害者センター、就労継続支援B型事業所「能登就労支援事業所 やなぎだハウス」、奥能登仮設住宅、2市2町（珠洲市、穴水町、能登町、輪島市）、奥能登仮設住宅、オンライン
4. 活動状況
 - ①現地の送迎及びろう通訳の活動
第一期では、やなぎだハウス職員及び石川県聴覚障害者センター長（石川県聴覚障害者災害対策本部副本部長）が送迎を担った。しかし、第二期支援実施時は、支援の長期化に伴い、現地支援者の疲弊が激しく、現地負担を軽減させる必要があった。そのため、レンタカーの手配及び運転に関しては派遣ワーカー自身が行った。ろう通訳に関しては引き続き、やなぎだハウス職員に担っていただくこともあった。
 - ②メンタルケアのニーズの確認
第一期からの継続ケースのほか、新規ケースは3件あることを確認した。
 - ③現地で支援を行っている現地職員への支援
支援者である職員並びにろうあ者相談員、設置手話通訳者に対する支援の課題が大きいことを痛感した。特に震災後の2025年9月に発生した輪島市・能登町を中心とする豪雨災害では、修繕完了したばかりのやなぎだハウスが床上浸水してしまう被害があった。これは、震災後、自身

も被災しながらも聴覚障害者への支援を継続してきた支援者の「頑張る気力」が折れてしまう経験となった。加えて、震災後、労働世代が奥能登から都市部（金沢市方面）への著しい流出の影響で、行政職員数・施設職員数が減少したことで、残された職員（設置通訳者含む）への業務負担が増加したこともあり、支援者が心身ともに疲弊しきっている状況であった。したがって、手話のできる心理士による心理面接が急務であることが確認されたため、オンラインでの心理面接を実施した。

④奥能登地域へのアウトリーチによる潜在的支援ニーズの確認

石川県精神保健福祉士会と石川県相談支援専門員協会はそれぞれ災害対策本部を立ち上げ、合
同で特に能登地方の障害者支援を実施していた^{注1)}。支援活動の報告資料を見た本会会長が石川
県精神保健福祉士会の事務局長にアポイントを取ったことを機に、2024年7月31日に聴覚障
害者への支援活動の相互協力の実施について確認をした^{注2)}。その後、当協会の第二期支援が2024
年10月から再開され、主に奥能登地域の珠洲市・輪島市・穴水町・能登町の2市2町へのア
ウトリーチ支援の実施につながった。石川県精神保健福祉士会の事務局長がこれまで県内で培っ
てきた専門職同士のつながり、被災地支援の経験のおかげで、行政職員及び設置通訳者、社会福祉
協議会との意見交換・情報共有がスムーズに行われた。その結果、潜在的ニーズを抱える聴覚障
害者の存在を確認し、現地の支援者とも課題を共有することができた。

(2) 事業実施によって得られた成果：

①第一期に引き続いた支援事業でもあったため信頼関係も構築されており、新たな要支援者の掘り
起こしをすることができた。

②派遣したワーカーによるアセスメントシートや支援計画から今後の支援の課題を見出すことがで
き、現地コーディネーターと共有することで現地支援者の疲弊を軽減。

③支援者には心理士によるオンラインでのカウンセリングを行うことで、疲弊感を緩和。

④全国各地からの支援を受けて（現地支援者の声）

派遣ワーカーが来るからと休みがちな利用者も作業に出てきたり、手話の数が増えたりした利用者
もいた。ワーカーとの面談をきっかけに医療機関への受診に繋がることができたケースもあった。

⑤派遣ワーカーと現地との連携・協働による成果

第二期になると、利用者や支援者も「話していいんだ」「話を聞いてもらえるんだ」という心境の
変化も見え、それが身体にも良い影響を与えることができた。また支援者を被災地以外での場所での
面談を行うことでその効果がさらに高くなった。

⑥関係機関・団体との連携・協働及び支援ニーズの共有

石川県内の専門機関（石川県精神保健福祉士会、石川県聴覚障害者災害対策本部）と協働して事業
を実施することができた。石川県精神保健福祉士会の事務局長とともに奥能登地域の2市2町に実際
に赴いたことで、行政職員（設置通訳者も含む）や社会福祉協議会の災害支援チームの支援者と円滑
に意見交換を行うことができ、聴覚障害者の実態把握をすることができた。ただし、現地の支援者か
らは、「聴覚に障害があるらしい」という曖昧な情報しかなかったり、どこの支援先にもつながって
いないが、特に重篤なケースとして上がってきていかなかったりと、福祉的支援が本当は必要ではある
が、実際には支援につながるできていないという厳しい現実も目の当たりにした。当協会のソー
シャルワーカーが現地に赴くことで、周囲からわかりにくく、隠されてしまわれやすい聴覚障害者特
有の課題とその深刻さを、現地の支援者にも幾分か伝えることができたのではないだろうか。

(3) 成功したこととその要因：

①被災地支援の経験知の継承

第一期の支援では、2011年の東日本大震災における被災聴覚障害者支援の経験者と今回初めて被災地支援を行う者とのペアでワーカー派遣を行った。その結果、第一期で初めて被災地支援を経験した者が、第二期では中心となって支援活動を行うことができた。短期間ではあるが、当協会の経験知を新しいワーカーに引き継ぐことができたことが、個別支援において良い成果につながったのではないだろうか。

②ろうコミュニティの堅固さ

復興が遅れていた奥能登地域へ安全にワーカーを派遣することができたのは、ひとえに当協会と聴覚障害者救援中央本部・石川県聴覚障害者災害対策本部との信頼関係が以前より構築されていたこと、そして、当協会の活動において全面的に協力いただいたおかげである。加えて、石川県内の聴覚障害者の当事者組織は長きにわたり堅固なネットワークを構築しており、都市部だけでなく奥能登を含む地方に住むろう者とも信頼関係が構築されており、ろう者・通訳者ともに「顔の見える存在」であったことも大きい。つまり、県外から続々とやってくる当協会のワーカー（地元のろう者からみると「手話も違う、よそ者」と思われるだろう）と被災聴覚障害者との間を、信頼している地元のろう者や通訳者が取り持ってくださったおかげで、クライアントの心理的な障壁がかなり和らいだ。おかげで、ワーカーによる初回面接においては短時間で信頼関係を構築し、支援ニーズを引き出すことがかなり容易になったといえる。

③地元の専門職との連携

石川県内で広域的に災害支援を行っていた他機関と協働したことで、聴覚障害者の潜在的ニーズの掘り起こしのためのアウトリーチが実現した。その石川県内の支援機関においても、実は2023年5月に発生した珠洲市・輪島市の地震の支援をきっかけに、他職種連携の支援体制が構築され、行政や支援者同士の横の繋がりが作られた後に、2024年1月の震災が発生していた。一方で、奥能登地域は2023年にも地震を経験しており、その時も聴覚障害者を取り巻く課題について、設置通訳者を中心にニーズの把握はできていた。好ましいことではないかもしれないが、このように短期間に複数回の被災経験をしていた地域では、既に震災時の多職種連携・広域支援が実現されている場合が多いのではないだろうか。そこに、全くの外部組織である当協会が運良くつながることができたこと、さらに協力・協働体制を組めたことがアウトリーチ活動を実行することができた最大の要因である。

(4) 失敗したこととその要因：

①広報活動の難しさ

本支援においては、支援地域が比較的狭域であること、被災地に在住する聴覚障害者の母数が少ないこと、センシティブなケースを扱っていることなどから、秘匿性が非常に高い支援を行っていたといえよう。そのため、支援活動の様子を当協会のホームページに掲載することができず、活動状況を一般に広く周知することがかなわなかった。

②派遣ワーカーとの情報共有の難しさ

秘匿性の高さから、派遣ワーカーにも情報共有は最小限に留めていた場合も多かった。または、現地に行ってみないと情報が得られないこともあったため、事前情報の共有がなかなかできなかった。

③災害支援の研修の不十分さ

派遣ワーカーの中には、被災地支援が初めてというだけでなく、当協会が実施してきたこれまでの

全国的な聴覚障害者への支援活動（聴覚サポート「なかま」事業）にも参加した経験のない者も半数近くいた。そのため、派遣前には、被災者支援の留意点をまとめた資料や当協会の設立からこれまでの活動実績を紹介した資料などを文書で送付するなど、できる範囲で派遣ワーカーにも情報共有を行った。しかし、やはりそれだけでは十分とはいえず、当協会のそもそもの活動趣旨が理解されていないまま、あるいは、被災地支援に関する知識・技術が十分とはいえないままに、とにかく条件に適したワーカーを現地に送り出していた、という状況であった。平時からのワーカーの育成・研修の重要性を痛感した。

④有資格者の任意団体であることの弱さ

東日本大震災の際には、現地にコーディネーターが長期滞在し、現場のニーズを汲み取りながら派遣ワーカーの調整を実施することができていたが、今回の能登震災ではそれがかなわなかった。会員それぞれの本務の調整をギリギリまで行い、やっと支援のために1～3日間開けることができるという状況であった。そのため、現地の職員にコーディネーターや調整を担ってもらう部分も生じてしまい、かえって現地に負担をかけてしまった。

⑤軽視されてしまう聴覚障害者固有の課題

聴覚障害は、たとえそれが障害者支援の専門家であったとしても、「わかりにくい障害」であることを痛感した。地元の支援機関と協働してアウトリーチ活動を実施できたことで、潜在的ニーズを持つ聴覚障害者の把握・課題の共有ができたと思う。しかしながら、未だ支援に繋がっていない聴覚障害者がいるということは、すなわち重篤なケースとして災害支援チームにはなかなか取り上げられていないのではないかと。ここからは憶測だが、障害者手帳を有する世帯に戸別訪問をしたとしても、その支援者が手話ができなければ、同居家族がろう者の家族についても「代弁」してしまうのではないかと。そうすることで、障害に起因する困り感が多少薄められてしまい、「聴覚障害者が地域にいる」という程度の情報の共有でとどまってしまうのではないだろうか。

(5) 現時点で考えられる今後の課題

これらの活動実績を振り返り、下記の課題が未だ残されていることを記しておきたい。

- ①第一期・第二期のメンタルケア支援で確認した必要な人への支援（利用者のみならず、支援者支援の拡充）
- ②聴覚障害者協会（情報提供施設）、関係機関との情報共有・連携
- ③支援に繋がっていない被災聴覚障害者への戸別同行訪問
- ④災害支援のネットワークを考える
- ⑤派遣コーディネーターからのSV
- ⑥派遣ワーカーの養成・研修

注1) 石川県精神保健福祉士会ホームページのお知らせに掲載されている記事および掲載されていた「令和6年能登半島地震におけるお見舞い及び今後の活動について」という資料を参考にした (<https://ishikawa-psw.main.jp/osirase.html> 閲覧日2025/05/19)。

注2) 打合せの参加は、当協会（会長・副会長・事務局長）、石川県精神保健福祉士会（事務局長）、石川県相談支援専門員協会（代表）、石川県聴覚障害者センター（施設長）。開催場所は石川県聴覚障害者センター内多目的室（金沢市）。

(参考資料3)

令和6年能登半島地震石川県きこえない者およびきこえる者対象調査 アンケート集計

開催日程：2024年12月～2025年1月

調査主体：石川県聴覚障害者災害救援対策本部

調査対象：義援金支給にあたり、2024年12月までに罹災証明書を提出した世帯の111名

(ろう者 32名 (内、ろう協会員29名) / きこえにくい者 7名 (内、ろう協会員4名) / きこえる者 72名)

調査方法：ろう者・きこえにくい者…対面調査(ろうあ相談員による聞き取り)・Googleフォーム・アンケート用紙

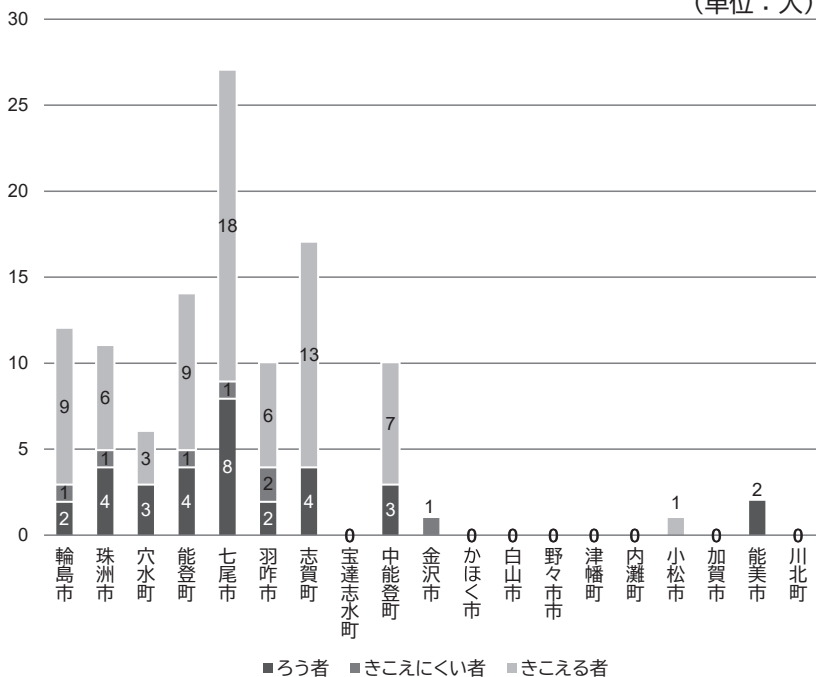
きこえる者…Googleフォーム・アンケート用紙

※「きこえない人」「きこえにくい人」「きこえる人」の表記については、調査実施当時の表記を尊重し、それぞれ「きこえない人」は「ろう者」、「きこえにくい人」は「きこえにくい者」、「きこえる人」は「きこえる者」としている。

■回答者の居住地 (単位：人)

	ろう者	きこえにくい者	きこえる者	合計
輪島市	2	1	9	12
珠洲市	4	1	6	11
穴水町	3	0	3	6
能登町	4	1	9	14
七尾市	8	1	18	27
羽咋市	2	2	6	10
志賀町	4	0	13	17
宝達志水町	0	0	0	0
中能登町	3	0	7	10
金沢市	0	1	0	1
かほく市	0	0	0	0
白山市	0	0	0	0
野々市市	0	0	0	0
津幡町	0	0	0	0
内灘町	0	0	0	0
小松市	0	0	1	1
加賀市	0	0	0	0
能美市	2	0	0	2
川北町	0	0	0	0
合計	32	7	72	111

(単位：人)

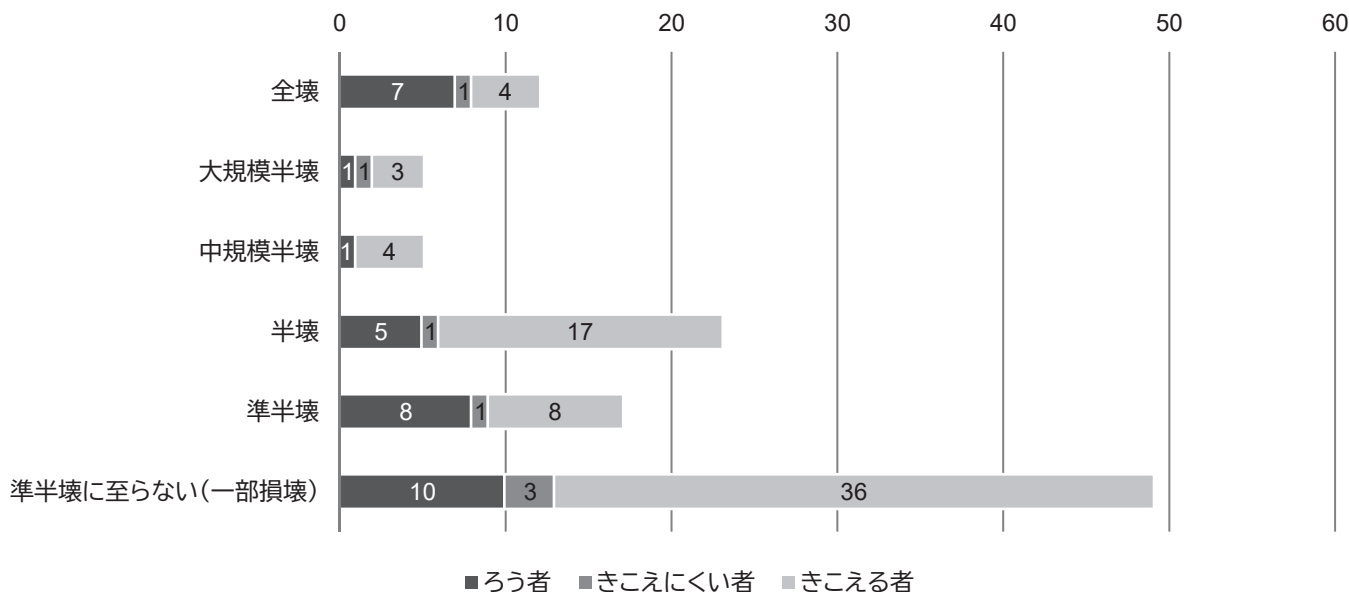


■被害の程度

(単位：人)

	ろう者	きこえにくい者	きこえる者	合計
全壊	7	1	4	12
大規模半壊	1	1	3	5
中規模半壊	1	0	4	5
半壊	5	1	17	23
準半壊	8	1	8	17
準半壊に至らない(一部損壊)	10	3	36	49
合計	32	7	72	111

(単位：人)



■所属団体

※きこえる者は複数団体に所属する場合1つのみ回答。

ろう者

所属団体	人数	所属団体	人数
石川県聴覚障害者協会会員	29	一般会員	18
		やなぎだハウス利用者	9
		やなぎだハウス職員	1
		ろうあハウス利用者	1
		七尾要約筆記サークル(七尾市)	1
石川県聴覚障害者協会非会員	3	手話サークル鈴(珠洲市)	2
		七尾要約筆記サークル(七尾市)	1

きこえにくい者

所属団体	人数	所属団体	人数
石川県聴覚障害者協会会員	4	一般会員	2
		やなぎだハウス利用者	2
石川県聴覚障害者協会非会員	3	羽咋要約筆記サークル(羽咋市)	1
		七尾要約筆記サークル(七尾市)	1
		やなぎだハウス職員	1

きこえる者

(単位：人)

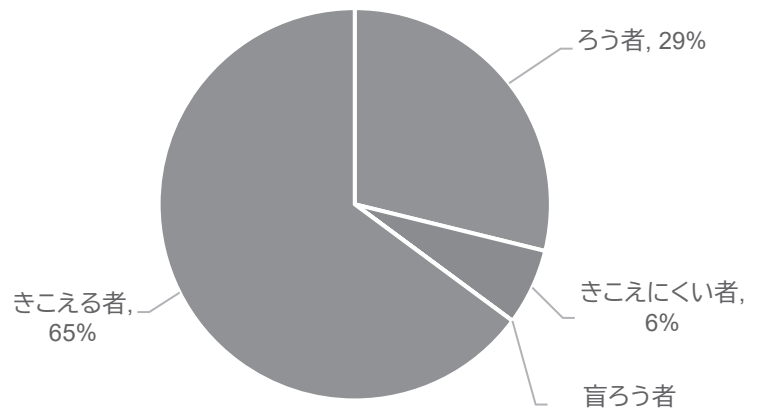
所属団体	人数
手話サークルこだま会(能登町)	8
手話サークル鈴(珠洲市)	4
手話サークルつくしの会(穴水町)	1
輪島手話サークル水芭蕉(輪島市)	3
七尾手話サークル積木の会(七尾市)	11
中能登手話サークルこぶし(中能登町)	4
志賀町手話サークルしゅわっち(志賀町)	9
七尾手話サークルたけのこ(七尾市)	8
羽咋手話サークル羽(羽咋市)	5
全国手話通訳問題研究会石川支部(奥能登地区)	2
全国手話通訳問題研究会石川支部(七尾地区)	1
全国手話通訳問題研究会石川支部(羽咋地区)	1
輪島要約筆記サークル(輪島市)	6
七尾要約筆記サークル(七尾市)	1
羽咋要約筆記サークル(羽咋市)	3
小松能美要約筆記サークル(小松市・能美市)	1
やなぎだハウス職員	1
やなぎだハウス利用者	3

問1. ろう者、きこえにくい者、盲ろう者、きこえる者のいずれかを教えてください。

(単位：人)

(単位：人)

選択肢	回答数
ろう者	32
きこえにくい者	7
盲ろう者	0
きこえる者	72
合計	111

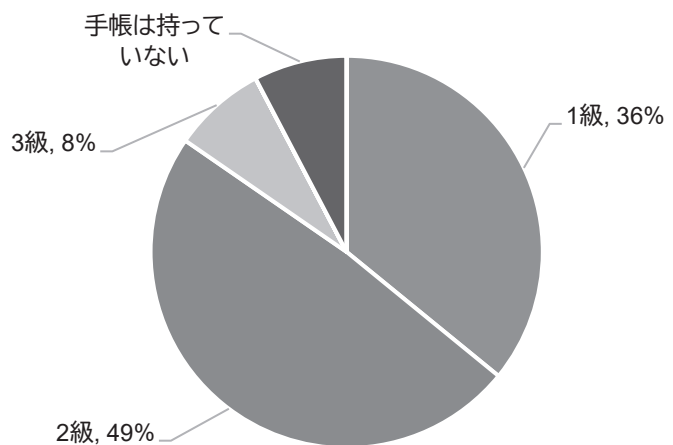


問2. (ろう者、きこえにくい者対象) 身体障害者手帳の等級を教えてください。

(単位：人)

(単位：人)

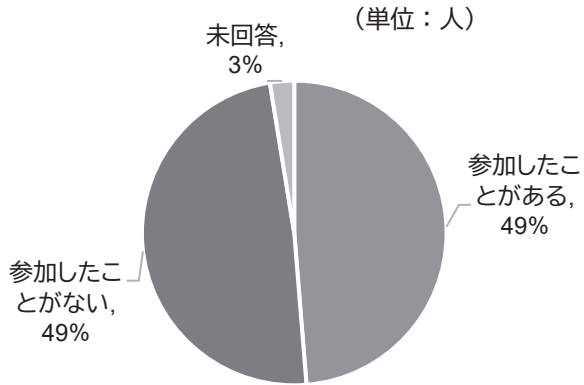
選択肢	回答数
1級	14
2級	19
3級	3
4級	0
5級	0
6級	0
手帳は持っていない	3
設問なし	0
合計	39



問3. 地震前に避難訓練に参加したことがありますか。

(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

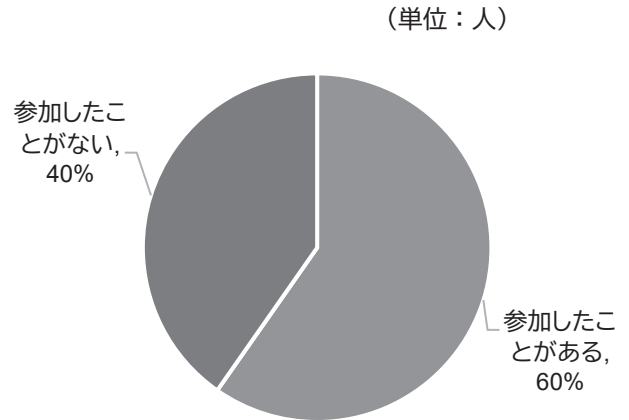
選択肢	回答数
参加したことがある	19
参加したことがない	19
未回答	1
合計	39



(欄外記述)
・職場で。

(きこえる者) (単位：人)

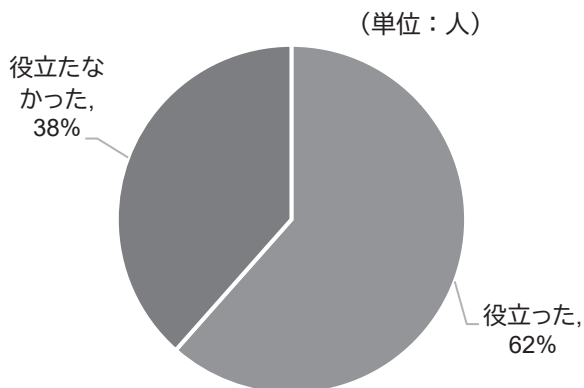
選択肢	回答数
参加したことがある	43
参加したことがない	29
合計	72



問4. (問3で「参加したことがある」と回答した方対象)
避難訓練が役に立ちましたか。

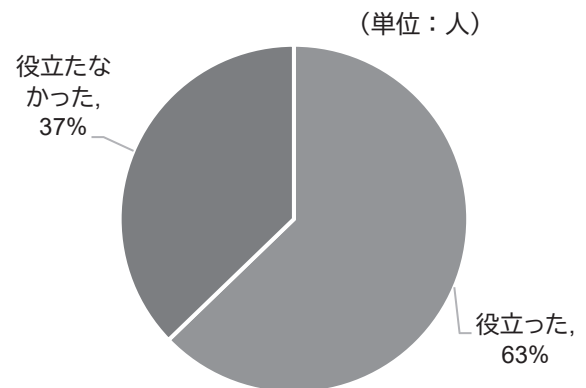
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
役立った	12
役立たなかった	7
合計	19



(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
役立った	27
役立たなかった	16
合計	43



問5. 地震前に備えていたものはありますか。(複数回答)

(単位：人)

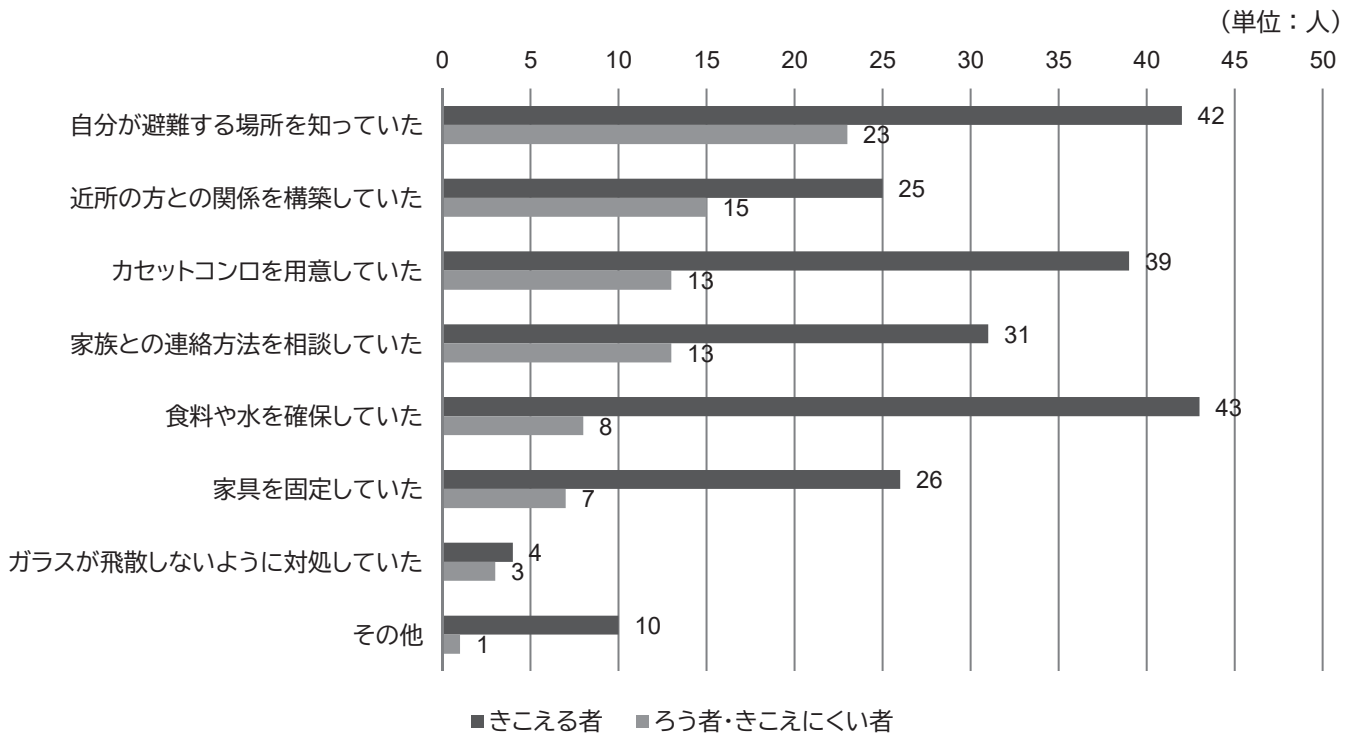
選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
自分が避難する場所を知っていた	23	42
近所の方との関係を構築していた	15	25
カセットコンロを用意していた	13	39
家族との連絡方法を相談していた	13	31
食料や水を確保していた	8	43
家具を固定していた	7	26
ガラスが飛散しないように対処していた	3	4
その他	1	10

その他(ろう者・きこえにくい者)

アウトドア用品の手入れ (テント、ポータブルソーラー発電機、ソーラー電灯、特大キャンドル)

その他(きこえる者)

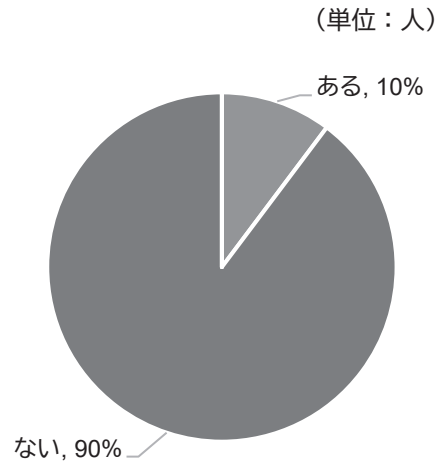
簡易トイレ、防災グッズをリュックに詰めており、すぐに持って出た
防災袋
薬をいつも手元に持っています
寝るとき頭の上にヘルメットとズックを用意していた
重要書類などまとめて持ち出せるようにしていた
食料、水はないがすぐ入院できる必要品、タオル、下着、マスクなどはひとまとめにして持ち出せるようにしていた
防災士の資格を取った
テント、寝袋などのキャンプ道具
避難時用のリュックを購入してあった
防災セットの準備



問6. (ろう者・きこえにくい者対象) 地震前に遠隔手話通訳を使ったことがある。

(単位：人)

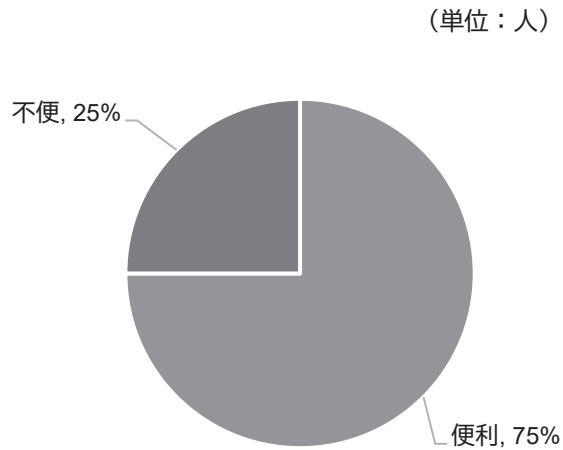
選択肢	回答数
ある	4
ない	34
未回答	1
合計	39



問7. (問6で「ある」と回答した方対象) 遠隔手話通訳は便利ですか。

(単位：人)

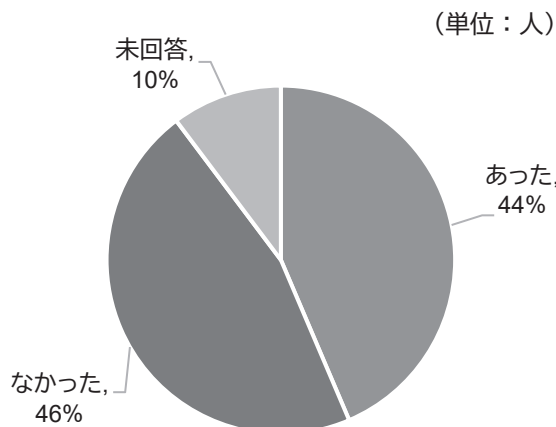
選択肢	回答数
便利	3
不便	1
合計	4



問8. 地震前にあなたの地域では安否確認連絡網がありましたか。

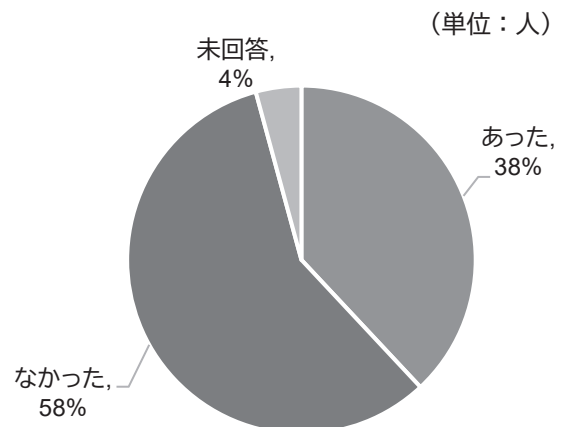
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
あった	17
なかった	18
未回答	4
合計	39



(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
あった	27
なかった	42
未回答	3
合計	72

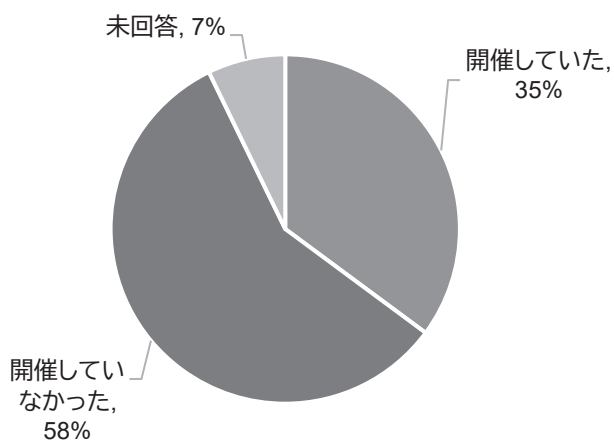


問9. 地震前にろう協・サークル等で防災学習会を開催していましたか。

(単位：人)

選択肢	回答数
開催していた	39
開催していなかった	64
未回答	8
合計	111

(単位：人)

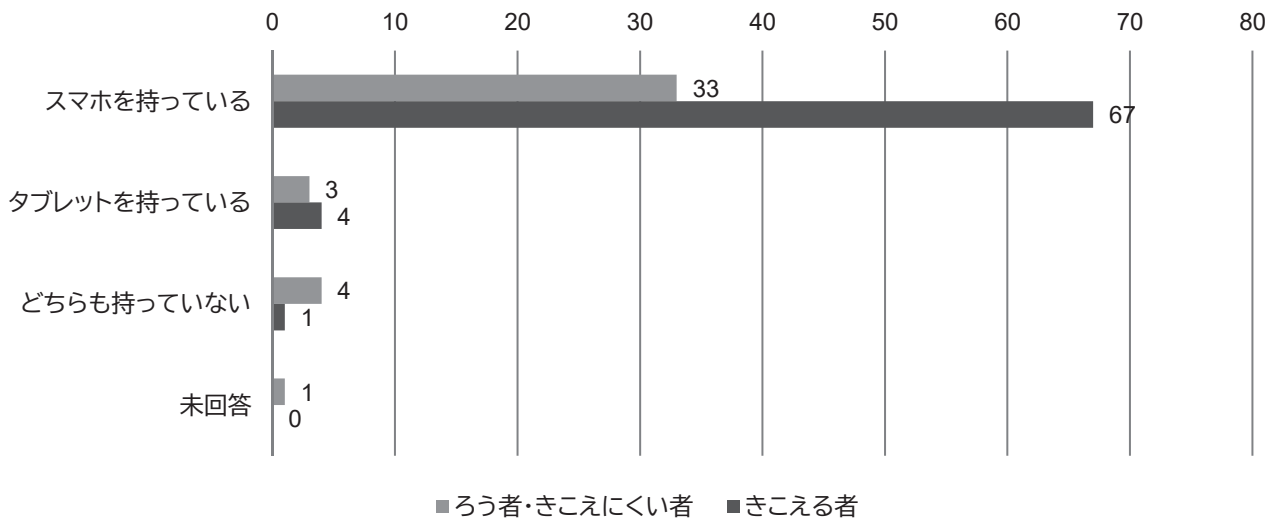


問10. スマホまたはタブレットを持っていますか。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	
	きこえにくい者	きこえる者
スマホを持っている	33	67
タブレットを持っている	3	4
どちらも持っていない	4	1
未回答	1	0

(単位：人)

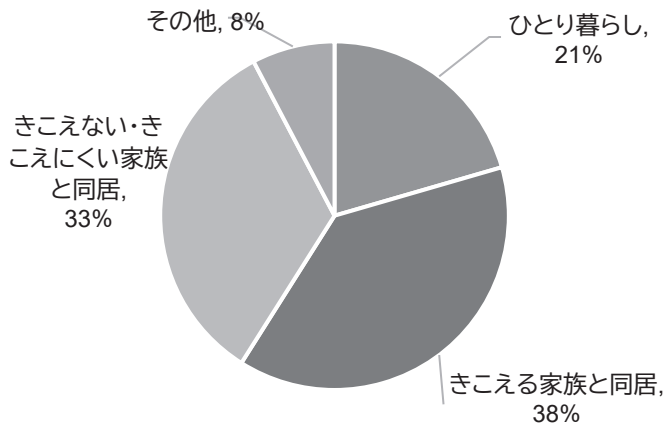


問11. 地震時の暮らしの状況を教えてください。

(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
ひとり暮らし	8
きこえる家族と同居	15
きこえない・きこえにくい家族と同居	13
その他	3
合計	39

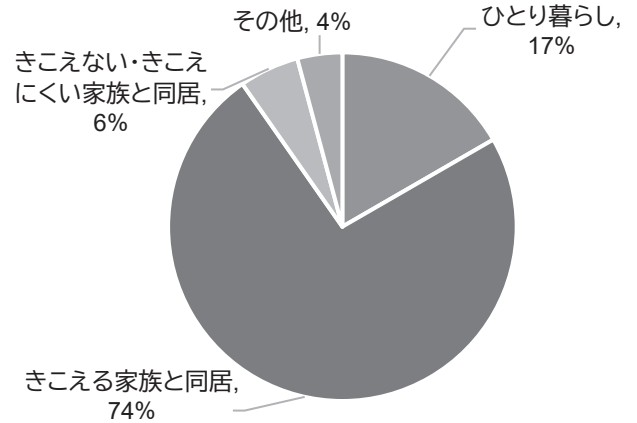
(単位：人)



(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
ひとり暮らし	12
きこえる家族と同居	53
きこえない・きこえにくい家族と同居	4
その他	3
合計	72

(単位：人)



その他

グループホーム
母
きこえる家族、きこえない・きこえにくい家族と同居

その他

夫と2人
息子
主人と2人でいた

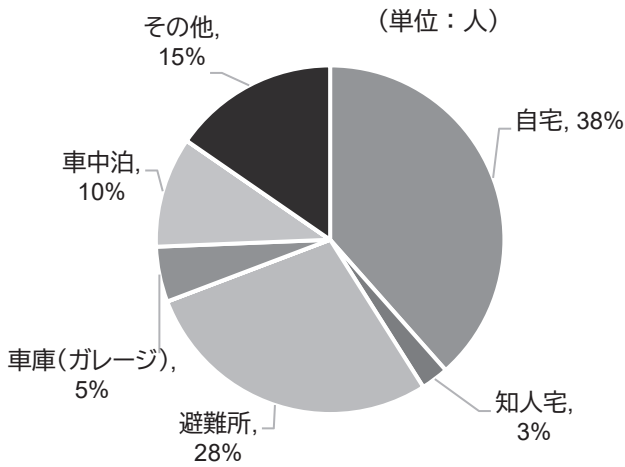
問12. 地震直後（元日の夜）はどこで泊まりましたか。

（ろう者・きこえにくい者）（単位：人）

選択肢	回答数
自宅	15
知人宅	1
避難所	11
自宅の庭	0
車庫(ガレージ)	2
車中泊	4
野宿	0
その他	6
合計	39

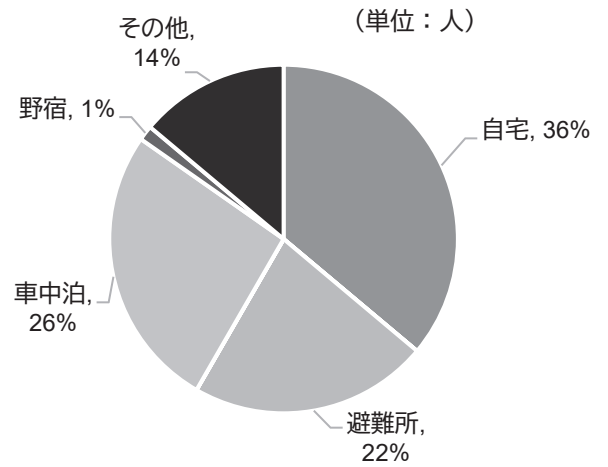
（きこえる者）（単位：人）

選択肢	回答数
自宅	26
知人宅	0
避難所	16
自宅の庭	0
車庫(ガレージ)	0
車中泊	19
野宿	1
その他	10
合計	72



その他

奥さんの実家
大阪の実家
自分の実家
大阪の息子の自宅にいた
実家
自宅・野宿



その他

妻の実家
実家(県外)
仕事先
町内の公民館
市役所
娘宅
職場
集会所(2件)
直後より勤務

（欄外記述）

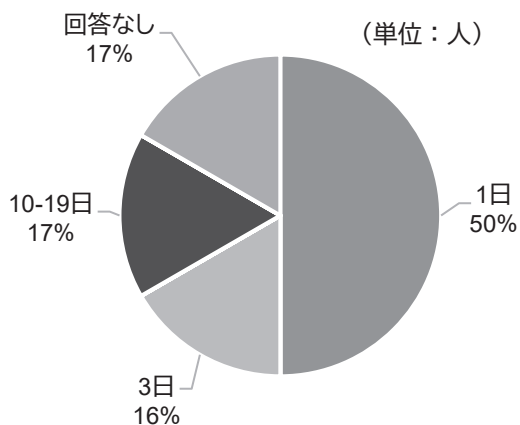
・当日は避難所がわからなかった。翌日から避難所に泊まった。

問13. 車中泊した方は、車中泊の日数を教えてください。

※問12. で「車庫（ガレージ）」と回答した方を含む。

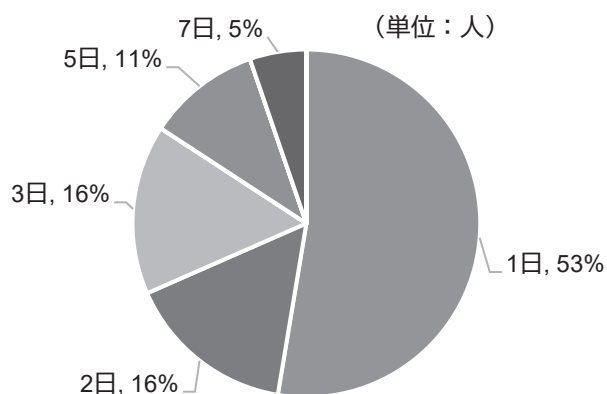
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
1日	3
2日	0
3日	1
4日	0
5日	0
6日	0
7日	0
8日	0
9日	0
10-19日	1
20-29日	0
30日以上	0
回答なし	1
合計	6



(きこえる者) (単位：人)

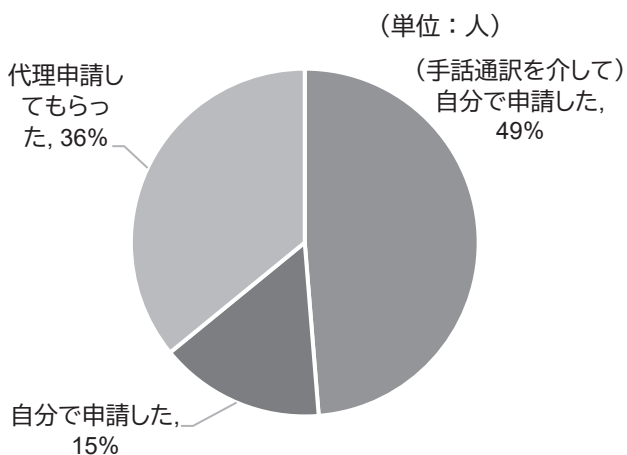
選択肢	回答数
1日	10
2日	3
3日	3
4日	0
5日	2
6日	0
7日	1
8日	0
9日	0
10-19日	0
20-29日	0
30日以上	0
合計	19



問14. 罹災証明はどのように行いましたか。

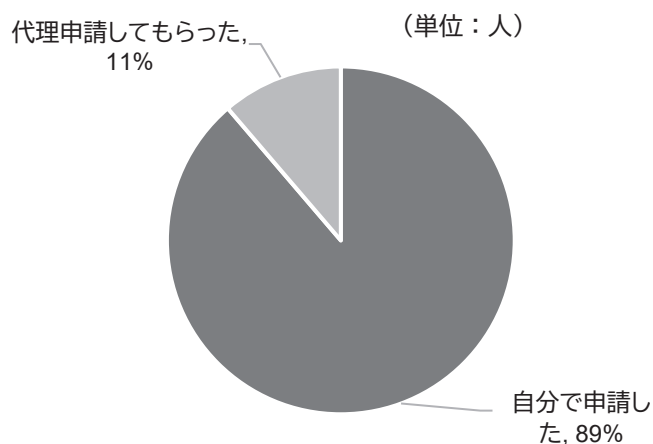
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
(手話通訳を介して)自分で申請した	19
自分で申請した	6
代理申請してもらった	14
合計	39



(きこえる者) (単位：人)

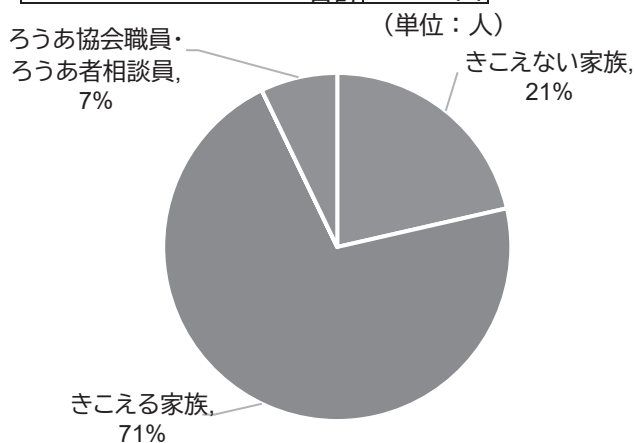
選択肢	回答数
(手話通訳を介して)自分で申請した	0
自分で申請した	64
代理申請してもらった	8
合計	72



問15. (問14で「代理申請してもらった」と回答した方対象) だれに依頼しましたか。

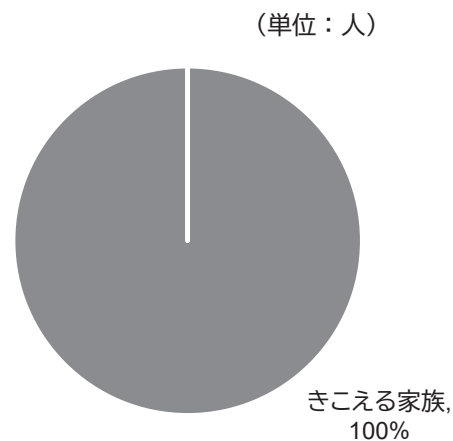
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
きこえない家族 ※ろう夫婦・ろう兄弟	3
きこえる家族	10
友人・近所の人	0
ろうあ協会職員・ろうあ者相談員	1
合計	14



(きこえる者) (単位：人)

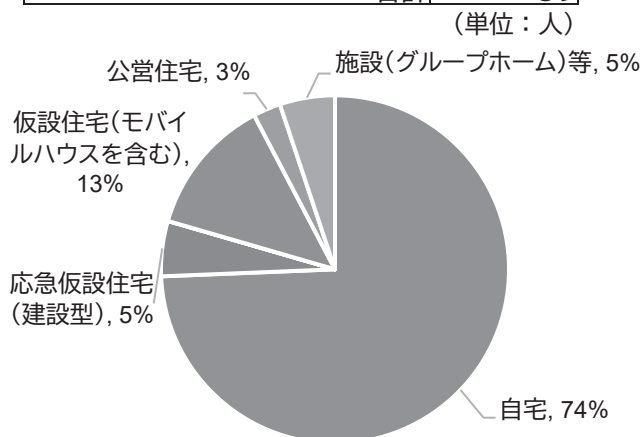
選択肢	回答数
きこえない家族	0
きこえる家族	8
友人・近所の人	0
ろうあ協会職員・ろうあ者相談員	0
合計	8



問16. 現在はどのような住まいに住んでいますか。

(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

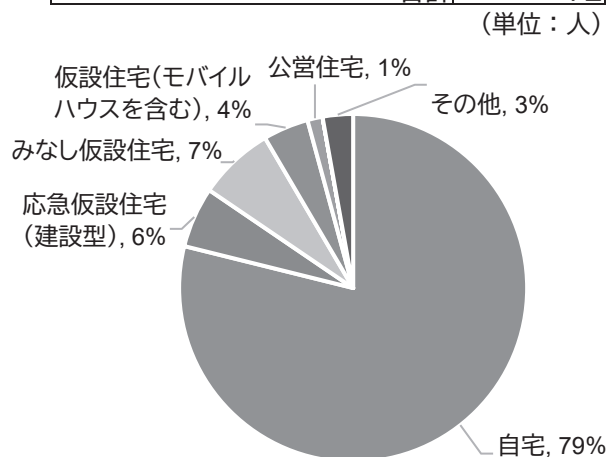
選択肢	回答数
自宅	29
応急仮設住宅(建設型)	2
みなし仮設住宅	0
仮設住宅(モバイルハウスを含む)	5
公営住宅	1
施設(グループホーム)等	2
知人宅	0
その他	0
合計	39



(欄外記述)
・隙間だらけでガムテープを貼っている。

(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
自宅	57
応急仮設住宅(建設型)	4
みなし仮設住宅	5
仮設住宅(モバイルハウスを含む)	3
公営住宅	1
施設(グループホーム)等	0
知人宅	0
その他	2
合計	72



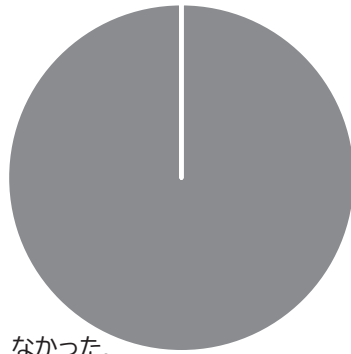
その他
金沢にある自宅
実家

問17. 津波の被害はありましたか。

(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
あった	0
なかった	39
合計	39

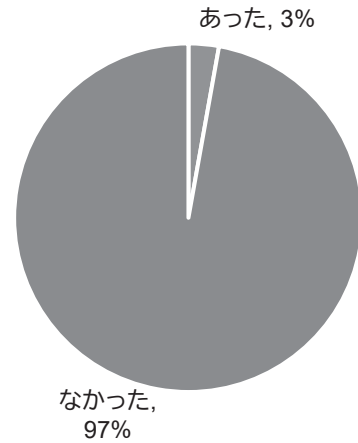
(単位：人)



(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
あった	2
なかった	70
合計	72

(単位：人)

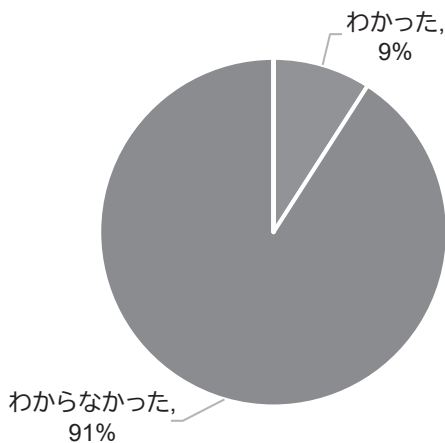


問18. 防災無線はわかりましたか。

(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
わかった	4
わからなかった	35
未回答	0
合計	39

(単位：人)

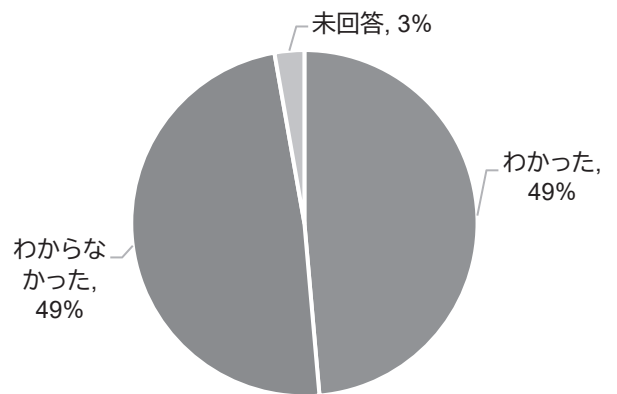


(欄外記述)
・メール(2件)

(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
わかった	35
わからなかった	35
未回答	2
合計	72

(単位：人)

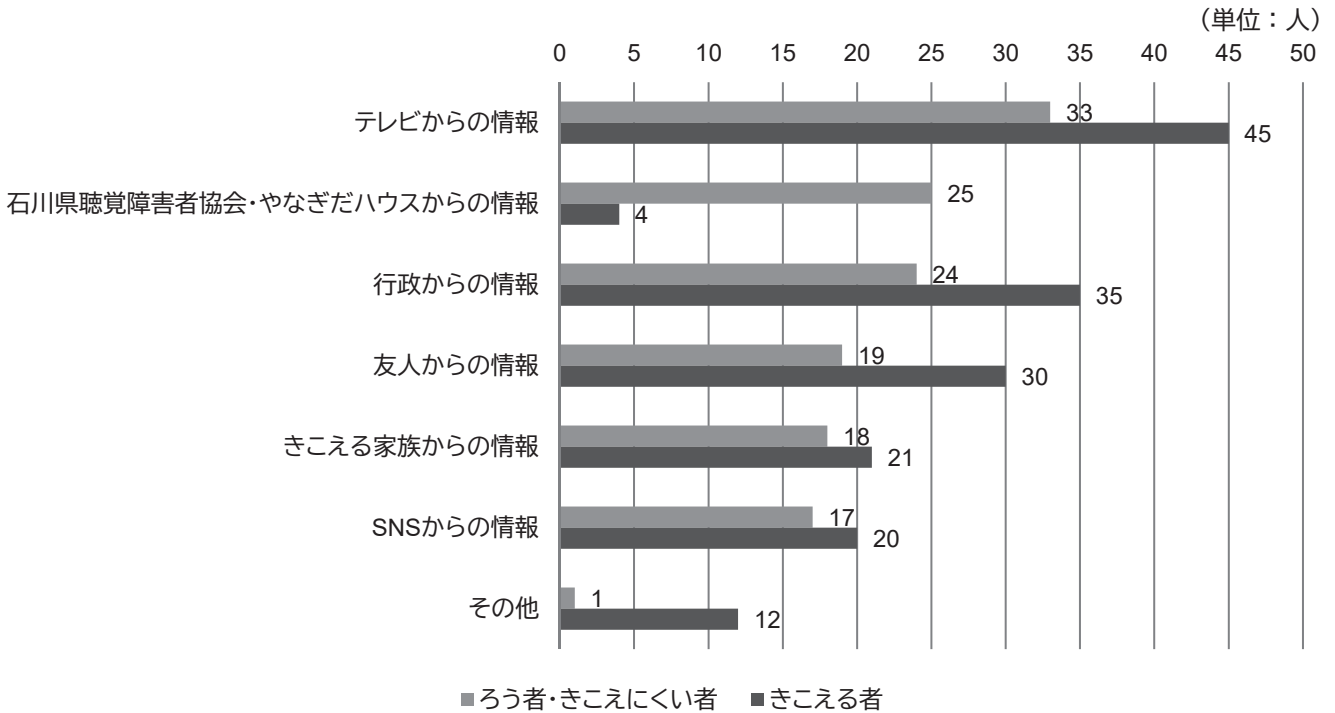


(欄外記述)
・きこえる者だが状況が悪かったのか聞こえなかった。
・聞こえにくい。のちに役所に尋ねたら電話番号を教えてもらった。そこに電話をすると内容がはっきり分かった。
・メール

問19. 地震発生時（2024年1月頃）、役に立った情報を教えてください。（複数回答）

（単位：人）

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
テレビからの情報	33	45
行政からの情報	24	35
友人からの情報	19	30
石川県聴覚障害者協会・やなぎだハウスからの情報	25	4
きこえる家族からの情報	18	21
SNSからの情報	17	20
その他	1	12



その他(ろう者・きこえにくい者)

正月帰省していた家族と団らん中の出来事なのでみんなで話し合い

その他(きこえる者)

住んでいる地域
避難所におけるお知らせ
現地の避難所に行き、情報収集した
手話サークルグループLINEからの情報
ラジオ
役所からの防災無線
家族に聞いても教えてもらえなかった
他の要約筆記サークルメンバーからの情報
地区の避難所にいたので、そこで周りの人から
ネットニュース
用意してあった手回し発電ラジオからの情報
携帯

（欄外記述）

（ろう者・きこえにくい者）

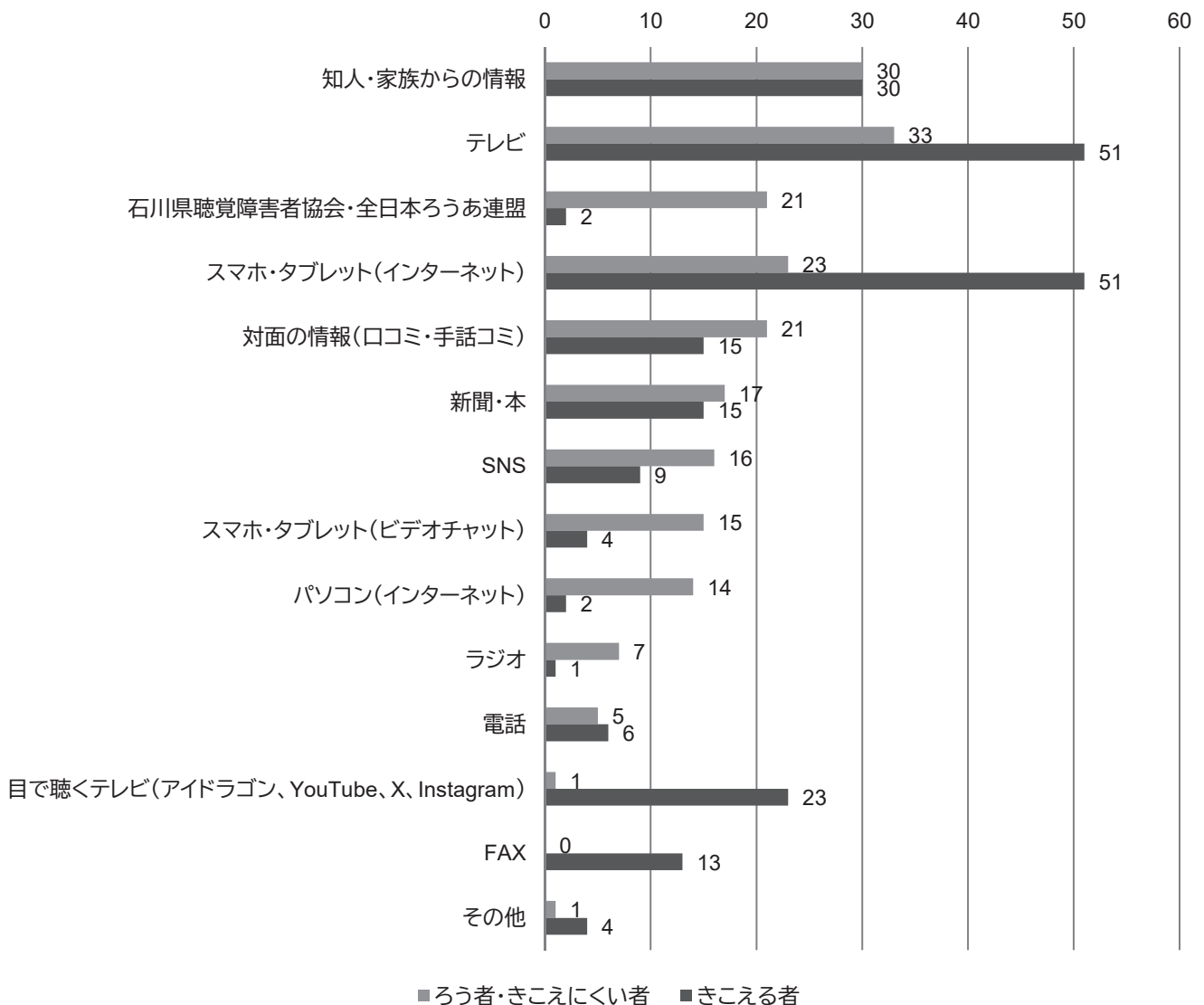
・町からLINEあり。

問20. 地震発生時（2024年1月頃）の情報取得手段を教えてください。（複数回答）

（単位：人）

選択肢	ろう者・ きこえにくい者	きこえる者
知人・家族からの情報	30	30
テレビ	33	51
石川県聴覚障害者協会・全日本ろうあ連盟	21	2
スマホ・タブレット(インターネット)	23	51
対面の情報(ロコミ・手話コミ)	21	15
新聞・本	17	15
SNS	16	9
スマホ・タブレット(ビデオチャット)	15	4
パソコン(インターネット)	14	2
ラジオ	7	1
電話	5	6
目で聴くテレビ (アイドラゴン、YouTube、X、Instagram)	1	23
FAX	0	13
その他	1	4

（単位：人）



その他(ろう者・きこえにくい者)

強い揺れが収まってから外へ飛び出した近所の人たちも

その他(きこえる者)

手話サークルグループLINEからの情報

スマホでNHK+をみた

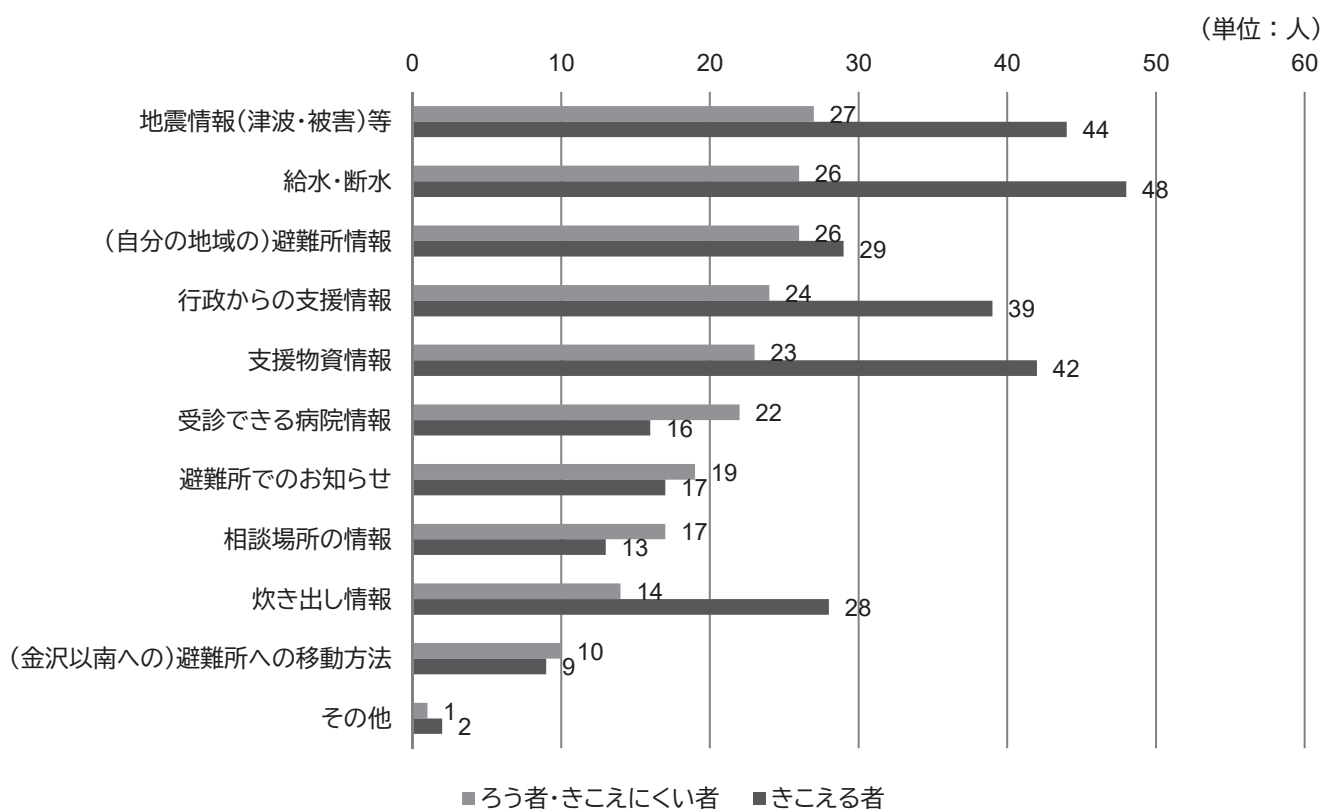
防災無線

停電だったしスマホも使えないし、新聞も来ないので地域(地区の人々からの情報のみ)。特に若い方がいろいろ情報を集めて教えてくれた。

問21. 地震発生時(2024年1月頃)、欲しかった情報を教えてください。(複数回答)

(単位:人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
地震情報(津波・被害)等	27	44
給水・断水	26	48
(自分の地域の)避難所情報	26	29
行政からの支援情報	24	39
支援物資情報	23	42
受診できる病院情報	22	16
避難所でのお知らせ	19	17
相談場所の情報	17	13
炊き出し情報	14	28
(金沢以南への)避難所への移動方法	10	9
その他	1	2



その他(ろう者・きこえにくい者)

津波は避難中の最中、人から聞いた

その他(きこえる者)

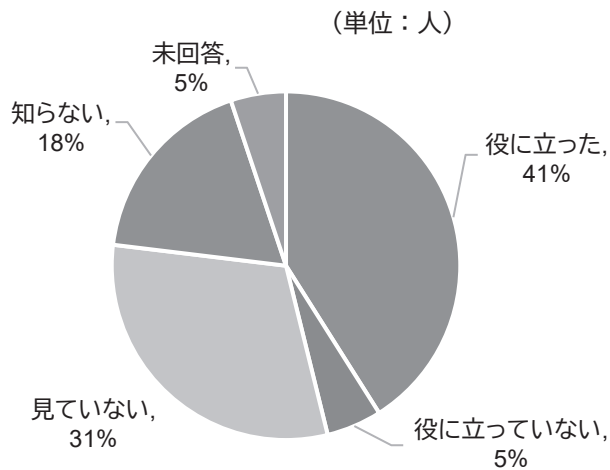
交通情報

進路情報、通行止め区域など

問22. 石川県聴覚障害者協会のYouTube・公式LINEは役に立ちましたか。

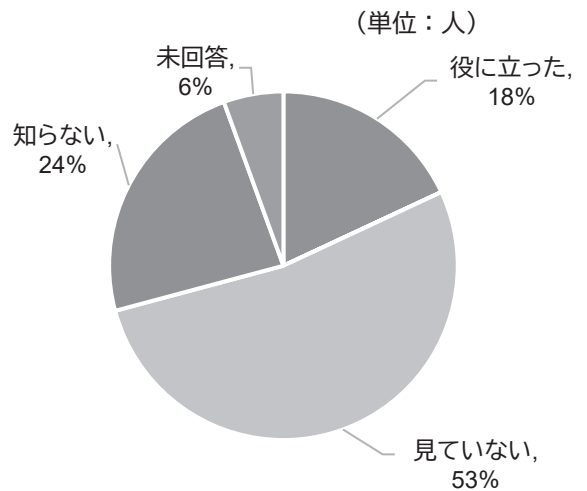
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
役に立った	16
役に立っていない	2
見ていない	12
知らない	7
未回答	2
合計	39



(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
役に立った	13
役に立っていない	0
見ていない	38
知らない	17
未回答	4
合計	72

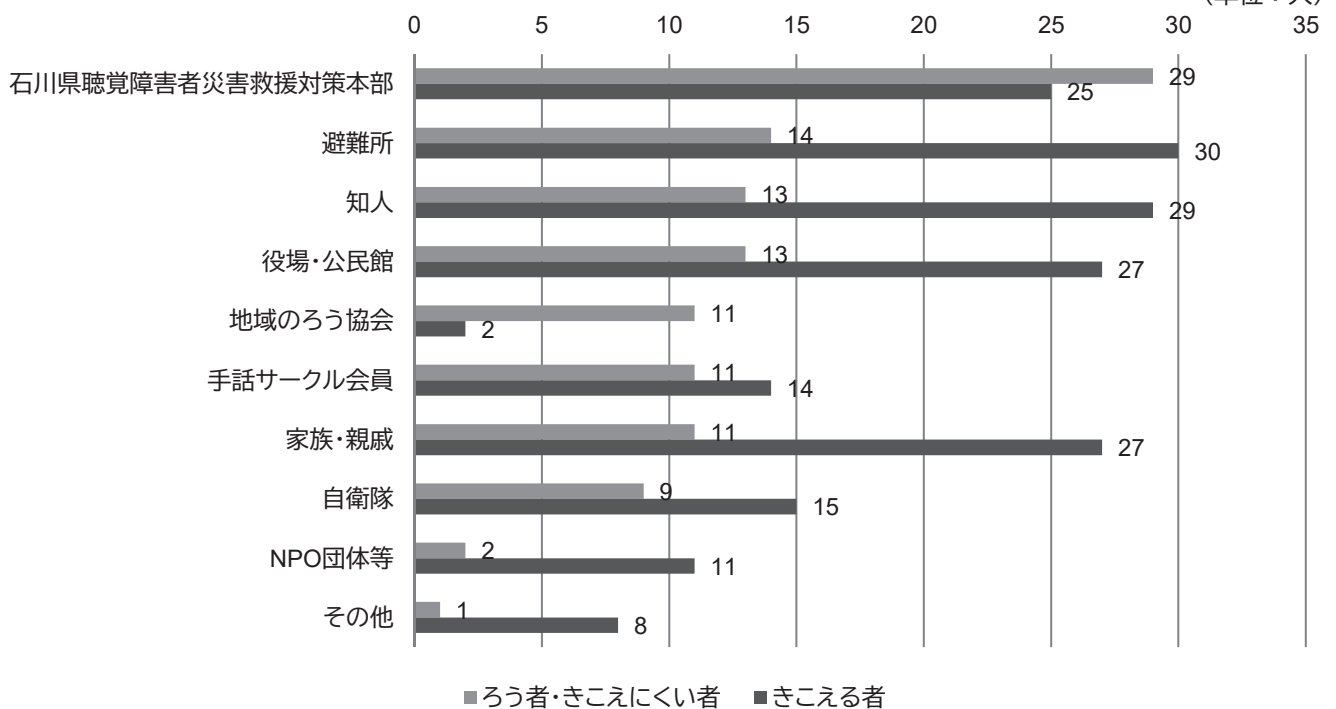


問23. 救援物資は誰からもらいましたか。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
石川県聴覚障害者災害救援対策本部	29	25
避難所	14	30
知人	13	29
役場・公民館	13	27
地域のろう協会	11	2
手話サークル会員	11	14
家族・親戚	11	27
自衛隊	9	15
NPO団体等	2	11
その他	1	8

(単位：人)



その他(ろう者・きこえにくい者)

白山市の避難所で下着等助かりました。

その他(きこえる者)

支援物資は貰って無い
 当サークルの過去の情報をインターネットで見た県外のサークルの方
 民間のボランティア
 勤務先の会社
 町内会
 他県からの救援隊
 用意してあったため、実家や知人宅で食事や入浴支援はあった。もらわなかった。
 やなぎだハウス

問24. 救援物資は何が助かりましたか。(複数回答)

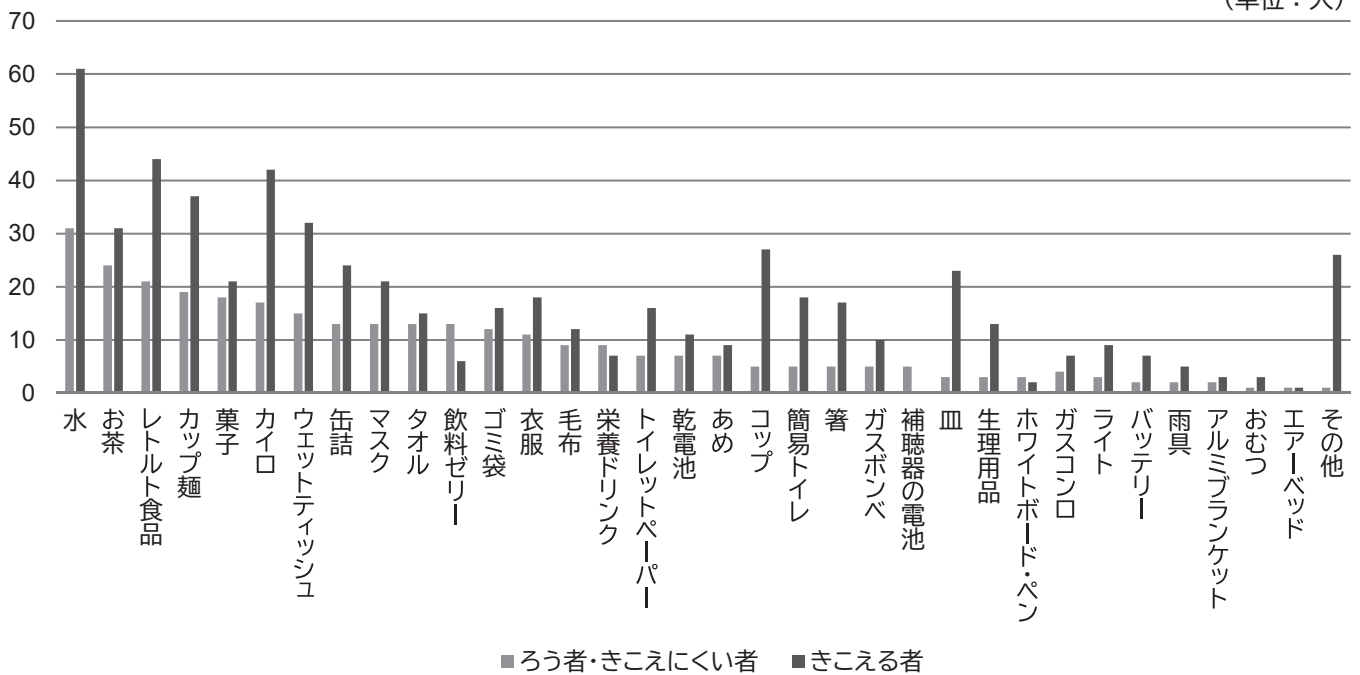
(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
水	31	61
お茶	24	31
レトルト食品	21	44
カップ麺	19	37
菓子	18	21
カイロ	17	42
ウェットティッシュ	15	32
缶詰	13	24
マスク	13	21
タオル	13	15
飲料ゼリー	13	6
ゴミ袋	12	16
衣服	11	18
毛布	9	12
栄養ドリンク	9	7
トイレットペーパー	7	16
乾電池	7	11

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
あめ	7	9
コップ	5	27
簡易トイレ	5	18
箸	5	17
ガスボンベ	5	10
補聴器の電池	5	0
皿	3	23
生理用品	3	13
ホワイトボード・ペン	3	2
ガスコンロ	4	7
ライト	3	9
バッテリー	2	7
雨具	2	5
アルミブランケット	2	3
おむつ	1	3
エアーマット	1	1
その他	1	26

(単位：人)



その他(ろう者・きこえにくい者)

ブルーシート

その他(きこえる者)

井戸水ポンプ
洗濯機
ボディシート
ドライシャンプー(2件)
スマホ充電器
歯ブラシ(2件)
パンのような手をかけずにすぐに食べられるもの
米
野菜
果物
ごはんパック
冷凍鍋焼きうどん
シュラフ

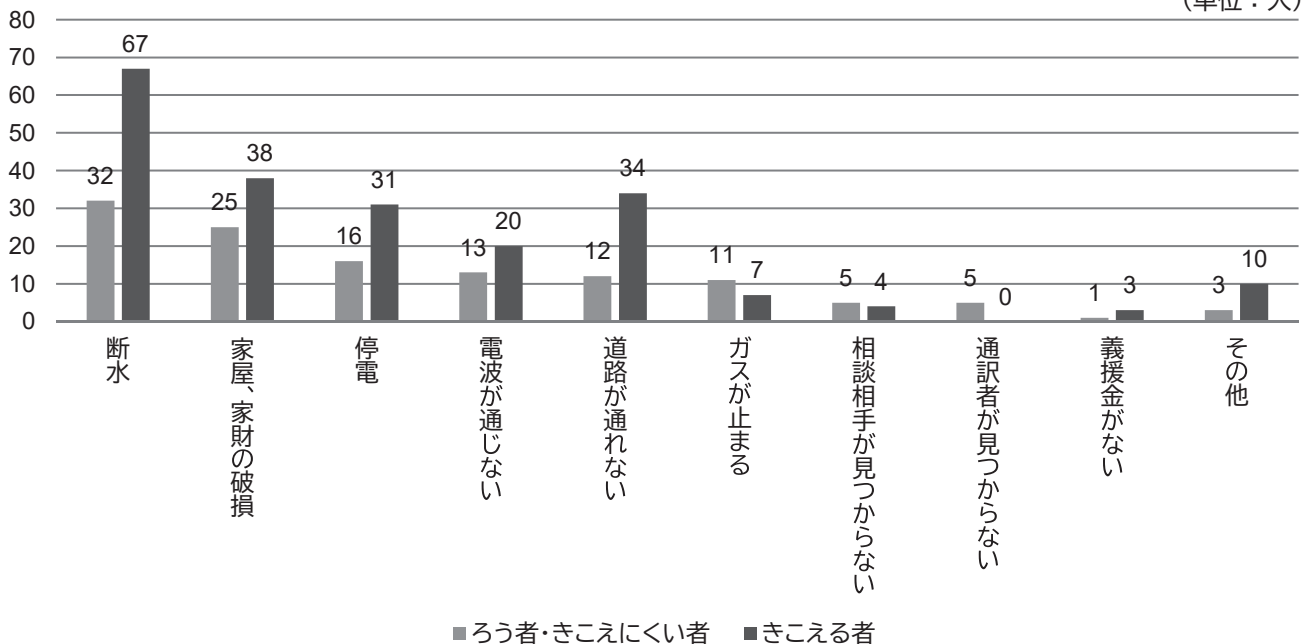
動きやすいズック
長靴
ボールペン
黒色の太いマジック
ウェストポーチ
メモ用紙
下着
タイツ
絆創膏
消毒液
薬

問25. 地震発生時に困ったことを教えてください。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
断水	32	67
家屋、家財の破損	25	38
停電	16	31
電波が通じない	13	20
道路が通れない	12	34
ガスが止まる	11	7
相談相手が見つからない	5	4
通訳者が見つからない	5	0
義援金がない	1	3
その他	3	10

(単位：人)



その他(ろう者・きこえにくい者)

トイレが破損し、使用不可
食べるものはあったので電化製品が多いので停電断水トイレ用の水
ごはんがない

その他(きこえる者)

道路状況がわからず、外に出られない
ペット(猫)
給油制限
行動の制限
津波から逃げる場所がない
混雑していて通れない
お風呂に入れない
買い物ができない
洗濯ができない
家の前の道路が破損して、駐車場が使えなくなった

(欄外記述)

(ろう者・きこえにくい者)

- ・1/12まで断水。
- ・時間短縮営業(2件)。
- ・1月下旬までJRストップ。

(きこえる者)

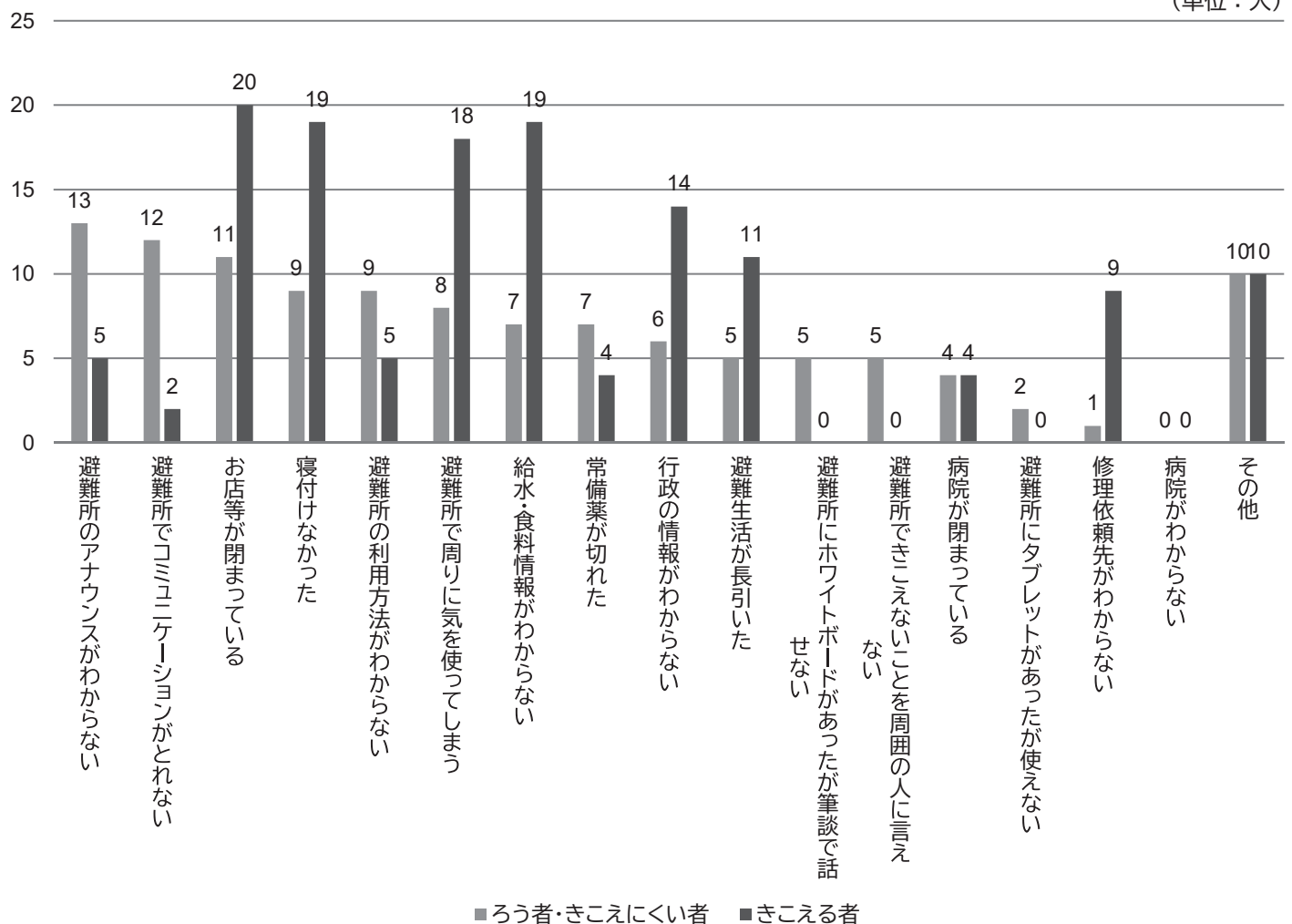
- ・避難生活が16日間であった。

問26. 避難生活で困ったことを教えてください。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
避難所のアナウンスがわからない	13	5
避難所でコミュニケーションがとれない	12	2
お店等が閉まっている	11	20
寝付けなかった	9	20
避難所の利用方法がわからない	9	5
避難所で周りに気を使ってしまう	8	18
給水・食料情報がわからない	7	19
常備薬が切れた	7	4
行政の情報がわからない	6	14
避難生活が長引いた	5	11
避難所にホワイトボードがあったが筆談で話せない	5	0
避難所できこえないことを周囲の人に言えない	5	0
病院が閉まっている	4	4
避難所にタブレットがあったが使えない	2	0
修理依頼先がわからない	1	9
病院がわからない	0	0
その他	10	10

(単位：人)



その他(ろう者・きこえにくい者)

避難しなかった
ドアの開閉で寒気が流れる
家
消灯時間が遅い
テントのほうが眠れる
隣の人のおびきがあうさい
トイレが長く使用できなかった
特急バスが動いていない
病院に行けない
避難所で通訳者がどこにいるかわからない

その他(きこえる者)

断水によるトイレの使用規制・入浴できない・歯磨き・洗顔
2組の家族で知人の納屋を借りて過ごしたが寒かった。価値観が違いすぎて共同生活が難しかった
座布団で寝ていたので腰が痛かった
2度ほど風邪が流行ってみんな一時咳き込んでいた
毛布の数が足りず寒かった
冬だったため、暖房はあったが床からの冷気がひどく寒かった
トイレが少なく困った
寒かった
やなぎだハウスに行けなかった
避難しなかった

(欄外記述)

(きこえる者)

- ・すぐ金沢の自宅へ避難しました。
- ・トイレのみ利用。
- ・子供の所にいたため。

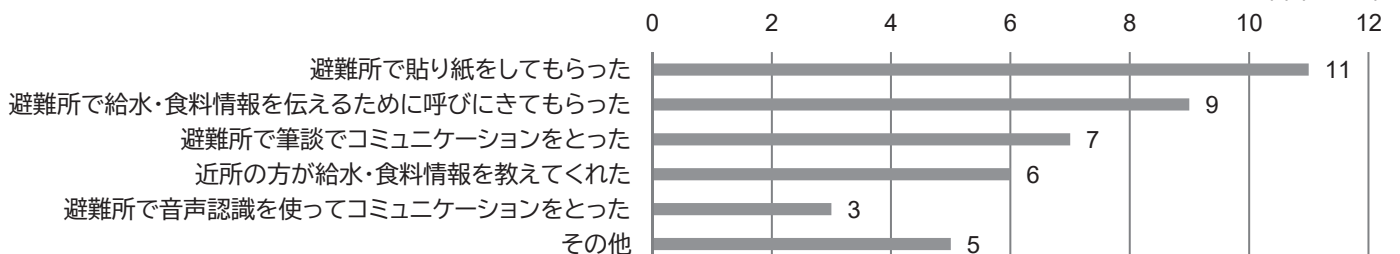
問27. (ろう者、きこえにくい者対象)

避難生活においてのきこえないことに対する配慮を教えてください。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	回答数
避難所で貼り紙をもらった	11
避難所で給水・食料情報を伝えるために呼びにきてもらった	9
避難所で筆談でコミュニケーションをとった	7
近所の方が給水・食料情報を教えてくれた	6
避難所で音声認識を使ってコミュニケーションをとった	3
その他	5

(単位：人)



その他

避難しなかった
家
1.5次避難所、松任避難所コミュニケーション良かった
地震後は近くの学校で自動車の中に避難。自宅は住めなかったが、長男の家が大丈夫だったのでそちらにしばらく避難していたが、家族で聞こえにくいのは私だけなので周りの人にみなしてもらった
自宅で生活→地域の要約の方がメール、LINEで支援

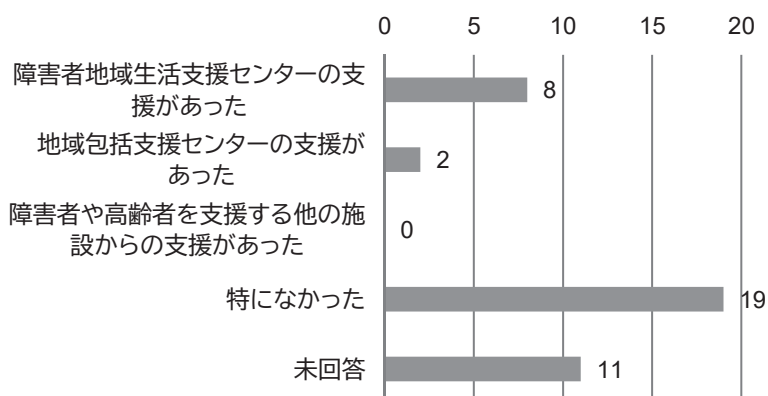
問28. (ろう者、きこえにくい者対象)

障害者地域生活支援センターや、地域包括支援センターの支援がありましたか。

(単位：人)

選択肢	回答数
障害者地域生活支援センターの支援があった	8
地域包括支援センターの支援があった	2
障害者や高齢者を支援する他の施設からの支援があった	0
特になかった	19
未回答	11

(単位：人)



※「障害者地域生活支援センター」…「地域活動支援センター」。
県内では、「ろうあハウス」や「あさがおハウス」を指す。

(欄外記述)

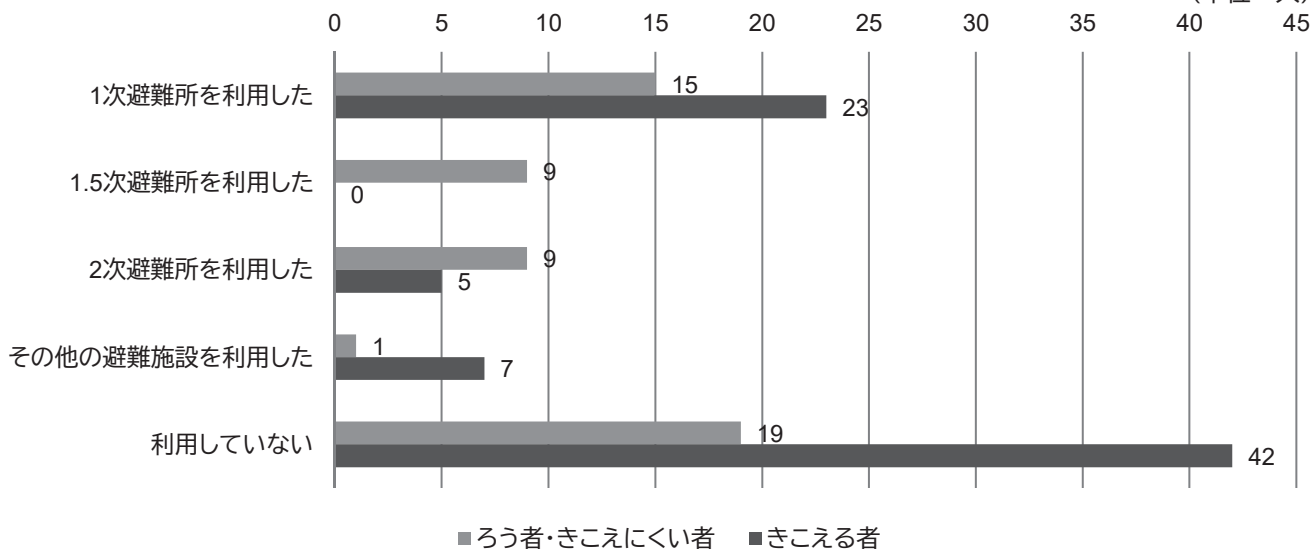
・「JDF」と2件回答あり。

問29. 避難所を利用しましたか。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
1次避難所を利用した	15	23
1.5次避難所を利用した	9	0
2次避難所を利用した	9	5
その他の避難施設を利用した	1	7
利用していない	19	42

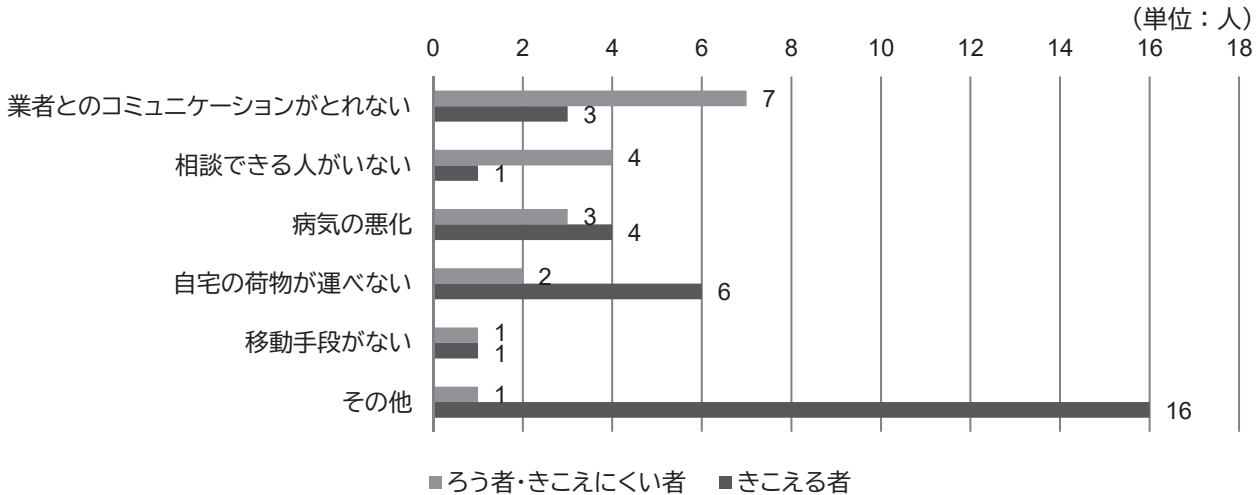
(単位：人)



問30. 現在困っていることを教えてください。(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
業者とのコミュニケーションがとれない	7	3
相談できる人がいない	4	1
病気の悪化	3	4
自宅の荷物が運べない	2	6
移動手段がない	1	1
その他	1	16



その他(ろう者・きこえにくい者)

特になし

その他(きこえる者)

- 特になし
- 足が悪いので自由に行動できない
- 自宅屋根の修理がまだだが仕方がない
- 金沢と輪島の移動
- まだ停電が多く、電波障害あり
- 家の修理代が赤字
- 住宅再建
- 自宅の修繕目処が立たない
- 道路寸断や業者不足、立会時間の暇もない等で自宅再建がほぼ進まない
- 宅内配管漏水のため水道停止のまま、電気も漏電のため使えない場所多めのまま
- 次に地震が起きたとき、家のどこに逃げれば安全かがわからない、倒壊の危険性があるため
- 今後の見通しが立たない
- 行政の情報が届きにくい
- 家の修理が終わっていない。順番待ちをしている
- 依頼済みの修理が業者が忙しく順番がなかなか回ってこない
- 荷物がなかなか片付けられず、居候生活が伸びている

(欄外記述)

(ろう者・きこえにくい者)

- ・屋根修理がまだ完了していない。
- ・業者との連絡方法がわからない。
- ・家のひびがだんだん大きくなっているのが不安になる。R7年1月1日PM4時が近づいてくると息が苦しくなった。

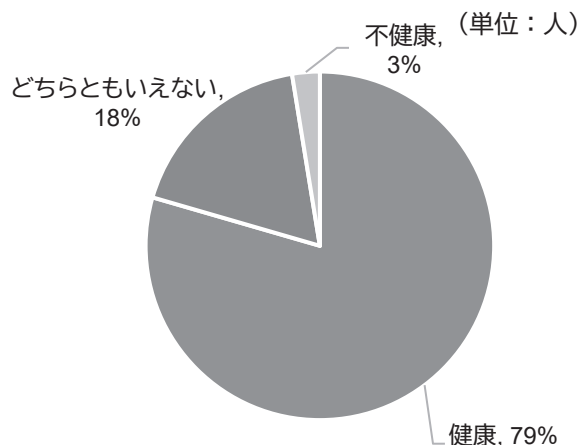
(きこえる者)

- ・津波、地震発生時の夢を見る。対策本部からの支援物資(特に水)が本当にありがたかったです！
- ・余震が来ると1/1を思い出し体が固まる(身構える)。

問31. 現在、身体は健康ですか。

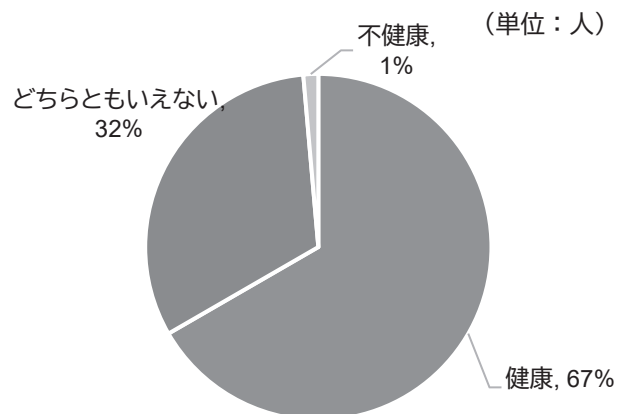
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
健康	31
どちらともいえない	7
不健康	1
合計	39



(きこえる者) (単位：人)

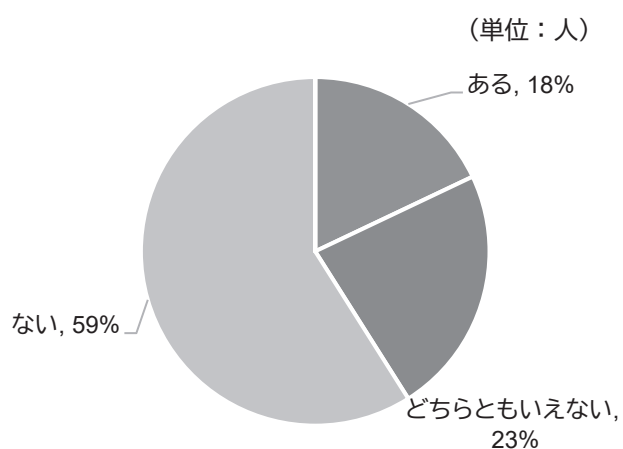
選択肢	回答数
健康	48
どちらともいえない	23
不健康	1
合計	72



問32. 元日の震災を思い出し、息苦しくなったり、動悸が激しくなる、不安で眠れなくなる、などいわゆるトラウマの症状はありますか。

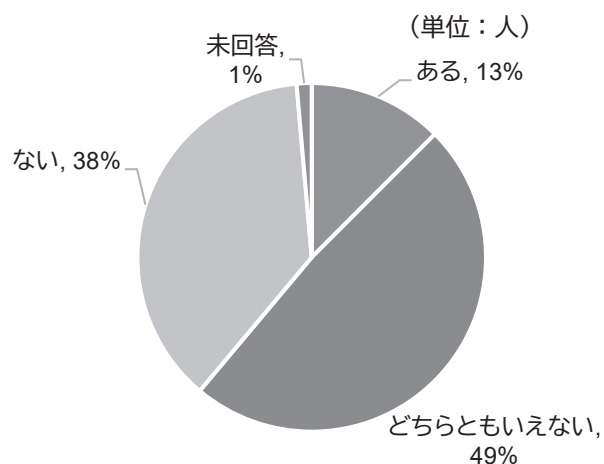
(ろう者・きこえにくい者) (単位：人)

選択肢	回答数
ある	7
どちらともいえない	9
ない	23
未回答	0
合計	39



(きこえる者) (単位：人)

選択肢	回答数
ある	9
どちらともいえない	35
ない	27
未回答	1
合計	72



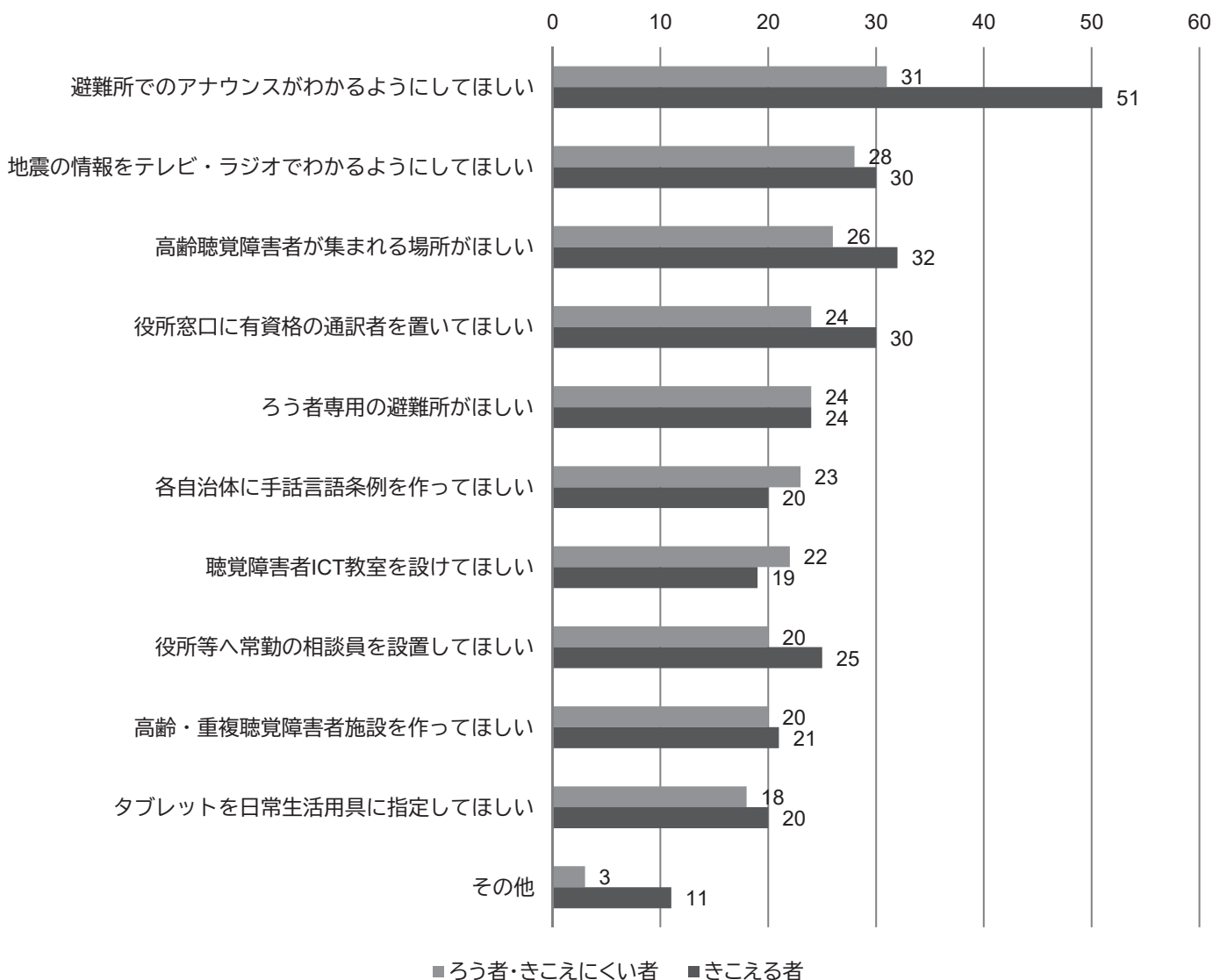
問33. 石川県内のきこえない人の生活環境の改善に向けて、必要だと感じることを教えてください。

(複数回答)

(単位：人)

選択肢	ろう者・きこえにくい者	きこえる者
地域で水・食料情報がわかるようにしてほしい	32	45
聴覚障害理解講座、啓発を進めてほしい	32	40
避難所でのアナウンスがわかるようにしてほしい	31	51
地震の情報をテレビ・ラジオでわかるようにしてほしい	28	30
高齢聴覚障害者が集まれる場所がほしい	26	32
役所窓口到有資格の通訳者を置いてほしい	24	30
ろう者専用の避難所がほしい	24	24
各自治体に手話言語条例を作してほしい	23	20
聴覚障害者ICT教室を設けてほしい	22	19
役所等へ常勤の相談員を設置してほしい	20	25
高齢・重複聴覚障害者施設を作してほしい	20	21
タブレットを日常生活用具に指定してほしい	18	20
その他	3	11

(単位：人)



その他(ろう者・きこえにくい者)

避難所にろうあ者のスペースがあれば
情報・コミュニケーション条例を作してほしい(2件)

その他(きこえる者)

自身で使える情報ツールや相談できる人間を行政だけでなくろうあ協会やサークル、ご近所で率先して準備しておくことが大切
精神・身体障がい者への理解
自治体ごとに有資格の通訳者を置いてほしい
きこえない人が住んでいる町内の人への理解、啓発、交流の機会
手話を学習している人でも気軽に児童等と使うことができらうれしく思います。言語という縛りがあり、軽々しく使用「不可」と知りました
難聴者と健聴者が交流できる場所づくり
各市町村に1名の通訳者がいてほしい(常勤してほしい)
地域の聴覚障害者就労支援事業所を非常時に一時避難所として開放するなど既存のシステムを緊急時に転用する仕組みづくり
情報・コミュニケーション条例を作してほしい(3件)

(欄外記述)

(ろう者・きこえにくい者)

- ・花瓶が5つ落ちた。夫は視覚障害があり、津波警報を聞いてパニックに。ともに自分もパニックになり、邑知公民館に夫の父と3人で避難した。
- ・色々な業者が来るが高いのでどこを信じてよいのかわからない。本当にそれだけのお金がかかるのか、嘘なのかわからない。
- ・1/22ココス電気ついた。
- ・現在自宅で生活しているが隣の家全壊。そのために解体業者が来て重機が入って家の角に当たりガラス戸を割ったり角をぶつけて柱を折ったりしたが泣き寝入りかな?と思ったがあとから治すと言ってきた。手の込んだところはもういいですと断った。ガラス戸等は厚いガラスを薄いガラスに入れ替わった。
- ・書いて貼る。
- ・地震の後すぐ家族(夫・息子)3人、横浜へ避難し3カ月後に戻りましたので参考にはなりません。

(きこえる者)

- ・能登中部には集まれる場がないのは残念。市町が共同で運営できないでしょうか?送迎を確保すれば点在している高齢ろう者の居場所ができるのではないかと思います。
- ・義援金ありがとうございました。助かります。大切にさせていただきます。

